



第45図 鷺足館跡 平場A-5・緩斜面2・平場B-11~14 平面図

(5) 平場 A-6(第25・46～48 図)**【平場 A-6】** (第25・46～48 図)

【位置】 E 区の標高 127.5～130.4m の尾根上に位置する。平場 A-6 は鷺足館跡の中で最も西端にある平場に位置付けられる。平場 A-6 の北・南側は急斜面で、西側には急斜面・溝跡 (SD10)、東側の尾根上には土塁 1・2 と溝跡 (SD8・9) が所在する。土塁 1・2 のさらに東の尾根には鷺足館跡で最も標高が高い平場がある。

【検出遺構】 平場平坦面の中央やや南東に位置し、東西 6m・南北 4m、面積 15 m² ほどの平坦面がさらに作り出されており (第 46 図写真 2)、その範囲内で掘立柱建物跡 3 棟 (SB31～33) を検出した。

【規模・形状】 南西-北東 35.2m、北西-南東 7.2～9.3m、面積約 270 m² で、南西-北東方向に長い平場である。平場斜面の傾斜角度は、北斜面が約 32°、南斜面が約 33°、西斜面が約 32° である。

【出土遺物】 なし。



1. 平場 A-6 平坦面 完掘状況 (東から撮影)

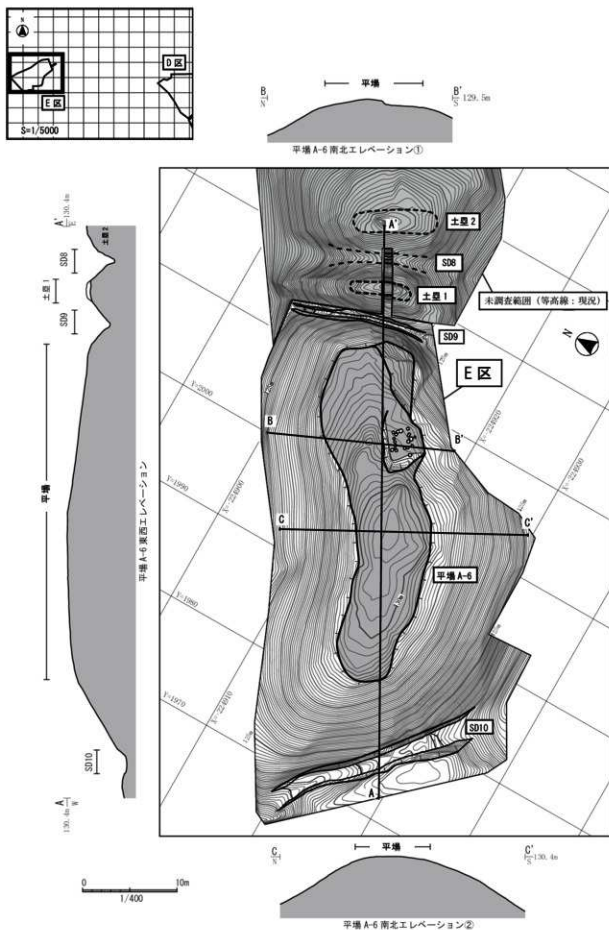


2. 平場 A-6 上の平坦面 (東から撮影)

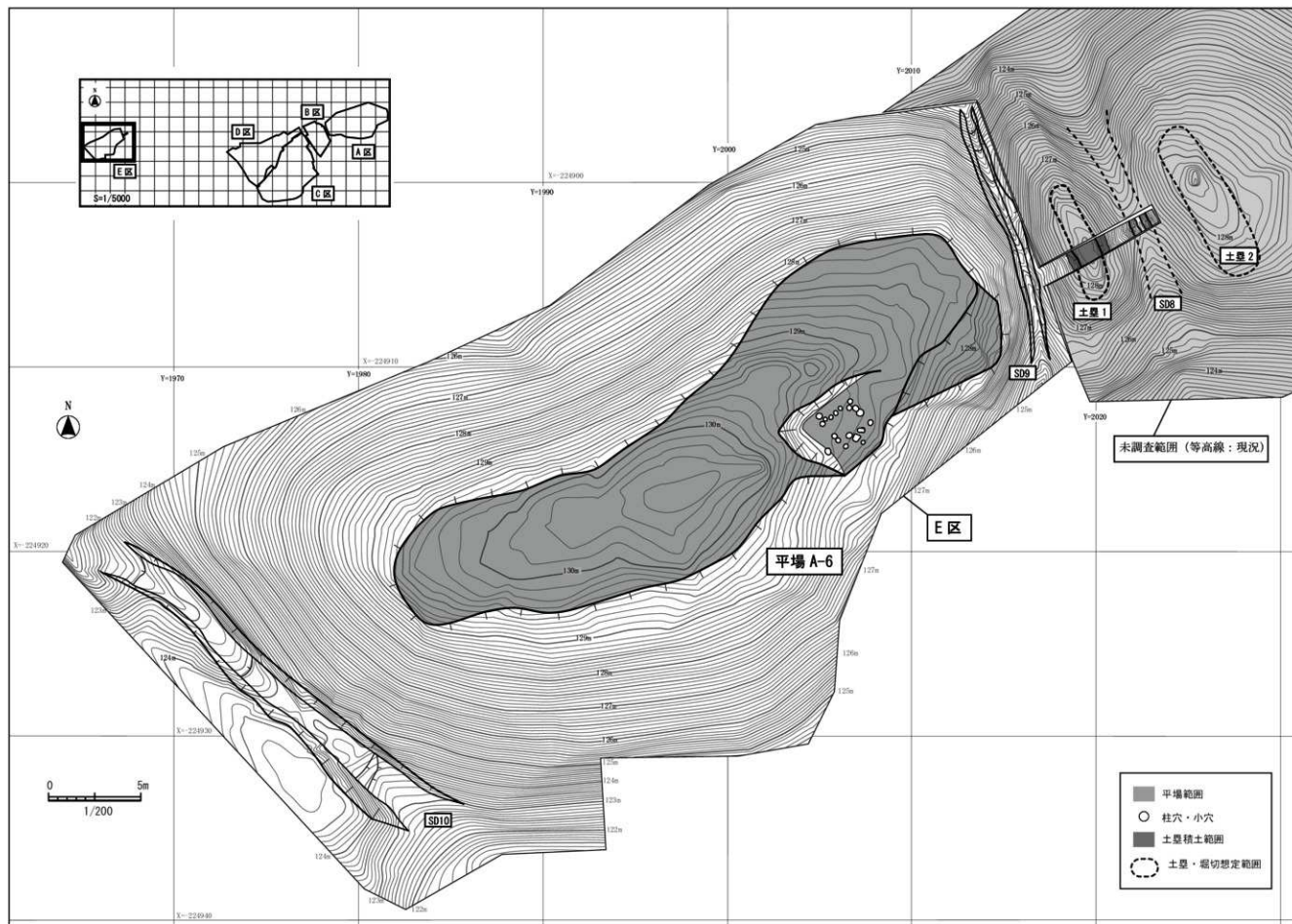


3. 平場 A-6 西側の斜面周辺の状況 (南から撮影)

第46図 平場A-6の状況



第47図 鷺足館跡 平場A-6エレベーション図



第48図 鷺足館跡 平場A-6 平面図



鷺足館跡 平場の調査風景

2 土塁跡

今回の調査では、E区平場A-6の東側の地点で土塁跡1条（土塁跡1）を検出した（個別平面図：第23図参照）。以下、その詳細について記載する。

【土塁跡1】（第49～51図）

【概要】 E区平場A-6の東側に位置する。土塁跡1の西隣にSD9溝跡、東隣にSD8溝跡があり、SD8溝跡の東側には調査区外ではあるが土塁と推定される土塁跡2がある。これらは南北方向に並行する位置関係にある。検出位置の標高は128.5mほどで、調査前でも土塁状の高まりが目視で確認できる状況であった。

土塁跡1の位置は今回の工事の範囲外であり、本来は調査不要な箇所ではあったが、その西側に位置するSD9溝跡東端までが工事により切土される範囲であったことから、地権者の承諾のもと、状況を把握するため一部の調査を行った。なお、調査後は、調査箇所を埋戻し保存している。

【重複】 なし。

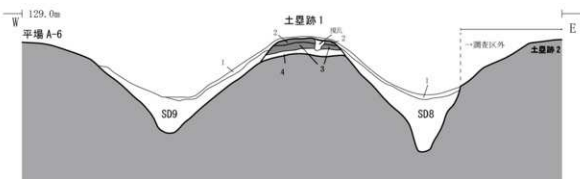
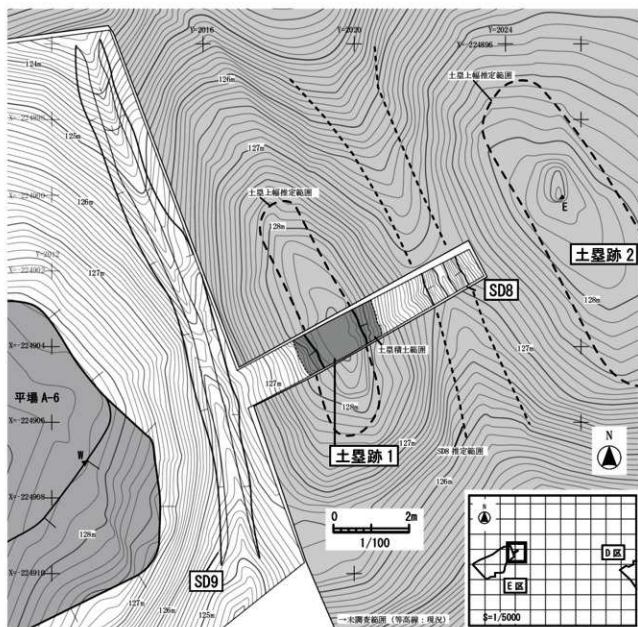
【規模・形状】 南-北方向に細長い土塁で、その推定範囲は土塁の上幅で南北6.5m、東西1.3mほどである。土塁に隣接するSD8溝跡底面と土塁跡1の頂部との比高差は150cm、SD9溝跡底面と土塁跡1の頂部との比高差は125cmである。

【積土】 2層確認した（第50図土層断面2・3層）。土塁は、地山直上に堆積している旧表土（第50図土層断面4層）の上に、地山由来の土を盛って造成されている。土塁積土の断面形は台形状で、残存している厚さは30cmほどである。積土は、上層（2層）：地山由来の細かい地山粒子を多く含む層と下層（3層）：地山ブロックを多量含む層に分けられ、土塁の東西に位置するSD8・9溝跡の掘削排土を利用して造成されたと考えられる。SD8・9溝跡の埋没状況を踏まえると、土塁跡1の積土の厚さは現況以上だったと推定される。

【出土遺物】 なし。



第49図 土塁跡1 調査前の状況（南から）



【土壘1 土層注記】

層	土色	土性	備考
1	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	表土。
2	黄褐色(2.5Y5/3)	砂質シルト	地山粒子含む。土壘積土(人為)。
3	黄褐色(2.5Y5/4)	砂質シルト	地山ブロック多く含む。土壘積土(人為)。
4	にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂質シルト	旧表土。

第50図 土壘跡1 平面・断面図



第51図 土塁跡1 完掘状況・土層断面

3 溝跡

今回の調査では、溝跡10条(SD1~10)を検出した。このうち、SD1・2溝跡はB区緩斜面1(個別平面図：第12・15図)、SD6溝跡はD区平場B-14(個別平面図：第17図)、SD3~5・7溝跡はD区平場A-5(個別平面図：第16・18図)、SD8~10はE区平場A-6の周辺(個別平面図：第23・24図)で確認した。以下、それぞれの詳細について記載する。

【SD1溝跡】(第52・53図)

【位置】 B区緩斜面1西半の標高80.0m付近の緩斜面で検出した。

【重複】 溝跡の北端部分は緩斜面1北端に広がる整地層下で確認した(SD1→整地層)。

【規模・形状】 南-北方向に延びる溝で、溝の北端が標高77.5m付近、南端が標高79.5m付近で途切れる。検出長10.78m、上幅59~149cm、下幅35~128cm、深さ24cm、底面の標高は溝の中央部が高く、北側・南側が低い。溝の断面形はU字形である。

【堆積土】 3層確認した。いずれも自然堆積層である。

【出土遺物】 なし。

【SD2溝跡】(第52・53図)

【位置】 B区緩斜面1西半の標高77.2m付近の緩斜面で検出した。溝の南端は平場B-2と接続する。

【重複】 溝跡の北端部分は緩斜面1北端に広がる整地層下で確認した。SA13・P325と重複し、これより古い。SA13・P325についても整地層下で検出されていることから「SD2→SA13→整地層」の新旧関係となる。

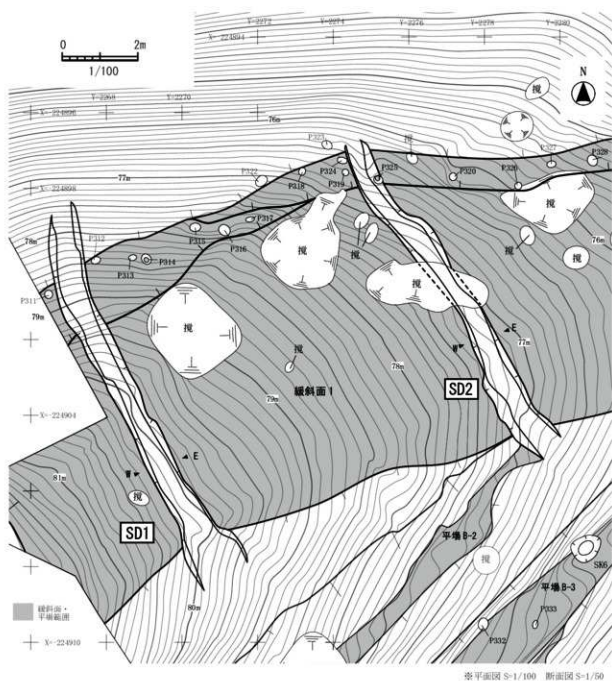
【規模・形状】 南-北方向に延びる溝で、溝の北端が標高76.4m付近、南端が標高76.7m付近で途切れ、南端は平場B-2と接続する。検出長9.65m、上幅60~98cm、下幅46~60cm、深さ20cm、底面の標高は溝の中央部が高く、北側・南側が低い。溝の断面形はU字形である。

【堆積土】 2層確認した。いずれも自然堆積層である。

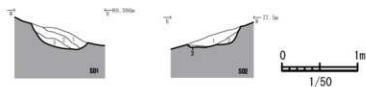
【出土遺物】 なし。



第52図 SD1・2溝跡 完掘状況(西から)

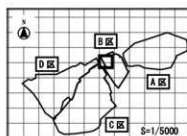


※平面図 S-1/100 断面図 S-1/50



【SD1・2 土層注記】

	層	土色	土性	備考
SD1	1	にぶい褐色(10YR5/3)	砂質シルト	地山粒子含む。
	2	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	地山粒子含む。
	3	にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂質シルト	地山粒子多く含む。
SD2	1	にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂質シルト	地山粒子含む。
	2	にぶい黄褐色(10YR6/3)	砂質シルト	地山粒子含む。



第53図 SD1・2 溝跡 平面・断面図

【SD3 溝跡】（第54・55図）

【位置】 D区平場A-5北西端の標高105.8～107.8m付近の平坦面で検出した。

【重複】 なし。

【規模・形状】 北西-南東方向に延びる溝で、溝の北西部は標高107.8m付近で途切れ、南東部端は標高106.3m付近から底面が階段状になりSD4溝跡に接続する。検出長約10.89m、上幅41～109cm、下幅29～69cm、深さ10cm、底面の標高は溝の北西部が高く、南東部が低い。溝の断面形は皿状である。

【堆積土】 1層確認した。自然堆積層である。

【出土遺物】 なし。

【SD4・5 溝跡】（第54・55図）

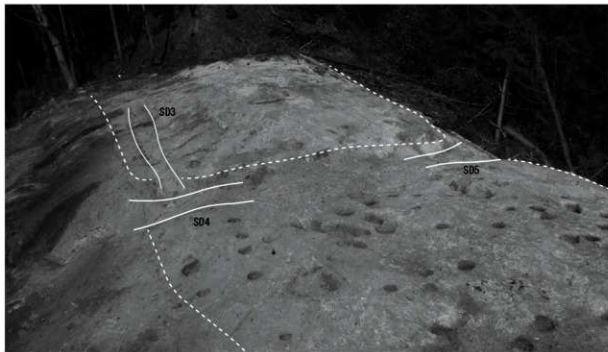
【位置】 D区平場A-5北西端の標高104.7～106.0m付近の平坦面で検出した。SD4溝跡は平場A-5上の南西端、SD5溝跡は平場A-5上の北東端に位置する。SD4・5溝跡は、その形状・位置関係から本来は同一の溝であったと考えられる。なお、SD4溝跡の中央北壁はSD3溝跡と接続する位置関係にあり、また、平場A-5の平坦面はこのSD4・5溝跡を境にその北西側が一段高くなる。

【重複】 SD4は平場A-5西端の整地層造成後につくられている（平場A-5整地層→SD4）。

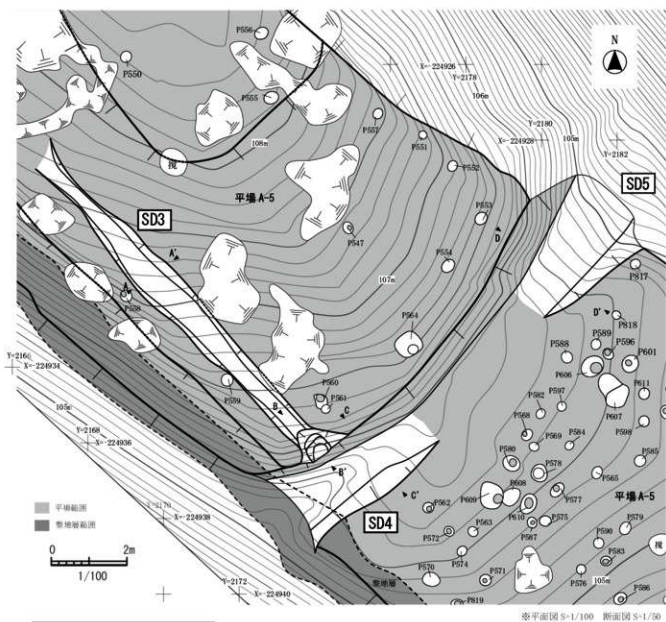
【規模・形状】 北東-南西方向に延びる溝で、SD4溝跡は溝の南西端が標高105.3m付近、北東端が標高105.9m付近で途切れ、検出長3.95m、上幅172～203cm、下幅93～133cm、深さ20cm、底面の標高は溝の北東部が高く、南西が低い。SD5溝跡は溝の南西端が標高105.7m付近、北東端が標高104.8m付近で途切れ、検出長3.57m、上幅198～278cm、下幅105～179cm、深さ45cm、底面の標高は溝の北東部が高く、南西が低い。溝の断面形は、SD4・5溝跡ともに皿状である。

【堆積土】 SD4・5溝跡ともに1層確認した。自然堆積層である。

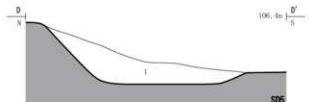
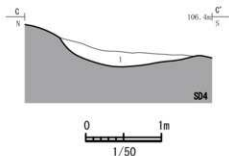
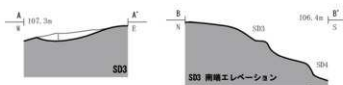
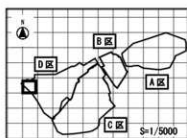
【出土遺物】 なし。



第54図 SD3～5 溝跡 完掘状況（南東から）



表平面図 S-1/100 断面図 S-1/50



【SD3～5 土層注記】

層	土色	土性	備考
1	にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂質シルト	地山粒子含む。

第55図 SD3～5 溝跡 平面・断面図

【SD6 溝跡】 (第56・57図)

【位置】 D区緩斜面2の尾根上に位置する平場B-14の標高95.0m付近の平坦面で検出した。

【重複】 平場B-14の平坦面造成後につくられている(平場B-14→SD6)。

【規模・形状】 北-南方向に延びる溝で、溝の北端は標高94.5m付近で平場B-12と接続する。溝の南端は調査区外へと延びるが、地形的にみて平場B-14の南斜面上部で途切れるとみられる。検出長9.01m、上幅89～195cm、下幅21～95cm、深さ46cm、底面の標高は溝の中央が高く、南・北側が低い。溝の断面形は皿状である。

【堆積土】 1層確認した。自然堆積層である。

【出土遺物】 なし。

【SD7 溝跡】 (第58図)

【位置】 D区平場A-5中央部の標高104.0～104.5m付近の平坦面で検出した。

【重複】 溝の西端・中央部・東端が攪乱を受け残存していない。

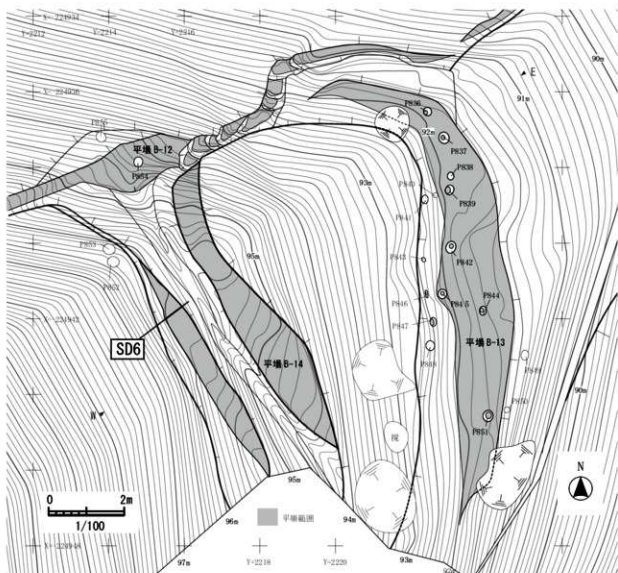
【規模・形状】 東-西方向に延びる溝で、その残存状況からみて、平場A-5の平場上を東西に横断せず、平場の東端から中央部付近まで延び途切れる溝と考えられる。検出長約5.14m、上幅76～156cm、下幅54～109cm、深さ11cm、底面の標高はほぼ平坦であるが、溝の東側がわずかに低い。溝の断面形は皿状である。

【堆積土】 1層確認した。自然堆積層である。

【出土遺物】 なし。

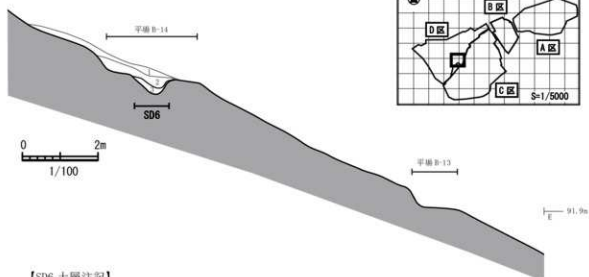


第56図 SD6 溝跡 完掘状況(北から)



表平面図・断面図 S-1/100

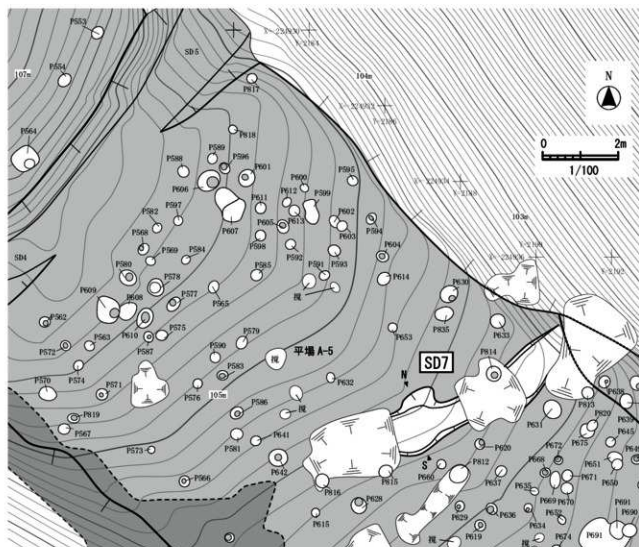
— 97.9m



【SD6 土層注記】

層	土色	土性	備考
1	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト	炭化物片・地山粒子含む。平場B-14堆積土。
2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	地山粒子・地山ブロック含む。平場B-14堆積土。
3	にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂質シルト	地山粒子多く含む。SD6堆積土。

第57図 SD6 溝跡 平面・断面図

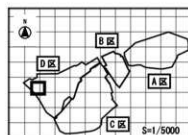


※平面図 S-1/100、断面図 S-1/50



【SD7 土層注記】

層	土色	土性	備考
1	にぶい・黄褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	地山粒子・地山ブロック含む。



第58図 SD7 溝跡 平面・断面図

【SD8 溝跡】（第59・60図）

【位置】 E区平場A-6東側に位置する土塁跡1の東隣に位置する。西側の土塁跡1・SD9溝跡、調査区外東側の土塁跡2とは並行関係にある。その検出位置は標高127m前後の地点で、調査前の状況はわずかに溝状の窪みがあり、その存在が目視で確認できる状況であった。SD8溝跡の位置は今回の工事の範囲外であり、本来は調査不要な箇所ではあったが、西側に位置するSD9溝跡東端までが工事により切土される範囲であったことから、地権者の承諾のもと、状況を把握するため一部の調査を行った。なお、調査後は、調査箇所を埋戻し、保存している。

【重複】 なし。

【規模・形状】 南-北方向に延びる溝で、遺構の北側・南側は調査区外に延びる。溝跡の規模は、下幅が26cm前後で、SD8底面と土塁跡1の頂部との比高差は150cmほどである。溝の断面形はV字形を呈し、底面は平坦である。

【堆積土】 8層確認した（第60図断面図1～8層）。いずれも自然堆積層である。

【出土遺物】 なし。

【SD9 溝跡】（第59・60図）

【位置】 E区平場A-6東側に位置する土塁跡1の西隣に位置する。東側の土塁跡1・SD9溝跡、調査区外東側の土塁跡2とは並行関係にある。その検出位置は標高126m前後の地点で、SD8溝跡と同様、調査前の状況はわずかに溝状の窪みがあり、その存在が目視で確認できる状況であった。

【重複】 なし。

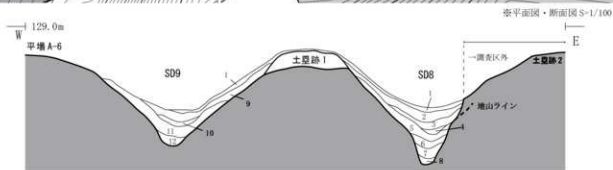
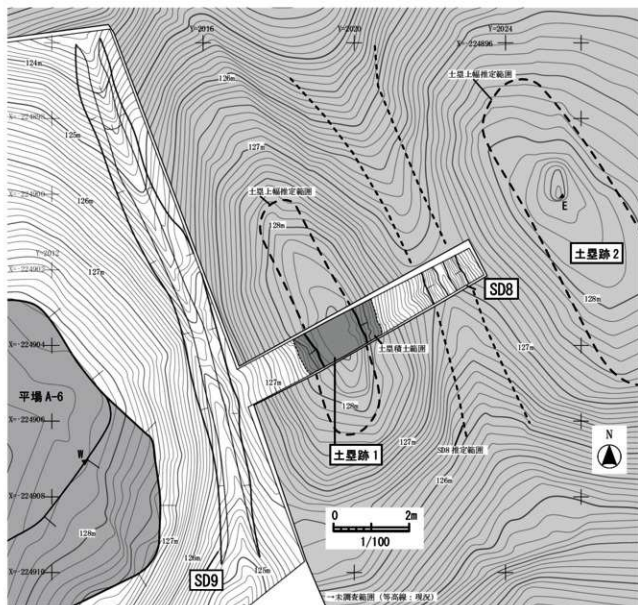
【規模・形状】 南-北方向に延びる溝で、遺構の北側は標高123.4m付近、南側は標高125.1m付近で途切れる。溝跡の規模は、下幅が35～76cmで、SD9底面と土塁跡1の頂部との比高差は125cm、平場A-6東端平坦面との比高差は120cmほどである。底面の標高は溝の中央が高く、南・北側が低い。溝の断面形はV字形を呈し、底面は平坦である。

【堆積土】 5層確認した。いずれも自然堆積層である（第60図断面図1・9～12層）。

【出土遺物】 なし。

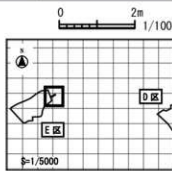


第59図 SD9 溝跡 断面（南から）



【SD8・9 土層注記】

層	土色	土性	備考
1	にぶい、黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	表土
2	にぶい、黄褐色(10YR5/3)	砂質シルト	埴山粒子含む
3	にぶい、黄褐色(10YR6/4)	砂質シルト	埴山粒子含む
4	にぶい、黄褐色(10YR6/3)	砂質シルト	埴山粒子含む
5	にぶい、黄色(2.5Y6/3)	砂質シルト	埴山粒子含む
6	にぶい、黄色(2.5Y6/3)	砂質シルト	埴山粒子含む
7	にぶい、黄色(2.5Y6/4)	砂質シルト	埴山粒子含む
8	黄褐色(2.5Y5/3)	砂質シルト	埴山ブロック・埴山粒子含む
9	にぶい、黄褐色(10YR6/4)	砂質シルト	埴山粒子含む
10	にぶい、黄色(2.5Y6/4)	砂質シルト	埴山粒子含む
11	にぶい、黄色(2.5Y6/3)	砂質シルト	埴山粒子含む
12	にぶい、黄色(2.5Y6/4)	砂質シルト	埴山ブロック・埴山粒子含む



第60図 SD8・9 溝跡 平面・断面図

【SD10 溝跡】(第 61・62 図)

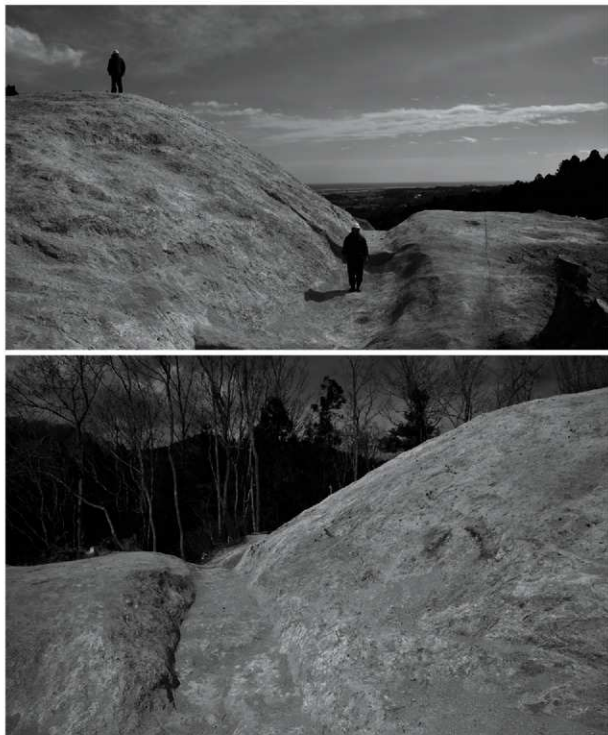
【位置】 E 区平場 A-6 西側の急斜面下に位置する。その検出位置は標高 122~124m 前後の地点である。調査前の状況はわずかに溝状の窪みがあり、その存在が目視で確認できる状況であった。

【重複】 なし。

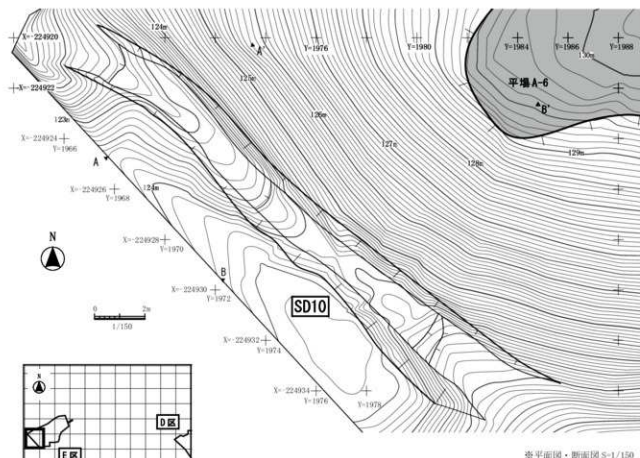
【規模・形状】 北西-南東方向に延びる溝で、遺構の北西側は標高 122m 付近、南側は標高 123m 付近で途切れる。溝跡の規模は、下幅が 130~228cm で、SD10 底面と平場 A-6 西端平坦面との比高差は 5.5m ほどである。底面の標高は溝の中央が高く、南・北側が低い。溝の断面形は U 字形を呈し、底面は平坦である。

【堆積土】 4 層確認した。いずれも自然堆積層である。

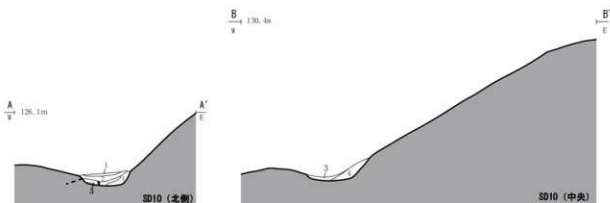
【出土遺物】 なし。



第61図 SD10 溝跡 完掘状況 (写真上段: 北西から/写真下段: 南東から)



垂直断面・断面図 S-1/150



【SD10 土層注記】

層	土色	土性	備考
1	黄褐色(2.5Y5/3)	砂質シルト	地山粒子・黒色土粒子含む。
2	灰黄色(2.5Y6/2)	砂質シルト	地山粒子含む。
3	にぶい黄色(2.5Y6/3)	砂質シルト	地山粒子含む。
4	にぶい黄色(2.5Y6/4)	砂質シルト	地山ブロック含む。地山粒子多く含む。

第62図 SD10 溝跡 平面・断面図

4 掘立柱建物跡、柱穴列跡、その他の柱穴・小穴

今回の調査では、875個の柱穴跡・小穴を検出した。これらの柱穴・小穴の多くは、掘立柱建物跡や柱穴列跡などを構成する柱穴であったと考えられる。検出した875個の柱穴・小穴を検討した結果、掘立柱建物跡33棟、柱穴列跡70条を抽出することができた。以下、柱穴・小穴の調査方法と建物の認定基準、確認した建物の詳細、その他の柱穴・小穴の特徴について記載する。

(1) 柱穴・小穴の調査方法と掘立柱建物跡の認定方法

本項で報告する掘立柱建物跡については、次の手順で検討を行い、その認定を行った。また、検出した柱穴・小穴の調査方法は以下のとおり行った。

【柱穴・小穴の調査方法】

今回の調査では、現場での建物検討時間の確保のため、柱穴の一部の記録作成の省略（単層ないし柱痕跡のない小穴の断面図作成の省略、柱穴・小穴の下場計測の省略）を行った。一方で、今後も建物の再検討ができる情報を記録・提示するために、柱痕跡の有無の確認、重複関係の確認、柱穴・小穴すべての土層注記作成、底面標高の記録、柱穴の断面写真撮影は徹底して行い、本報告に検出した柱穴・小穴すべての情報（平面・属性表）を掲載することとした。

【建物・柱穴列の認定基準】

- ① 建物については、柱通り・柱の対応関係のよいもので、歪みの少ない四角形・長方形となるものを建物として認定した。また、柱通り・柱の対応関係が多少悪い場合でも、柱列が平行し、隅柱の位置が対応する歪みの少ないものも建物として認定した。
- ② 柱穴列については、原則として直線的に柱穴がある程度一定の間隔で並ぶものを優先して「柱穴列」として認定したが、山城の性格を踏まえ、平場の端部などにおいては「L」字形や「へ」字形になるものも柱穴列として採用した。

【建物・柱穴列抽出の手順】

建物の抽出作業は、原則として、現地調査の段階で行い、その後、整理作業段階でそれらの建物についての再検討を行うといった2段階での作業を経て建物・柱穴列を認定した。

(現地作業での手順)

- ① 遺構検出段階で、柱穴及び柱痕跡のプランを測量して作成した白図をもとに建物・柱穴列を検討。
- ② 柱穴精査（半裁）時に遺構の重複関係・深さ・埋土の状態を確認し、①で検討した建物・柱穴列と照らし合わせ、切合の矛盾や柱筋等を考慮しながら再度検討。
- ③ ①と②の検討により、建物・柱穴列として想定しても差し支えないと判断できたものを建物・柱穴列として認定。
- ④ 建物・柱穴列として認定できなかった柱穴のみを抽出し、かつ、柱穴群の周囲を再度精査し、柱穴の検出漏れがないか確認した上で、残った柱穴で再度建物を検討。

(整理作業での手順)

- ① 現地調査で認定した建物・柱穴列の方向・軸をもとに、再度余った柱穴で建物を検討。
検討にあたっては、現場で作成した柱穴の属性表（埋土・底面標高などの情報）を参考にした。
- ② 現地調査で認定した建物・柱穴列の再確認（より大型にならないか、建物として無理がないか、庇等の付属施設がないかなどの再確認）。

以上の方法により、掘立柱建物跡・柱穴列跡を認定したが、これらを構成する柱穴として判断できたものは875個中601個（全体の7割程度）であり、約3割の「柱穴・小穴」が残る結果となった。これらの残された柱穴・小穴の多くは、本来、建物等を構成する柱穴であったと考えられ、今回の調査区内ではさらに建物・柱穴列などが存在したと推定される。このことから、今回報告する建物・柱穴列については、今後の掘立柱建物等の研究の進展、建物群の再検討等により、変更・追加する可能性があることを申し添えておきたい。

（2）検出した掘立柱建物跡・柱穴列跡

今回の調査では、掘立柱建物跡33棟（SB1～33）、柱穴列跡70条（SA1～70）を検出した（第64～71図）。以下、それぞれの詳細について記載する。なお、本書での掘立柱建物跡・柱穴列跡の情報掲載にあたっては、柱穴規模・柱間寸法・傾きなどの各計測値、柱穴の土層観察表、平面図の表記方法は以下のとおりとした。

【掘立柱建物跡総括表（一覧表）の記載方法】

遺構 No.	建物形状		平面規模 (m) 長() 西・南・北・東 測定値() 西・南・北・東の計測値				建物の方向		建物 面積 (㎡)	備考					
	南行	北行	南行規模・測定値・傾き・柱間寸法	北行規模・測定値・傾き・柱間寸法	東行規模・測定値・傾き・柱間寸法	西行規模・測定値・傾き・柱間寸法	建物傾斜角度・真北基準	建物方位 (方位)							
SB1	3	11>2	東西	5.7	南	3.4+2.1+2.2	4.2 (南-北)	西	DAJ	2.2+2.0	西	N1°E	-W	23.9	検出: P16~P19・P21・P22・P23・P24・P25・P26・P27・P28・P29・P30・P31・P32・P33・P34・P35・P36・P37・P38・P39・P40・P41・P42・P43・P44・P45・P46・P47・P48・P49・P50・P51・P52・P53・P54・P55・P56・P57・P58・P59・P60・P61・P62・P63・P64・P65・P66・P67・P68・P69・P70・P71・P72・P73・P74・P75・P76・P77・P78・P79・P80・P81・P82・P83・P84・P85・P86・P87・P88・P89・P90・P91・P92・P93・P94・P95・P96・P97・P98・P99・P100・P101・P102・P103・P104・P105・P106・P107・P108・P109・P110・P111・P112・P113・P114・P115・P116・P117・P118・P119・P120・P121・P122・P123・P124・P125・P126・P127・P128・P129・P130・P131・P132・P133・P134・P135・P136・P137・P138・P139・P140・P141・P142・P143・P144・P145・P146・P147・P148・P149・P150・P151・P152・P153・P154・P155・P156・P157・P158・P159・P160・P161・P162・P163・P164・P165・P166・P167・P168・P169・P170・P171・P172・P173・P174・P175・P176・P177・P178・P179・P180・P181・P182・P183・P184・P185・P186・P187・P188・P189・P190・P191・P192・P193・P194・P195・P196・P197・P198・P199・P200・P201・P202・P203・P204・P205・P206・P207・P208・P209・P210・P211・P212・P213・P214・P215・P216・P217・P218・P219・P220・P221・P222・P223・P224・P225・P226・P227・P228・P229・P230・P231・P232・P233・P234・P235・P236・P237・P238・P239・P240・P241・P242・P243・P244・P245・P246・P247・P248・P249・P250・P251・P252・P253・P254・P255・P256・P257・P258・P259・P260・P261・P262・P263・P264・P265・P266・P267・P268・P269・P270・P271・P272・P273・P274・P275・P276・P277・P278・P279・P280・P281・P282・P283・P284・P285・P286・P287・P288・P289・P290・P291・P292・P293・P294・P295・P296・P297・P298・P299・P300・P301・P302・P303・P304・P305・P306・P307・P308・P309・P310・P311・P312・P313・P314・P315・P316・P317・P318・P319・P320・P321・P322・P323・P324・P325・P326・P327・P328・P329・P330・P331・P332・P333・P334・P335・P336・P337・P338・P339・P340・P341・P342・P343・P344・P345・P346・P347・P348・P349・P350・P351・P352・P353・P354・P355・P356・P357・P358・P359・P360・P361・P362・P363・P364・P365・P366・P367・P368・P369・P370・P371・P372・P373・P374・P375・P376・P377・P378・P379・P380・P381・P382・P383・P384・P385・P386・P387・P388・P389・P390・P391・P392・P393・P394・P395・P396・P397・P398・P399・P400・P401・P402・P403・P404・P405・P406・P407・P408・P409・P410・P411・P412・P413・P414・P415・P416・P417・P418・P419・P420・P421・P422・P423・P424・P425・P426・P427・P428・P429・P430・P431・P432・P433・P434・P435・P436・P437・P438・P439・P440・P441・P442・P443・P444・P445・P446・P447・P448・P449・P450・P451・P452・P453・P454・P455・P456・P457・P458・P459・P460・P461・P462・P463・P464・P465・P466・P467・P468・P469・P470・P471・P472・P473・P474・P475・P476・P477・P478・P479・P480・P481・P482・P483・P484・P485・P486・P487・P488・P489・P490・P491・P492・P493・P494・P495・P496・P497・P498・P499・P500・P501・P502・P503・P504・P505・P506・P507・P508・P509・P510・P511・P512・P513・P514・P515・P516・P517・P518・P519・P520・P521・P522・P523・P524・P525・P526・P527・P528・P529・P530・P531・P532・P533・P534・P535・P536・P537・P538・P539・P540・P541・P542・P543・P544・P545・P546・P547・P548・P549・P550・P551・P552・P553・P554・P555・P556・P557・P558・P559・P560・P561・P562・P563・P564・P565・P566・P567・P568・P569・P570・P571・P572・P573・P574・P575・P576・P577・P578・P579・P580・P581・P582・P583・P584・P585・P586・P587・P588・P589・P590・P591・P592・P593・P594・P595・P596・P597・P598・P599・P600・P601
SB2	4	1	東西	3.7	北	2.2+2.3+1.3+1.4	4.3	西	4.3	西	西	N10°E	-W	33.1	検出: P201~P204

※建物の規模・方向・平面規模・傾き・面積の情報を記載
※備考欄には、建物・柱穴列を構成する柱番号、重複情報、その他特記を記載

【各柱穴・小穴の個別情報の記載方法】

(例) SB1 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

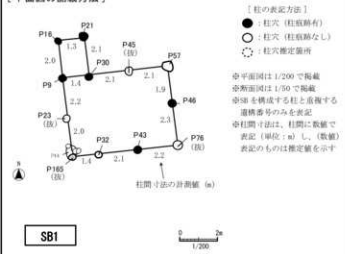
遺構 No.	柱穴・ピット番号	柱穴・ピット属性								備考		
		平面図 No.	長 (m)	短 (m)	傾 (度)	土層 No.	平面図 No.	長 (m)	短 (m)		傾 (度)	
P8	西行	13	30	18	40.4	184°+7	西行	13	31	38	あ	南-北 北に上げ
P18	東西行	19	15	16	45.2	184	西行	11	12	99	あ	
P21	東西行	19	15	16	45.2	東傾:184° 南傾:174°	東西行	19	15	18	あ	
P23	西行	13	40	20	45.2	南傾:184° 西傾:184°	-	-	-	-	有後部	
P30	東西行	19	15	16	45.2	南傾:184° 東傾:184°	西行	15	17	18	あ	東行跡
P32	西行	13	30	18	45.4	184°	-	-	-	-	-	

※()内の数字は推定値

①観望型により記号化

②その他の
記載事項参照

【平面図の記載方法】



【柱の表記方法】

- 柱 (柱痕跡有)
- 柱穴 (柱痕跡なし)
- ◎ 柱穴推定箇所

①ピット (柱穴・小穴) 類型



【柱痕跡・遺物の埋土・埋土上部型】

- 土色
 - 1: 黒褐色 (100R2/3)
 - 2: 黒褐色 (100R3/3)
 - 3: 黒褐色 (100R3/3)
 - 4: 黒褐色 (100R3/3)
 - 5: 暗褐色 (100R3/1)
 - 6: 褐色 (100R1/1)
 - 7: 灰褐色 (100R4/2)
 - 8: 灰褐色 (100R4/2)
 - 9: 灰褐色 (100R4/2)
 - 10: 灰褐色 (100R4/2)
 - 11: 灰褐色 (100R4/2)
- 土質
 - A: シルト, B: 砂質シルト
- 埋入物
 - a: 焼土ブロック含む
 - b: 焼土ブロック少量含む
 - c: 焼土断片を含む
 - d: 焼土断片少量含む
 - e: その他のもの (土質以外のもの)

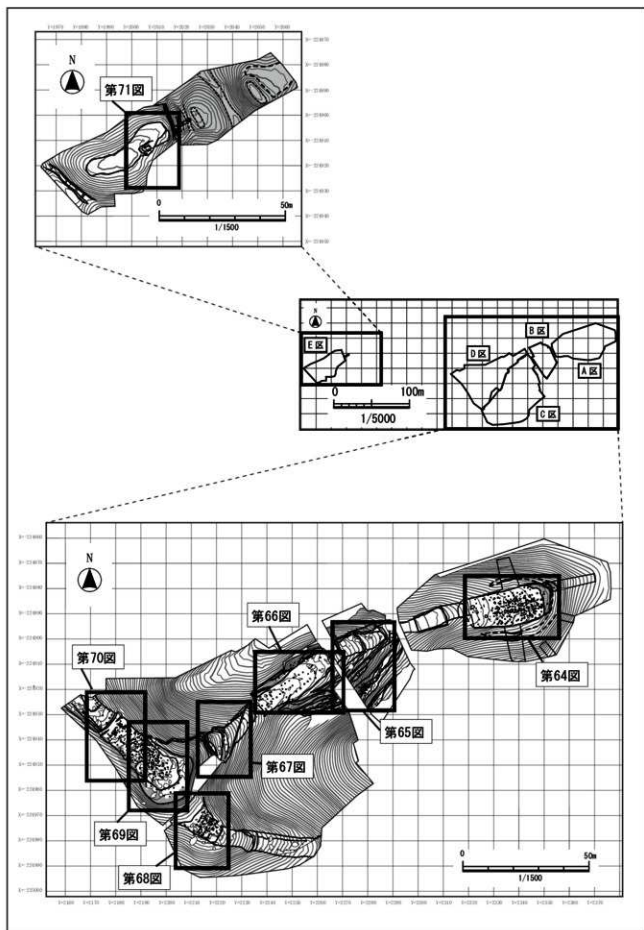
※今川遺跡の遺物埋土は、土質の内訳については記載を省略した。
遺物埋土一断面 黒土上ブロック-黒土 埋・小埋

【記録例】

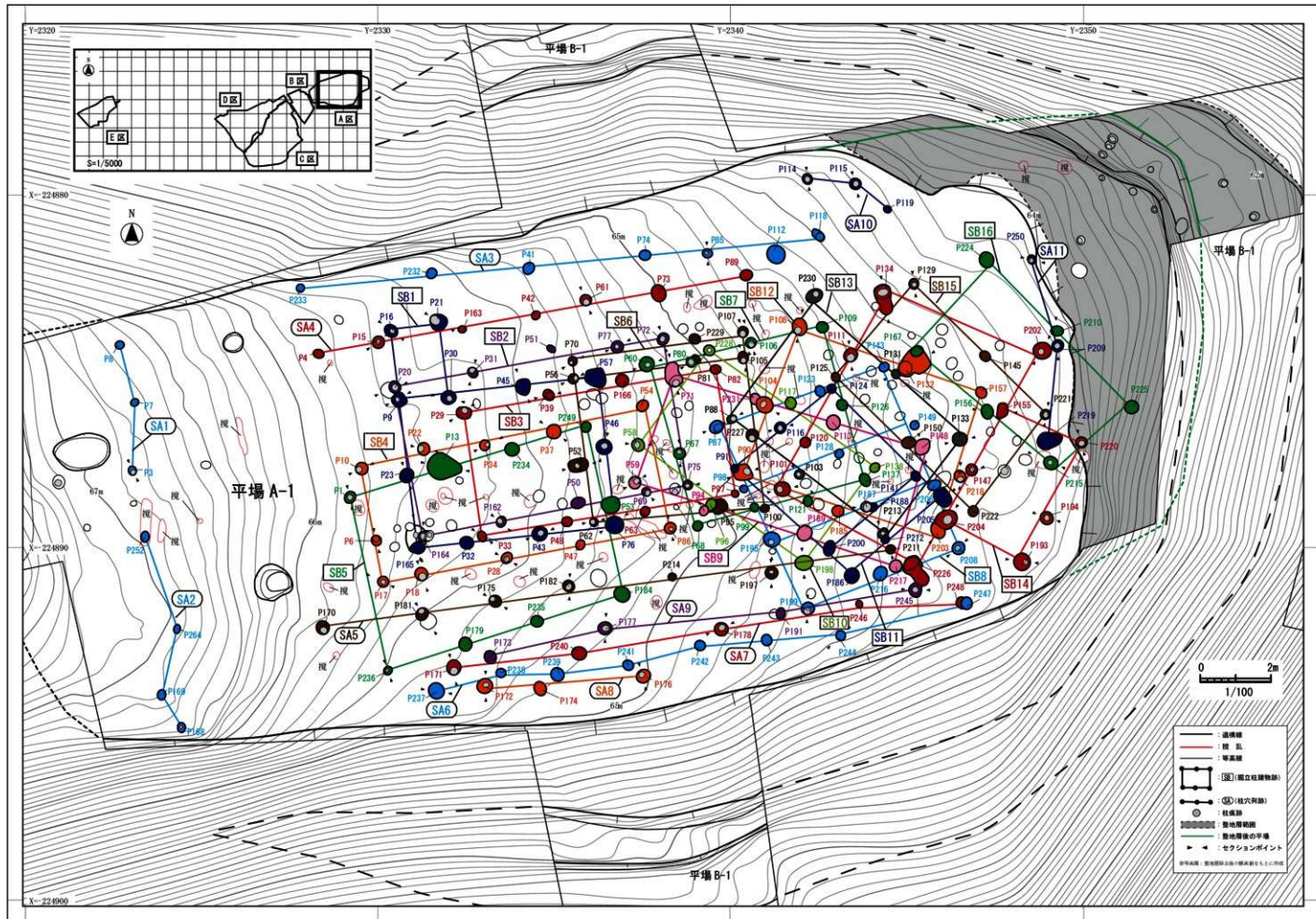
1Aa...土色:黒褐色(100R2/2),土質:シルト,埋入物:焼土ブロック含む

②その他の記載事項

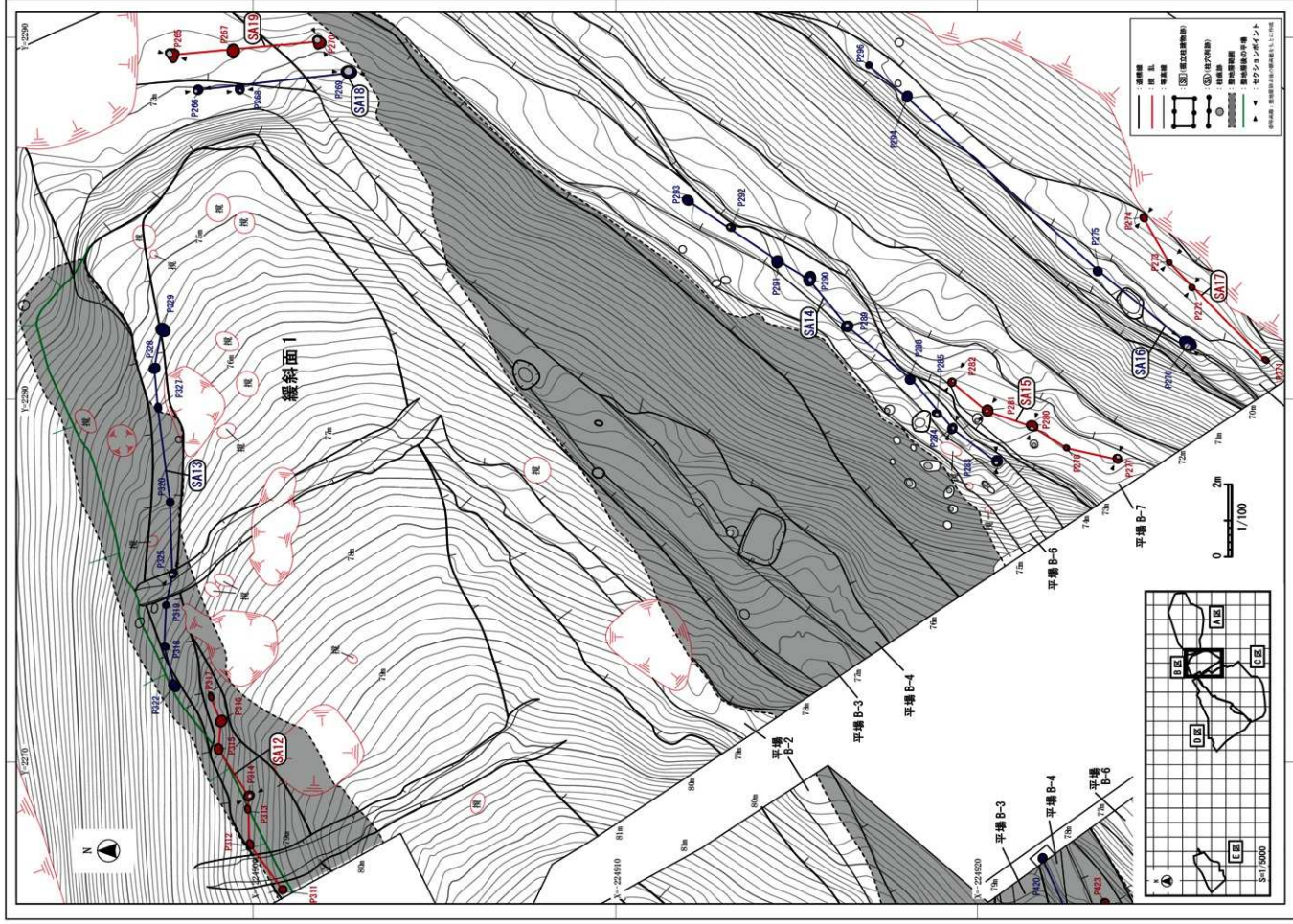
- 柱穴・ピットの計測値
 - (傾斜) は測定値を示す
- 柱穴・ピット埋土の「埋土・埋土上部」: 記載事項
 - 柱穴の場合は「埋土埋土」を意味する
 - 「埋土埋土」等の記載「柱穴・小穴」の埋土埋土は2級以上に分層した場合は示す
 - 「柱穴」: 柱穴最上層の埋土・埋土埋土 / 「柱穴」: 柱穴最下層 / 埋土埋土
 - 「切欠」: 柱穴最上層の埋土・埋土埋土 / 「切欠」: 柱穴最下層 / 埋土埋土
- 遺物の記載事項
 - 柱痕跡: 柱穴に埋められているもの
 - 柱痕跡: 柱穴に埋められていないもの
 - その他: 遺物埋土・出土遺物を記載



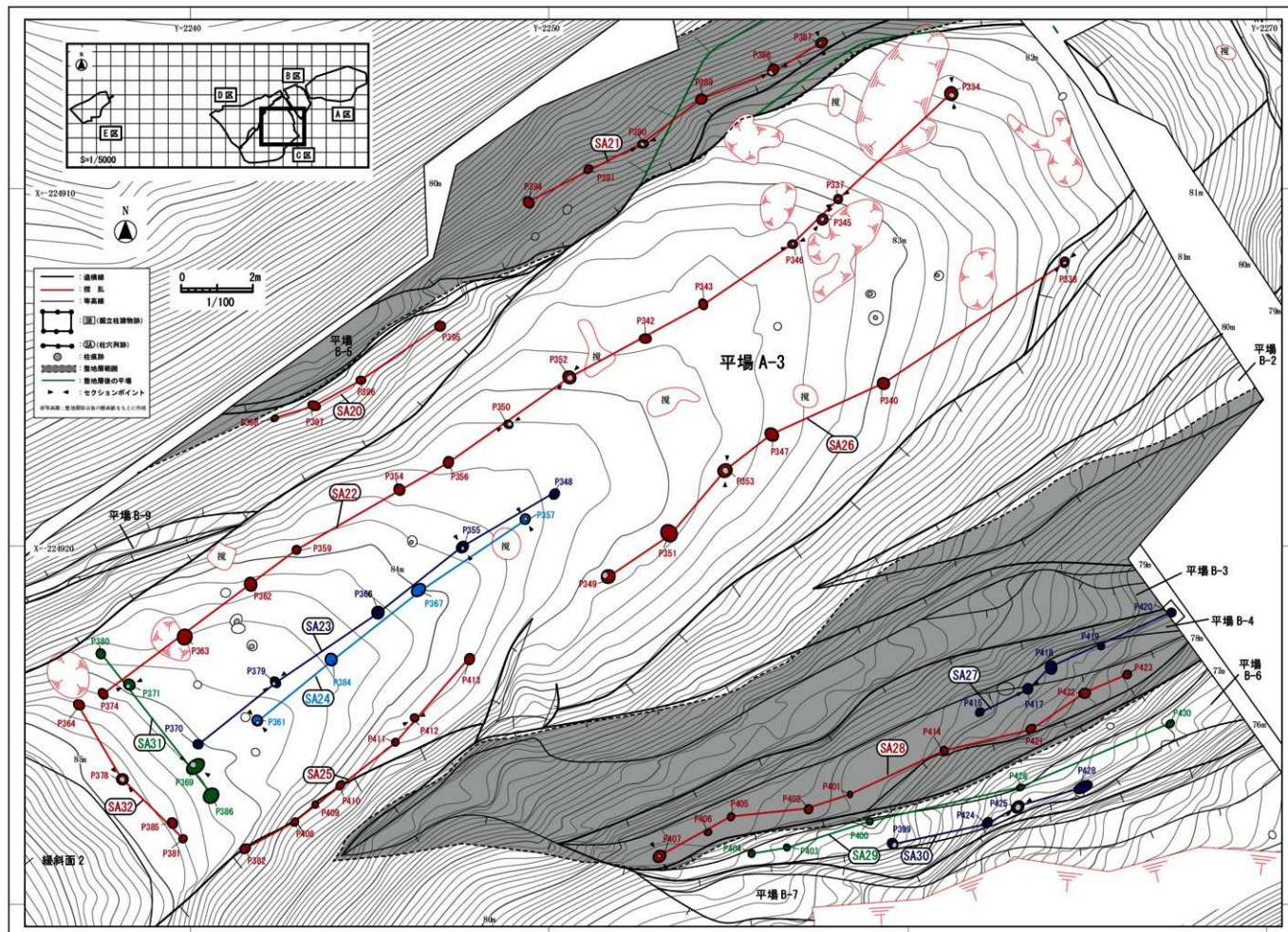
第63図 掘立柱建物跡・柱穴列跡掲載区分図



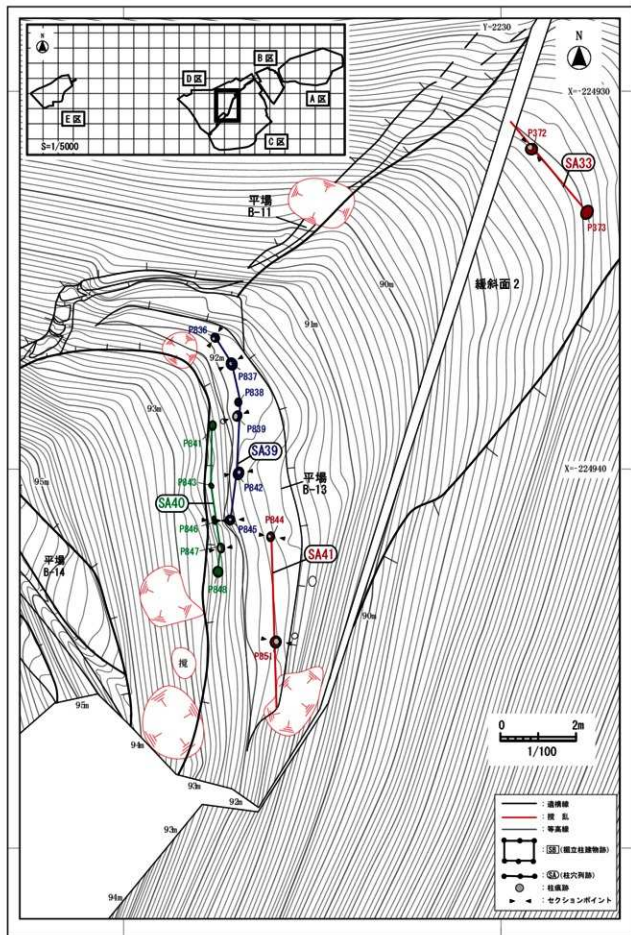
第64図 掘立柱建物跡・柱穴跡 平面図(1) -SB1~16・SA1~11- 95・96



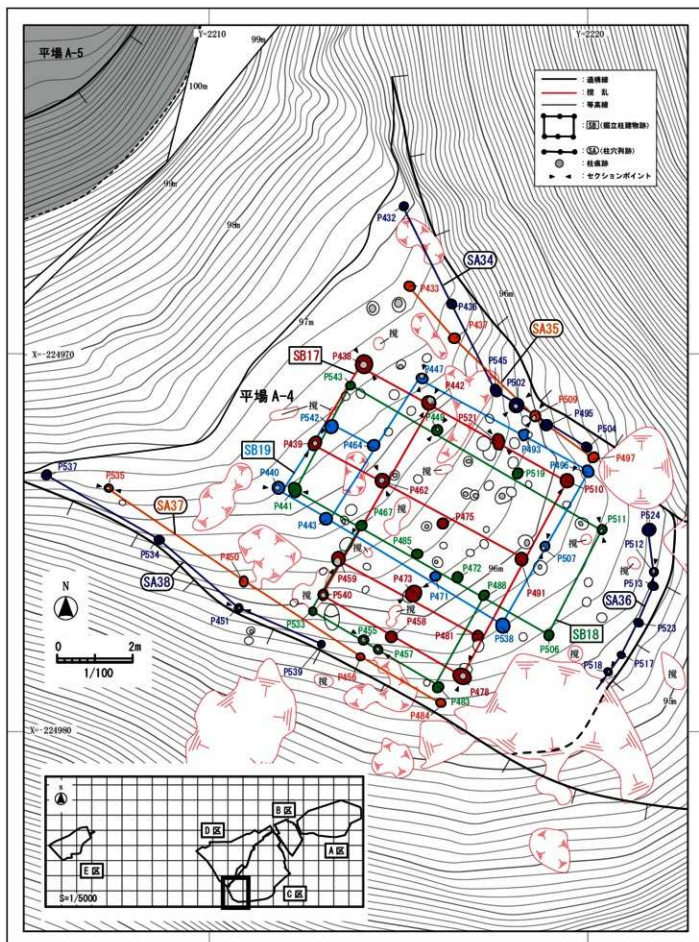
第65図 掘立柱建物跡・柱穴列跡 平面図(2) -SA12~19-



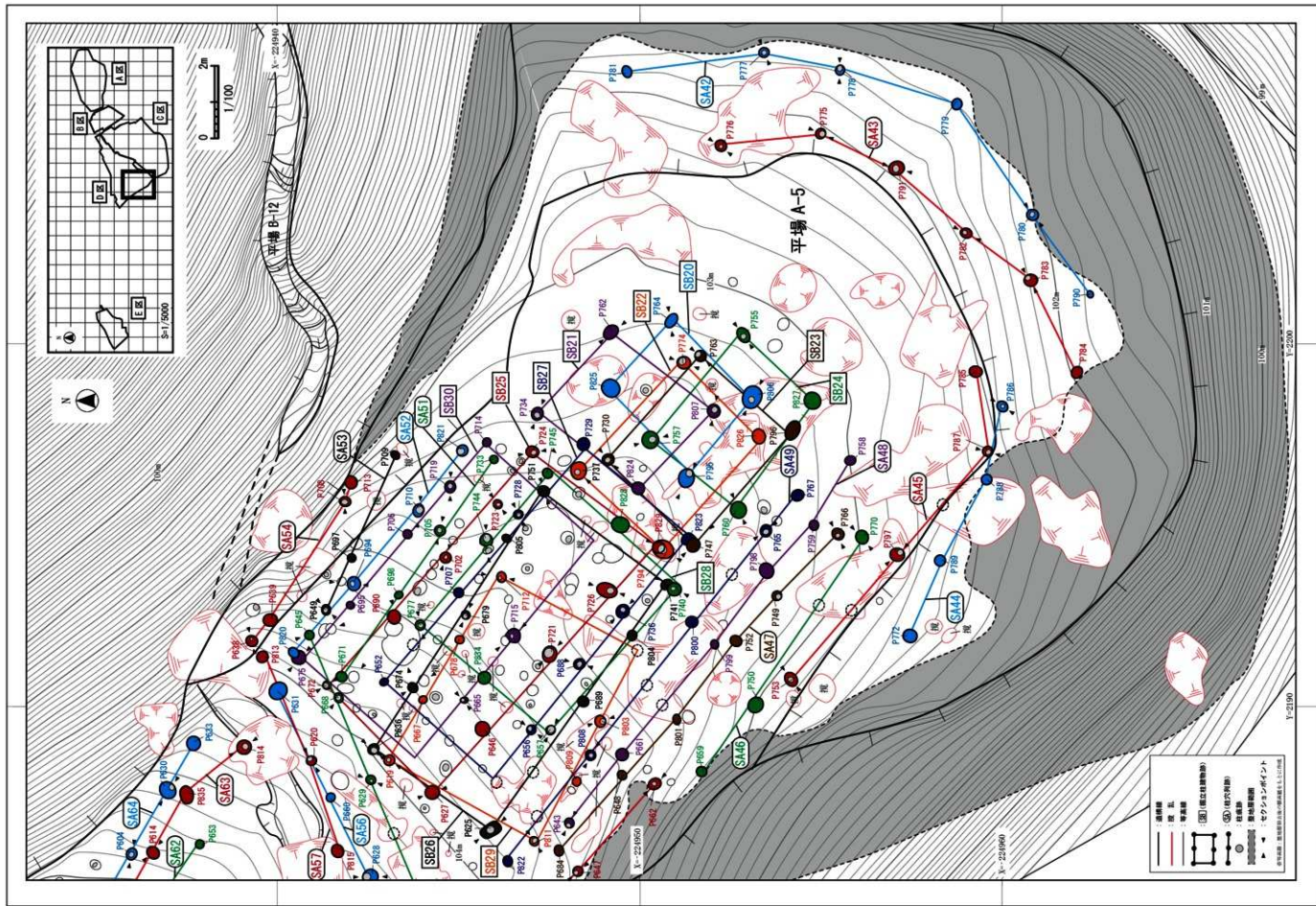
第66図 掘立柱建物跡・柱穴跡 平面図(3)-SA20~32-



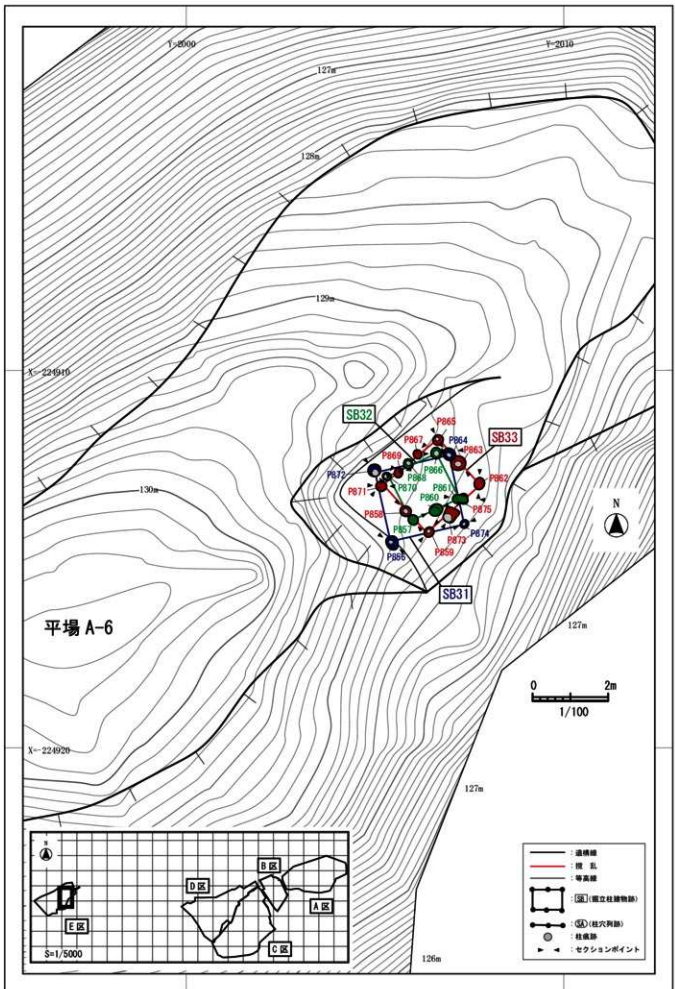
第67図 掘立柱建物跡・柱穴列跡 平面図(4)-SA33・39~41-



第68図 掘立柱建物跡・柱穴列跡 平面図(5) -SB17~19・SA34~38-



第69図 掘立柱建物跡・柱穴列跡 平面図(6) -SB20~30・SA42~49・51~54-



第71図 掘立柱建物跡・柱穴跡 平面図(8)-SB31~33-

1) 掘立柱建物跡 (第64・68・69・71～91・118・120図、第5表)

今回の調査では、掘立柱建物跡を33棟 (SB1～33) 確認した。建物跡は平場A-1・4～6といった比較的面積の広い平場上に分布する。その内訳は、平場A-1で16棟 (SB1～16:第64図)、平場A-4で3棟 (SB17～19:第68図)、平場A-5で11棟 (SB20～30:第69図)、平場A-6で3棟 (SB31～33:第71図)である。今回検出した掘立柱建物跡については、柱穴の特徴・遺構の重複関係・出土遺物・周辺の遺跡の調査事例などから、そのほとんどが中世以降の建物であると考えられる。以下、その概要について説明する。それぞれの建物の詳細については、第72～91図、第5表を参照していただきたい。

【建物の規模】

検出した建物跡のうち、その身舎の規模の内訳は、**4間の建物**が7棟 (4間×2間:1棟、4間×1間:5棟、4間×1間の推定:1棟)、**3間の建物**が9棟 (3間×2間:5棟、3間×1間:4棟)、**2間の建物**が11棟 (2間×2間:5棟、2間×1間:6棟)、**1間の建物**が6棟 (1間×1間:6棟)である。

【柱穴規模・柱痕跡・柱間寸法】

柱穴掘方の規模は、長軸30～40cm前後の円形・楕円形を呈するものが主体で、柱痕跡は、直径10～30cm前後のもので円形・楕円形を呈するものが多い。身舎の桁行の柱間寸法は、0.6～4.8mでばらつきがあるが、2.5m前後のものが多い。

【建物の方向・傾き】

建物棟方向の内訳は、東西棟建物が17棟、南北棟建物が6棟、正方形建物が10棟である。建物の傾きは、建物の東辺・西辺が真北に対して西に傾くもの・東に傾くものの両者がある。

【庇・張出が付く建物】

検出した建物33棟中、身舎に庇や張出の付く建物は7棟確認した。その内訳は、庇の付く建物2棟 (SB6・11)、張出の付く建物4棟 (SB1・14・18・19)、庇・張出しの付く建物1棟 (SB17)である。

【掘立柱建物跡の分布】

掘立柱建物跡は先にも示したとおり、比較的面積の広い平場上に分布しており、その平場の中央部付近を中心に密集して建物が配置されている。各平場の建物の分布状況をまとめると以下のとおりとなる。

【平場A-1】 4×1間張出付:1棟 (SB14)、3×2間張出付:1棟 (SB1)、2×2間庇付:1棟 (SB6)、2×1間庇付:1棟 (SB11)、4×2間:1棟 (SB4)、4×1間:1棟 (SB2)、3×2間:3棟 (SB5・7・8)、3×1間:2棟 (SB3・9)、2×2間:1棟 (SB12)、2×1間:4棟 (SB10・13・15・16)

【平場A-4】 2×2間庇・張出付:1棟 (SB17)、3×1間張出付:1棟 (SB18)、2×2間張出付:1棟 (SB19)

【平場A-5】 4×1間:4棟 (SB25～27・30)、3×1間:1棟 (SB29)、2×2間:1棟 (SB28)、1×1間:5棟 (SB20～24)

【平場A-6】 3×2間:1棟 (SB33)、2×1間:1棟 (SB32)、1×1間:1棟 (SB31)

【出土遺物】

掘立柱建物跡を構成する柱穴跡からは、遺物が8点出土したのみですべて図示した (第118・120図)。遺物の出土遺構・種別等は次のとおりで、SB1・P9掘方埋土:かわかけ皿2点 (第118図1・2)、SB1・P45堆積土:かわかけ皿 (第118図3)、SB1・P165の1層:中世陶器甕 (第118図4)、SB4・P34掘方埋土:砥石 (第118図6)、SB4・P37堆積土:天目茶碗 (第118図5)、SB10・P58堆積土:灰釉陶器瓶子または梅瓶の破片 (第118図7)、SB16・P156の1層:灰釉陶器大型鉢 (第118図8)である。これらの出土遺物の詳細については第4章で触れるが、その年代は中世に属するものと考えられる。

① 平場 A-1 で検出した掘立柱建物跡 (第72～79・87・88 図)

【SB1 掘立柱建物跡】

【建物間数】桁行3間×梁行2間+張出1間

【建物方向】東西棟建物跡

【建物方向】N-7°-W

【構成 Pit】P9, 16, 21, 23, 30, 32, 43, 45, 46, 57,

P76, 165

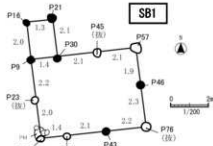
【平面規模】桁行5.7m×梁行4.2m

【柱間寸法】桁行1.4～2.2m×梁行1.9～2.3m

【出土遺物】かわらけ (第118 図1～3)

中世海狗 (第118 図4)

【重複】SB1→P44



【P9・16・30・43・46】

1層:柱痕跡 2層:掘方埋土

【P21】

1層:柱痕跡 2・3層:掘方埋土

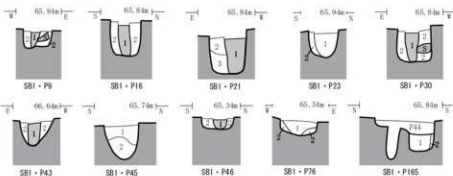
【P23・76・165】

1層:堆積土 (柱採取) 2層:掘方埋土

【P16】

+2層:堆積土 (柱採取)

0 1m 1/50



【SB2 掘立柱建物跡】

【建物間数】桁行4間×梁行1間 東西棟建物跡

【建物方向】N-10°-W

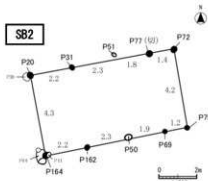
【構成 Pit】P20, 31, 50, 51, 69, 72, 75, 77, 162, 164

【平面規模】桁行7.7m×梁行4.3m

【柱間寸法】桁行1.2～2.3m×梁行4.2～4.3m

【出土遺物】なし

【重複】P38・44→SB2→P11



SB2 掘立柱建物跡 構成 Pit 属性表

遺構番号	柱穴・ピット部方 (方位・傾斜・底面・埋土)				柱痕跡			柱間寸法	備考			
	平面形	長軸	短軸	傾斜	平面形	長軸	短軸					
P20	円形	35	34	26	65.4	傾上	円形	18	18	38	あ	P28より新
P31	円形	32	30	31	65.0	100%	円形	17	15	38	あ	
P50	楕円形	37	30	10	63.2	68%	—	—	—	—	—	
P51	円形	40	38	29	—	73%	—	—	—	—	—	
P69	円形	28	28	24	64.9	75%	円形	15	14	38	あ	
P72	円形	37	36	30	65.0	73%	円形	16	16	38	あ	
P75	円形	27	27	18	64.9	70%	円形	14	12	38	あ	
P77	円形	35	33	28	64.9	92% (95% 掘取)	円形	14	12	38	あ	柱切断
P162	円形	28	28	27	65.0	73%	円形	18	18	38	あ	
P164	円形	34	32	36	65.2	58%	円形	18	17	48	あ	P11より古 (P44より新)

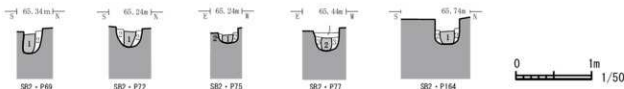
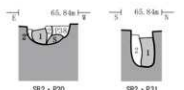
【P20・31・69・72・75・164】

1層:柱痕跡 2層:掘方埋土

【P77】

1層:堆積土 (柱切断) 2層:柱痕跡

3層:掘方埋土

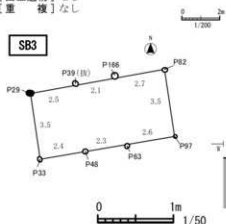


0 1m 1/50

第72 図 SB1・2 掘立柱建物跡

【SB3 掘立柱建物跡】

- 〔建物間数〕 桁行3間×梁行1間 東西棟建物跡
 〔建物方向〕 N-9°-W
 〔構成Pit〕 P29, 33, 39, 48, 63, 82, 97, 166
 〔平面規模〕 桁行7.3m×梁行3.5m
 〔柱間寸法〕 桁行2.1～2.7m・梁行3.5m
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし



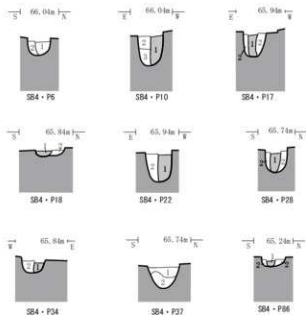
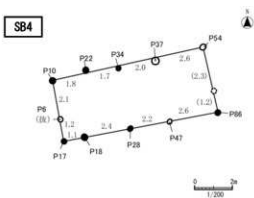
SB3 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ビット番号 (柱間・桁間・梁間・梁間寸法)				柱遺跡				柱間数	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存寸法	地上	平面形	長軸	短軸			地上
P29	円形	69	29	46	65.1	—	—	—	—	—	—
P33	円形	33	33	36	65.1	円形	18	18	80	あ	—
P39	円形	34	32	43	65.9	—	—	—	—	—	柱取込
P48	楕円形	31	30	26	65.1	—	—	—	—	—	—
P63	円形	29	28	28	64.8	—	—	—	—	—	—
P82	円形	29	29	14	64.9	楕円	—	—	—	—	—
P97	円形	22	20	19	64.7	—	—	—	—	—	—
P166	円形	38	32	36	64.8	—	—	—	—	—	—

- 〔P29〕
1層：柱取込 2層：掘方埋土
 〔P33〕
1・2層：堆積土
 〔P39〕
1層：堆積土 (柱取込) 2層：掘方埋土

【SB4 掘立柱建物跡】

- 〔建物間数〕 桁行4間×梁行2間 東西棟建物跡
 〔建物方向〕 N-13°-W
 〔構成Pit〕 P6, 10, 17, 18, 22, 28, 34, 37, 47, 54, 86
 〔平面規模〕 桁行8.3m×梁行3.3m
 〔柱間寸法〕 桁行1.1～2.6m・梁行1.2～2.1m
 〔出土遺物〕 天目茶碗 (第118図5), 砥石 (第118図6)
 〔重複〕 なし



SB4 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ビット番号 (柱間・桁間・梁間・梁間寸法)				柱遺跡				柱間数	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存寸法	地上	平面形	長軸	短軸			地上	
P6	円形	34	34	20	65.4	—	—	—	—	—	—	
P10	円形	36	35	40	65.3	—	—	—	—	—	—	
P17	円形	29	28	33	65.3	75m	円形	16	13	90	あ	
P18	円形	40	37	8	65.2	35m	円形	27	21	40	あ	
P22	円形	36	35	68	65.2	38m+7	円形	18	17	18	あ	掘方埋土
P28	円形	33	32	39	65.1	46m	円形	15	13	36	あ	—
P34	円形	32	30	23	65.3	46m	円形	12	12	36	あ	砥石
P37	円形	44	33	35	65.9	1層190m 2層175m	—	—	—	—	—	天目茶碗
P47	円形	31	30	20	65.1	75m	—	—	—	—	—	—
P54	楕円形	36	31	13	65.9	75m	—	—	—	—	—	—
P86	円形	32	31	11	65.9	75m	円形	19	19	96	あ	—

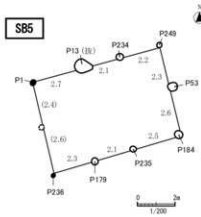
- 〔P6〕
1層：柱取込 (柱取込) 2層：掘方埋土
 〔P10〕
1層：柱取込 2・3層：掘方埋土
 〔P17・18・22・28・34・86〕
1層：柱取込 2層：掘方埋土
 〔P37〕
1・2層：堆積土



第73図 SB3・4 掘立柱建物跡

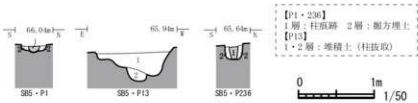
【SB5 掘立柱建物跡】

【建物間数】桁行3間×梁行2間 東西棟建物跡
 【建物方向】N-12°-W
 【構成Pit】P1, 13, 53, 179, 184, 234 ~ 236, 249
 【平面規模】桁行7.0m×梁行4.9m
 【柱間寸法】桁行2.1~2.7m・梁行2.3~2.6m
 【出土遺物】なし
 【重複】なし



SB5 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

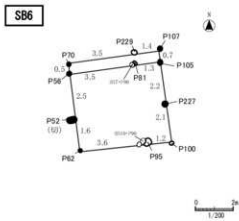
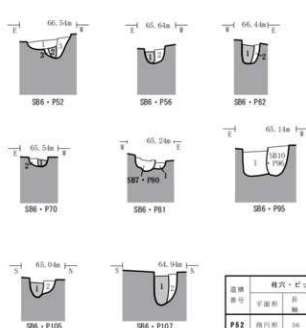
遺構番号	柱穴・ピット属性 (柱穴・短軸・長軸・深さ・寸法)					柱 遺 跡			柱間寸法	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存深さ	底面標高	埋土	平面形	長軸			短軸	埋土
P1	円形	36	33	9	63.7	36a	円形	1.5	1.5	18	5	
P13	楕円形	56	25	43	63.2	柱穴1:36a 柱穴2:28a	-	-	-	-	-	柱間軸
P53	楕円形	47	43	9	63.1	36a	-	-	-	-	-	
P179	円形	36	33	27	63.2	36a	-	-	-	-	-	
P184	円形	42	42	11	63.0	36a	-	-	-	-	-	
P234	楕円形	42	33	7	63.4	36a	-	-	-	-	-	
P235	円形	36	33	8	63.0	75a	-	-	-	-	-	
P236	円形	24	24	20	63.1	75a	円形	19	9	66	6	
P249	円形	32	30	13	63.1	36a	-	-	-	-	-	



【P1・236】
 1層:柱痕跡 2層:掘方埋土
 【P13】
 1・2層:地積土(柱痕跡)

【SB6 掘立柱建物跡】

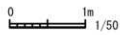
【建物間数】桁行2間×梁行2間+庇1間 東西棟建物跡 / 【建物方向】N-7°-W
 【構成Pit】P52, 56, 62, 70, 81, 95, 100, 105, 107, 227, 229
 【平面規模】桁行4.8m×梁行4.3m / 【柱間寸法】桁行1.2~3.6m・梁行1.6~2.5m
 【出土遺物】なし / 【重複】SB6~SB7・10



SB6 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット属性 (柱穴・短軸・長軸・深さ・寸法)					柱 遺 跡			柱間寸法	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存深さ	底面標高	埋土	平面形	長軸			短軸	埋土
P52	楕円形	54	37	31	65.0	切欠: 90a 掘方埋土(100)	円形	16	13	38	6	柱間軸
P56	円形	31	30	23	63.1	65a	円形	12	11	48	6	
P62	円形	27	23	31	64.9	75a	円形	13	14	98	6	
P70	円形	26	26	15	65.1	90a	円形	12	11	38	6	
P81	円形	21	14	14	64.8	75a	-	-	-	-	-	SB7・P90と共通
P85	円形	41	13	42	64.8	75a	-	-	-	-	-	SB10・P96と共通
P100	円形	23	22	16	64.7	90a	-	-	-	-	-	
P105	楕円形	36	30	26	64.6	90a	円形	17	16	58	5	
P107	円形	30	29	43	64.1	90a	円形	18	17	38	6	
P227	円形	34	34	8	64.9	75a	円形	18	17	98	6	
P229	円形	32	29	13	64.7	75a	-	-	-	-	-	

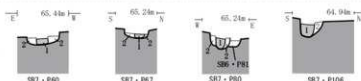
【P52】
 1層:地積土(柱切取) 2層:柱痕跡
 3層:掘方埋土
 【P56・62・70・105・107】
 1層:柱痕跡 2層:掘方埋土
 【P81・90】
 1層:地積土



第74図 SB5・6 掘立柱建物跡

【SB7 掘立柱建物跡】

〔建物間数〕 桁行3間×梁行2間 東西棟建物跡
 〔建物方向〕 N-16°-W
 〔構成Pit〕 P60, 67, 68, 80, 99, 106, 109, 121, 126, 137
 〔平面規模〕 桁行5.1m×梁行4.8m
 〔柱間寸法〕 桁行1.2~2.1m・梁行2.1~2.7m
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 SB6→SB7

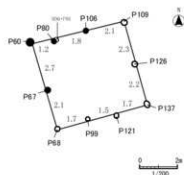


【P60・67・80・106】

1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



SB7



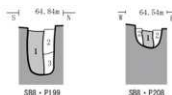
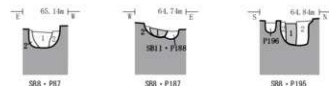
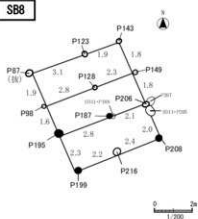
SB7 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (注1) (注2) (注3) (注4) (注5) (注6)				柱痕跡				柱間型	備考		
	平面形	長	短	残存状況	高さ	埋土	平面形	長			短	埋土
P60	円形	65	63	13	65.9	75a	円形	14	14	90	あ	
P67	円形	36	32	12	64.9	75a	円形	15	14	90	あ	
P68	円形	28	26	30	64.7	75a	—	—	—	—	—	
P80	楕円形	27	22	21	64.8	75a	円形	14	13	90	あ	SB6・P91より断
P89	円形	25	24	29	64.7	95a	—	—	—	—	—	
P104	円形	30	29	27	64.8	95a	円形	14	13	90	あ	
P109	円形	31	31	22	64.8	95a	—	—	—	—	—	
P121	円形	27	25	18	64.8	95a	—	—	—	—	—	
P126	円形	32	30	28	64.8	95a	—	—	—	—	—	
P137	楕円形	34	29	26	64.3	75a	—	—	—	—	—	

【SB8 掘立柱建物跡】

〔建物間数〕 桁行3間×梁行2間 南北棟建物跡
 〔建物方向〕 N-23°-W
 〔構成Pit〕 P87, 98, 123, 128, 143, 149, 187, 195, 199, 206, 208, 216
 〔平面規模〕 桁行5.8m×梁行5.0m
 〔柱間寸法〕 桁行1.6~2.3m・梁行1.9~3.1m
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 SB11, P207→SB8

SB8



SB8 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (注1) (注2) (注3) (注4) (注5) (注6)				柱痕跡				柱間型	備考		
	平面形	長	短	残存状況	高さ	埋土	平面形	長			短	埋土
P87	楕円形	62	36	24	64.7	柱穴190a 掘埋750d	—	—	—	—	—	柱痕跡
P88	円形	22	22	13	64.8	95a	—	—	—	—	—	
P123	円形	30	27	25	64.5	95a	—	—	—	—	—	
P128	円形	28	24	25	64.4	95a	—	—	—	—	—	
P143	円形	30	30	20	64.4	95a	—	—	—	—	—	
P149	円形	25	23	12	64.4	75a	—	—	—	—	—	
P187	楕円形	33	28	12	64.4	75a	円形	24	23	90	あ	SB11・P189より断
P195	楕円形	57	43	35	64.5	95a	円形	15	13	90	あ	
P199	円形	36	36	62	64.9	掘埋190a 掘埋750d	円形	29	19	90	あ	
P206	円形	40	33	20	64.2	75a	—	—	—	—	—	SB11・P208, P207より断
P208	円形	35	34	25	64.0	95a	円形	15	14	90	あ	
P216	楕円形	38	32	33	64.2	95a	—	—	—	—	—	

【P87】
 1層：埋積土 (柱杖取) 2層：掘方埋土
 【P187・195・208】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土
 【P199】
 1層：柱痕跡 2・3層：掘方埋土

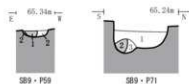


第75図 SB7・8 掘立柱建物跡

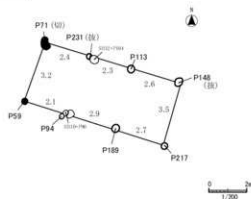
【SB9 掘立柱建物跡】

【建物間数】 桁行3間×梁行1間 東西棟建物跡
 【建物方向】 N-20°-E
 【構成Pit】 P59, 71, 94, 113, 148, 189, 217, 231
 【平面規模】 桁行7.7m×梁行3.5m
 【柱間寸法】 桁行2.1～2.9m・梁行3.2～3.5m
 【出土遺物】 なし
 【重 複】 SB10→SB9→SB12

【P69】1層：柱底跡・2層：掘方埋土
 【P71】1層：堆積土（柱切取）2層：柱底跡 3層：掘方埋土
 【P148】1・2層：堆積土（柱切取）



SB9

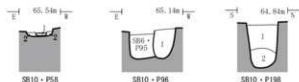


SB9 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット属性 (柱穴・ピット)				柱底跡				柱型	備考	
	平面形	長径	短径	残存状況	高さ	埋土	平面形	長径			短径
P59	円形	25	23	9	65.1	95d	円形	16	15	66a	
P71	楕円形	78	42	17	64.7	95d 層厚:180a 層厚:120a	円形	19	18	66a	柱切取
P94	円形	23	22	15	64.9	95a	-	-	-	-	SB10・P96と重なる
P113	円形	40	37	12	64.6	95d	-	-	-	-	
P148	楕円形	50	36	37	64.1	66a(1:70d) 66a(2:30d)	-	-	-	-	柱切取
P189	楕円形	41	39	16	64.1	1層:130a 2層:35d	-	-	-	-	
P217	円形	33	34	21	64.2	95d	-	-	-	-	
P231	円形?	32	(13)	25	64.5	残存:95a	-	-	-	-	SB12・P194と重なる 柱切取

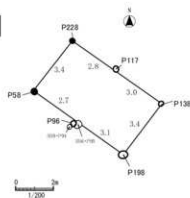
【SB10 掘立柱建物跡】

【建物間数】 桁行2間×梁行1間 東西棟建物跡
 【建物方向】 N-54°-W
 【構成Pit】 P58, 96, 117, 138, 198, 228
 【平面規模】 桁行5.8m×梁行3.4m
 【柱間寸法】 桁行2.7～3.1m・梁行3.4m
 【出土遺物】 灰釉陶器（第118図7）
 【重 複】 SB6→SB10→SB9



【P98】1層：柱底跡・2層：掘方埋土
 【P96】1層：堆積土
 【P198】1・2層：堆積土

SB10



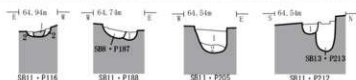
SB10 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット属性 (柱穴・ピット)				柱底跡				柱型	備考	
	平面形	長径	短径	残存状況	高さ	埋土	平面形	長径			短径
P58	円形	28	25	10	65.1	75a	楕円形	21	14	95a	灰釉陶器
P96	円形	28	28	12	64.8	95a	-	-	-	-	SB9・P94と重なる SB6・P95と重なる
P117	円形	29	28	16	64.6	95a	-	-	-	-	
P138	円形	20	20	10	64.1	75d	-	-	-	-	
P198	楕円形	19	14	10	64.0	1層:95d 2層:35a	-	-	-	-	
P228	円形	30	28	18	64.6	75a	円形	16	16	95a	6a

第76図 SB9・10 掘立柱建物跡

【SB11 掘立柱建物跡】

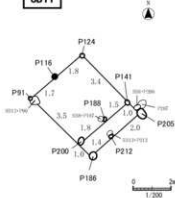
- 〔建物間数〕 桁行2間×梁行1間+庇1間
正方形建物跡
- 〔建物方向〕 N-44°-W
- 〔構成Pit〕 P91, 116, 124, 141, 186, 188, 200, 205, 212
- 〔平面規模〕 桁行3.5m×梁行3.5m
- 〔柱間寸法〕 桁行1.5～1.8m・梁行3.4～3.5m
- 〔出土遺物〕 なし
- 〔重複〕 SB12・13→SB11→SB8・P207



- 〔P116〕 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土
- 〔P188・212〕 1層：堆積土
- 〔P205〕 1・2層：堆積土

0 1m 1/50

SB11



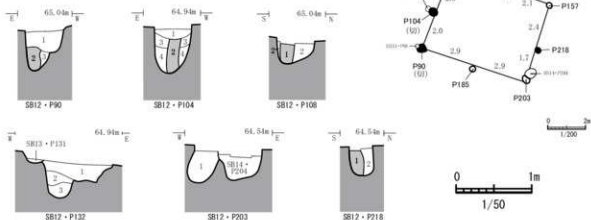
SB11 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ビット部方 平面図	柱穴・ビット部方 (柱穴・桁行・梁行・庇寸法)			柱穴部			柱間寸法	備考		
		長	幅	深	底面	埋土	地上				
P91	円形	23	24	28	64.6	75a	—	—	SB12・P90より南		
P116	円形	32	30	13	64.6	75a	円形	17	16	98	北
P124	円形	21	23	14	64.5	90a	—	—	—	—	
P141	円形	30	28	17	—	75a	—	—	—	—	
P186	円形	40	40	29	64.2	90a	—	—	—	—	
P188	円形	24	(18)	12	64.3	90a	—	—	—	SB8・P187より南	
P200	楕円形	37	30	34	64.2	1層:90a 2層:90a	—	—	—	—	
P205	楕円形	(34)	47	33	63.9	1層:75a 2層:75a	—	—	—	SB8・P206・P207より北	
P212	円形	22	20	24	64.2	90a	—	—	—	SB13・P213より南	

【SB12 掘立柱建物跡】

- 〔建物間数〕 桁行2間×梁行2間 東西棟建物跡
- 〔建物方向〕 N-21°-E
- 〔構成Pit〕 P90, 104, 108, 132, 157, 185, 203, 218
- 〔平面規模〕 桁行5.8m×梁行4.5m
- 〔柱間寸法〕 桁行2.1～3.4m・梁行1.7～2.5m
- 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 SB9・16→SB12→SB11・13・14

SB12



SB12 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

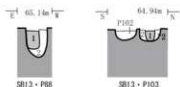
遺構番号	柱穴・ビット部方 平面図	柱穴・ビット部方 (柱穴・桁行・梁行・庇寸法)			柱穴部			柱間寸法	備考		
		長	幅	深	底面	埋土	地上				
P90	楕円形	54	46	54	64.3	切欠1:75a 埋土:90a	円形	21	18	58	北
P104	楕円形	52	42	67	64.1	切欠:90a 埋土:75a 新埋土:90a	楕円形	20	16	58	北
P108	楕円形	50	39	40	64.3	75a	円形	20	19	98	北
P132	円形	46	46	62	63.9	切欠1:75a 切欠2:90a 切欠3:100a	—	—	—	—	北
P157	楕円形	37	30	31	64.0	85a	—	—	—	—	—
P185	円形	32	29	19	64.4	90a	—	—	—	—	—
P203	円形	47	(33)	52	63.8	90a	—	—	—	—	—
P218	円形	35	34	37	63.9	75a	円形	10	14	98	北

- 〔P90〕
1層：堆積土(柱切取) 2層：柱痕跡
3層：掘方埋土
- 〔P104〕
1層：堆積土(柱切取) 2層：柱痕跡
3・4層：掘方埋土
- 〔P108・218〕
1層：柱痕跡 2層：掘方埋土
- 〔P132〕
1・2・3層：堆積土(柱切取)
- 〔P203〕
1層：堆積土

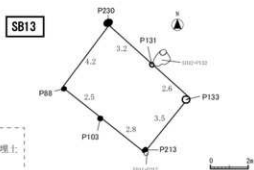
第77図 SB11・12 掘立柱建物跡

【SB13 掘立柱建物跡】

【建物間数】 桁行2間×梁行1間 南北棟建物跡
 【建物方向】 N-44°-W
 【構成Pit】 P88, 103, 131, 133, 213, 230
 【平面規模】 桁行5.8m×梁行4.2m
 【柱間寸法】 桁行2.5～3.2m×梁行3.5～4.2m
 【出土遺物】 なし
 【重複】 SB12→SB13→SB11

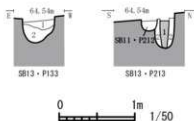


【P88・103・213】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土
 【P133】 1・2層：堆積土



SB13 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	種別	種穴・ピット属性 (形状・埋積・層・遺物・土質)				柱痕跡				柱間寸法	備考	
		平面形	直径	埋積	存在	直径	埋土	平面形	直径			埋土
P88	円形	30	30	40	64.9	95c	円形	16	16	75	1	
P103	円形	28	27	18	64.6	95c	円形	13	13	80	2	
P133	円形	26	26	14	64.4	95c	-	-	-	-	SB12・P132より西	
P213	円形	33	33	32	64.1	1層:95c 2層:95b	-	-	-	-	-	
P230	桁行跡	33	33	33	64.9	76d	円形	13	12	95	2	SB11・P212より西
P230	桁行跡	37	37	16	64.4	76c	円形	17	17	90	2	

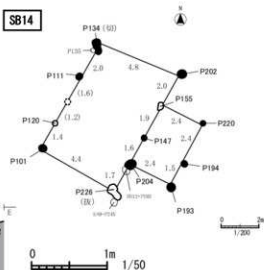
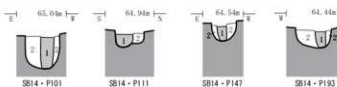


0 1m 1/50

【SB14 掘立柱建物跡】

【建物間数】 桁行4間×梁行1間+張出1間 南北棟建物跡
 【建物方向】 N-27°-E
 【構成Pit】 P101, 111, 120, 134, 147, 155, 193, 194, 202, 204, 220, 226
 【平面規模】 桁行7.2m×梁行4.8m
 【柱間寸法】 桁行1.4～2.0m×梁行4.4～4.8m
 【出土遺物】 なし
 【重複】 SA9, SB12, 整地層→SB14→P135

【P101・111・147・193・194・202・204】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土
 【P134】
 1・2層：堆積土 (柱切取) 3層：柱痕跡 4層：掘方埋土
 【P220】 1層：柱痕跡 2・3層：掘方埋土



SB14 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	種別	種穴・ピット属性 (形状・埋積・層・遺物・土質)				柱痕跡				柱間寸法	備考	
		平面形	直径	埋積	存在	直径	埋土	平面形	直径			埋土
P101	円形	45	43	48	64.3	76c	円形	19	18	90	2	
P111	円形	41	39	23	64.4	76c	円形	23	23	90	5	
P120	円形	27	27	24	64.5	95d	-	-	-	-	-	
P134	円形	46	44	83	63.6	切欠:110b 切欠:21:95c 埋積:95d	桁行跡	30	19	80	2	柱切取 P135より西
P147	円形	34	32	25	64.1	76c	円形	14	13	80	2	
P155	桁行跡	40	33	77	63.5	1層:95c 2層:95b	-	-	-	-	-	
P193	円形	46	46	26	63.9	76d	円形	14	13	90	2	
P194	桁行跡	39	31	40	63.8	95d	円形	16	16	90	2	
P202	円形	50	50	31	63.9	76c	円形	18	16	90	2	
P204	桁行跡	35	30	40	63.8	76d	桁行跡	28	24	90	2	SB12・P203より東
P220	円形	31	29	39	63.7	埋積:170 埋積:21:95c 切欠:104d	円形	16	17	90	2	整地層より西
P226	桁行跡	35	45	30	64.0	埋積:21:95c	-	-	-	-	-	柱切取 SA9・P210より東

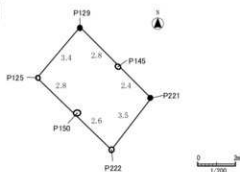
第78図 SB13・14 掘立柱建物跡

【SB15 掘立柱建物跡】

〔建物間数〕 桁行2間×梁行1間 南北棟建物跡
 〔建物方向〕 N-45°-W
 〔構成Pit〕 P125, 129, 145, 150, 221, 222
 〔平面規模〕 桁行5.4m×梁行3.5m
 〔柱間寸法〕 桁行2.4～2.8m×梁行3.4～3.5m
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし



SB15



【P129・221】

1層：柱痕跡 2層：掘方埋土

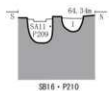
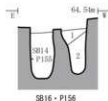


SB15 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

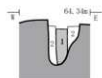
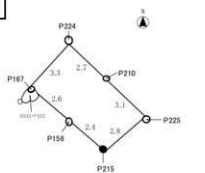
遺構番号	柱穴・ピット置方 (長軸・短軸・残存状況・底面標高)				柱痕跡				柱断面	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形	長軸			短軸
P125	円形	24	22	15	64.8	95a	-	-	-	-	-
P129	円形	30	30	25	64.9	105a	円形	13	12	7b	あ
P145	円形	32	32	20	64.9	79a	-	-	-	-	-
P150	楕円形	35	30	15	64.3	79a	-	-	-	-	-
P221	円形	29	25	40	63.7	76a	円形	17	15	9b	あ
P222	円形	20	20	17	64.1	78a	-	-	-	-	-

【SB16 掘立柱建物跡】

〔建物間数〕 桁行2間×梁行1間 南北棟建物跡
 〔建物方向〕 N-44°-W
 〔構成Pit〕 P156, 167, 210, 215, 224, 225
 〔平面規模〕 桁行5.8m×梁行3.3m
 〔柱間寸法〕 桁行2.4～3.1m×梁行2.8～3.3m
 〔出土遺物〕 灰輪陶器 (第118図8)
 〔重複〕 整地層→SB16→SB12



SB16



【P156】

1・2層：堆積土

【P210】

1層：堆積土

【P215】

1層：柱痕跡 2層：掘方埋土

SB16 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット置方 (長軸・短軸・残存状況・底面標高)				柱痕跡				柱断面	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形	長軸			短軸
P156	円形	40	39	73	62.6	1層:80a 2層:95a	-	-	-	-	足輪陶器
P167	円形	36	33	40	64.0	58a	-	-	-	-	SB12・P122と共通
P210	円形	24	32	19	64.9	78a	-	-	-	-	-
P215	楕円形	42	35	40	63.3	95a	円形	15	14	5a	あ
P224	円形	41	40	6	63.9	79a	-	-	-	-	-
P225	円形	38	36	41	63.5	1層:95a 2層:98a	-	-	-	-	整地層より新

第79図 SB15・16 掘立柱建物跡

② 平場 A-4 で検出した掘立柱建物跡 (第 80・81・87・88 図)

【SB17 掘立柱建物跡】

【建物間数】 桁行 2 間 × 梁行 2 間 + 庇 1 間 + 張出 1 間
正方形建物跡

【建物方向】 N-29°-E

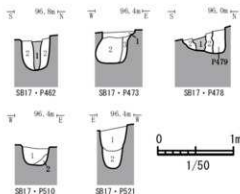
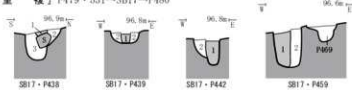
【構成 Pit】 P438, 439, 442, 458, 459, 462, 473, 475, 478, 481, P491, 510, 521, 540

【平面規模】 桁行 4.8m × 梁行 4.2m

【柱間寸法】 桁行 2.4m × 梁行 2.0 ~ 2.2m

【出土遺物】 なし

【重複】 P479・S31→SB17→P480

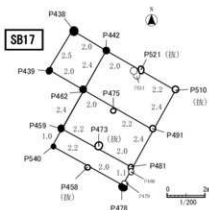


【P438】
1層：柱痕跡 2・3層：掘方埋土

【P439・442・459・462・478】
1層：柱痕跡 2層：掘方埋土

【P473】
1・2層：堆積土（柱抜取） 3層：掘方埋土

【P510・S21】
1・2層：堆積土（柱抜取）



SB17 掘立柱建物跡 構成 Pit 属性表

遺構番号	柱穴・ピット属性 (注: 長軸・短軸は、長軸・短軸方向)				柱痕跡			柱間寸法	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状態	平面形	長軸	短軸				
P438	円形	47	47	37	96.3	掘方1・90d 掘方2・50d	円形	29	19	50	1・
P439	楕円形	38	21	14	96.9	100d	円形	14	12	38	あ
P442	円形	49	37	36	96.2	90d	楕円形	22	19	50	5
P458	円形	30	20	23	95.6	掘穴1・50d 掘方1・100d	-	-	-	-	柱抜取
P459	円形	38	34	52	95.7	90d	楕円形	22	18	50	あ
P462	円形	38	38	42	96.0	100d	円形	13	15	50	あ
P473	円形	43	42	50	95.6	掘穴1・110d 掘方1・110d	-	-	-	-	柱抜取
P475	円形	28	27	10	96.1	70d	-	-	-	-	-
P478	円形	45	44	24	95.8	110d	円形	18	17	50	あ P479上平片
P481	円形	29	30	14	95.7	100d	-	-	-	-	P480上平片
P489	円形	35	24	20	95.9	90d	-	-	-	-	柱抜取
P510	円形	39	38	39	95.7	掘穴1・110d 掘穴2・20d	-	-	-	-	柱抜取
P521	楕円形	49	23	42	95.6	掘穴1・90d 掘穴2・50d	-	-	-	-	柱抜取 P531上平片
P540	円形	30	28	30	95.7	40d	円形	13	14	40	あ

【SB18 掘立柱建物跡】

【建物間数】 桁行 3 間 × 梁行 1 間 + 張出 1 間
東西棟建物跡

【建物方向】 N-28°-E

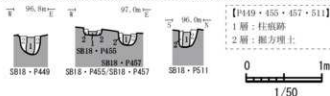
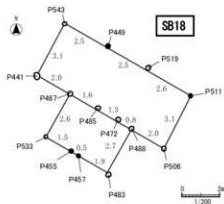
【構成 Pit】 P441, 449, 455, 457, 467, 472, 483, 485, 488, 506, P511, 519, 533, 543

【平面規模】 桁行 7.7m × 梁行 3.1m

【柱間寸法】 桁行 0.8 ~ 2.6m × 梁行 3.1m

【出土遺物】 なし

【重複】 なし



【P449・455・457・511】
1層：柱痕跡
2層：掘方埋土

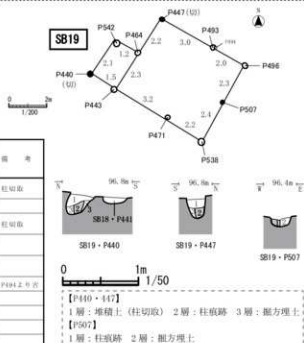
SB18 掘立柱建物跡 構成 Pit 属性表

遺構番号	柱穴・ピット属性 (注: 長軸・短軸は、長軸・短軸方向)				柱痕跡			柱間寸法	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状態	平面形	長軸	短軸				
P441	円形	35	33	10	96.8	90d	-	-	-	-	-
P449	円形	38	28	23	96.2	50d	円形	10	10	50	あ
P455	円形	28	25	11	95.7	100d	円形	13	12	50	あ
P457	円形	25	24	18	95.8	90d	円形	10	10	50	あ
P467	円形	27	21	22	96.1	100d	-	-	-	-	-
P472	円形	32	29	6	96.9	100d	-	-	-	-	-
P483	円形	30	26	17	95.4	90d	-	-	-	-	-
P485	円形	28	26	15	96.1	100d	-	-	-	-	-
P488	円形	28	27	27	95.7	90d	-	-	-	-	-
P506	円形	28	24	20	95.5	50d	-	-	-	-	-
P511	円形	24	23	24	95.8	50d	円形	10	8	40	あ
P519	円形	27	17	18	95.9	90d	-	-	-	-	-
P533	円形	22	20	12	95.8	90d	-	-	-	-	-
P543	円形	23	23	14	96.6	110d	-	-	-	-	-

第 80 図 SB17・18 掘立柱建物跡

【SB19 掘立柱建物跡】

- 〔建物間数〕 桁行2間×梁行2間+張出1間 東西棟建物跡
 〔建物方向〕 N-33°-E
 〔構成Pit〕 P440, 443, 447, 464, 471, 493, 496, 507, 538, 542
 〔平面規模〕 桁行5.4m×梁行4.7m
 〔柱間寸法〕 桁行2.0～3.2m・梁行2.2～2.4m
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 SB19-P494



SB19 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

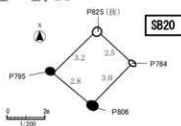
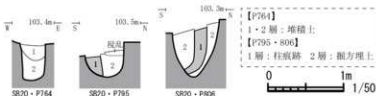
遺構番号	柱穴・ピット番号 (注: 掘・埋) (注: 埋没程度: あり)				柱 遺 跡				柱 間 寸 法	備 考			
	平面形	長 軸	短 軸	残存 状態	高さ 標高	埋土 標高	平面形	長 軸			短 軸	埋土 標高	
P440	円形	33	32	28	96.4		円形	11	13	50	あり	柱切取	
P443	円形	33	34	18	96.3	76.0							
P447	円形	30	28	30	96.3		知穴: 108.0 掘埋: 96.0	円形	13	13	50	あり	柱切取
P464	円形	33	32	10	96.2		1層: 96.0 2層: 96.0						
P471	円形	28	24	28	95.9		1層: 106.4 2層: 96.0						
P493	円形	30	30	22	95.9	96.0						P494より古	
P496	円形	34	33	29	95.8	96.0							
P507	円形	28	28	18	95.9	96.0		円形	12	10	40	あり	
P538	円形	40	37	23	95.6	116.0							
P542	円形	36	36	2	96.0	116.0							

第 81 図 SB19 掘立柱建物跡

③平場 A-5 で検出した掘立柱建物跡 (第 82～86・88 図)

【SB20 掘立柱建物跡】

- 〔建物間数〕 桁行1間×梁行1間 正方形建物跡
 〔建物方向〕 N-47°-W
 〔構成Pit〕 P764, 795, 806, 825
 〔平面規模〕 桁行3.2m×梁行2.8m
 〔柱間寸法〕 桁行3.0～3.2m・梁行2.5～2.8m
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし

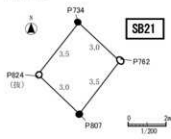
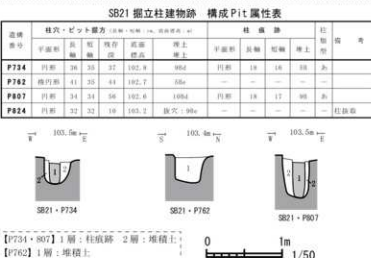


SB20 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット番号 (注: 掘・埋) (注: 埋没程度: あり)				柱 遺 跡				柱 間 寸 法	備 考		
	平面形	長 軸	短 軸	残存 状態	高さ 標高	埋土 標高	平面形	長 軸			短 軸	埋土 標高
P764	楕円形	43	28	30	102.6	1層: 99.0 2層: 102.0						
P795	楕円形	34	43	38	102.7	96.0	円形	20	18	50	あり	
P806	楕円形	60	40	66	102.4	106.0	円形	17	16	90	あり	
P825	楕円形	40	43	40	102.7	掘穴: 96.0						柱底跡 埋土・掘方埋土

【SB21 掘立柱建物跡】

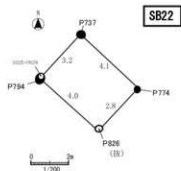
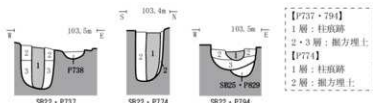
- 〔建物間数〕 桁行1間×梁行1間 正方形建物跡
 〔建物方向〕 N-48°-W
 〔構成Pit〕 P734, 762, 807, 824
 〔平面規模〕 桁行3.5m×梁行3.0m
 〔柱間寸法〕 桁行3.5m・梁行3.0m
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし



第 82 図 SB20・21 掘立柱建物跡

【SB22 掘立柱建物跡】

【建物間数】 桁行1間×梁行1間 正方形建物跡
 【建物方向】 N-47°-W
 【構成Pit】 P737, 774, 794, 826
 【平面規模】 桁行4.1m×梁行3.2m
 【柱間寸法】 桁行4.0～4.1m×梁行2.8～3.2m
 【出土遺物】 なし
 【重複】 SB25→SB22



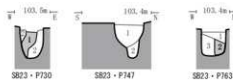
0 1m 1/50

SB22 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

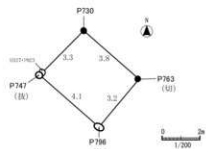
遺構番号	柱穴・ピット属性 (柱穴・短軸・長軸・底面標高)				柱基礎				柱間寸法	備考	
	平面形	長軸	短軸	底面標高	平面形	長軸	短軸	埋土			
P737	円形	45	44	62	102.7	断面1: 95d 断面2: (110d)	円形	16	16	40	あ
P774	円形	38	34	70	102.4	100d	円形	22	20	90	あ
P794	楕円形	66	31	30	103.0	断面1: 95d 断面2: (100d)	円形	25	21	50	1/ SB25・P826と重複
P826	円形	36	34	60	102.7	断面1: 90d	-	-	-	-	柱基礎

【SB23 掘立柱建物跡】

【建物間数】 桁行1間×梁行1間 正方形建物跡
 【建物方向】 N-48°-W
 【構成Pit】 P730, 747, 763, 796
 【平面規模】 桁行4.1m×梁行3.3m
 【柱間寸法】 桁行3.8～4.1m×梁行3.2～3.3m
 【出土遺物】 なし
 【重複】 SB27→SB23



0 1m 1/50



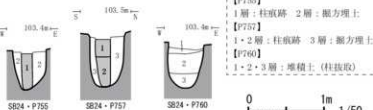
SB23 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット属性 (柱穴・短軸・長軸・底面標高)				柱基礎				柱間寸法	備考	
	平面形	長軸	短軸	底面標高	平面形	長軸	短軸	埋土			
P730	円形	34	31	43	102.8	90d	円形	17	15	40	あ
P747	円形	40	39	48	102.8	断面1: (110d) 断面2: (100d)	-	-	-	-	SB27・P823と重複 柱基礎 埋土(敷瓦片)
P763	円形	30	26	33	102.8	断面1: (110d) 断面2: (90d)	円形	18	15	50	あ 柱基礎
P796	楕円形	50	28	48	102.6	断面1: (100d) 断面2: 90d	-	-	-	-	柱基礎

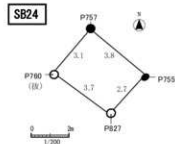
【P730】
1層: 柱基礎 2層: 掘方埋土
【P747】
1・2層: 堆積土(柱採取)
【P763】
1層: 堆積土(柱切取) 2層: 柱基礎
3層: 掘方埋土

【SB24 掘立柱建物跡】

【建物間数】 桁行1間×梁行1間 正方形建物跡
 【建物方向】 N-47°-W
 【構成Pit】 P755, 757, 760, 827
 【平面規模】 桁行3.8m×梁行3.1m
 【柱間寸法】 桁行3.7～3.8m×梁行2.7～3.1m
 【出土遺物】 なし
 【重複】 なし



0 1m 1/50



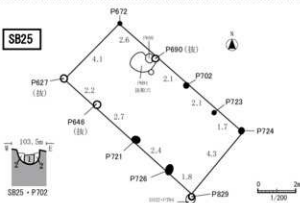
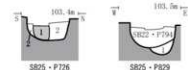
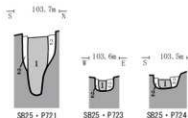
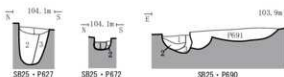
SB24 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット属性 (柱穴・短軸・長軸・底面標高)				柱基礎				柱間寸法	備考	
	平面形	長軸	短軸	底面標高	平面形	長軸	短軸	埋土			
P755	楕円形	42	33	54	102.5	90d	円形	18	15	50	あ
P757	円形	46	46	71	102.5	90d	円形	21	18	100	あ
P760	円形	43	43	59	102.6	断面1: 90d・f 断面2: (110d) 断面3: 90d	-	-	-	-	柱基礎 埋土(敷瓦片): 段片 埋土(敷瓦片): 母体
P827	円形	44	40	44	102.8	90d	-	-	-	-	柱基礎

第 83 図 SB22 ～ 24 掘立柱建物跡

【SB25 掘立柱建物跡】

- 【建物間数】 桁行4間×梁行1間 東西棟建物跡
 【建物方向】 N-49°-W
 【構成Pit】 P627, 646, 672, 690, 702, 721, 723, 724, 726, 829
 【平面規模】 桁行9.1m×梁行4.3m
 【柱間寸法】 桁行1.7～2.7m×梁行4.1～4.3m
 【出土遺物】 なし
 【重複】 P691→SB25→SB22



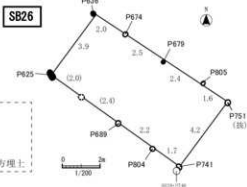
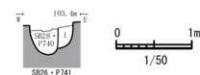
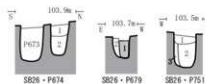
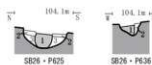
- 【P627・690】 1・2層：堆積土（柱抜取） 3層：掘方埋土
 【P672・702・721・723・724・726】 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土
 【P829】 1層：堆積土

SB25 掘立柱建物跡 構成 Pit 属性表

遺構番号	柱穴・ピット部方 <small>（名称・形状・高さ・埋土状況）</small>				柱痕跡				柱間寸法	備考	
	平面形状	長軸	短軸	残存状況	埋土	平面形状	長軸	短軸			埋土
P627	円形	37	36	52	103.4	なし	なし	なし	なし	柱抜取 埋方（柱穴1）埋土（柱穴2） 埋方（柱穴2）（小堀遺跡）	
P646	円形	40	39	52	103.2	なし	なし	なし	なし	柱痕跡	
P672	円形	29	29	19	103.9	100%	円形	15	14	90	あり
P690	円形	38	34	24	103.4	なし	なし	なし	なし	なし	柱抜取 P691より近
P702	円形	30	29	24	103.2	100%	楕円形	13	10	90	あり
P721	円形	46	42	43	102.0	90%	円形	29	25	50	5
P723	円形	25	24	18	103.2	100%	楕円形	13	10	90	あり
P724	円形	36	32	29	103.0	100%	円形	16	13	90	あり
P726	楕円形	53	36	27	103.0	90%	楕円形	21	18	90	あり
P829	円形	40	40	43	102.9	90%	なし	なし	なし	なし	SB22・P794より近

【SB26 掘立柱建物跡】

- 【建物間数】 桁行4間×梁行1間 東西棟建物跡
 【建物方向】 N-35°-E
 【構成Pit】 P625, 636, 674, 679, 689, 741, 751, 804, 805
 【平面規模】 桁行8.5m×梁行4.2m
 【柱間寸法】 桁行1.6～2.5m×梁行3.9～4.2m
 【出土遺物】 なし
 【重複】 SB26→SB28



- 【P625】 1層：柱痕跡 2・3層：掘方埋土
 【P636・679】 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土
 【P674】 1・2層：堆積土
 【P741】 1層：堆積土
 【P751】 1・2層：堆積土（柱抜取） 3層：掘方埋土

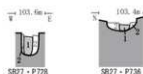
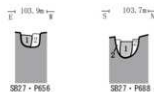
SB26 掘立柱建物跡 構成 Pit 属性表

遺構番号	柱穴・ピット部方 <small>（名称・形状・高さ・埋土状況）</small>				柱痕跡				柱間寸法	備考	
	平面形状	長軸	短軸	残存状況	埋土	平面形状	長軸	短軸			埋土
P625	楕円形	34	35	34	103.6	掘方1・50% 掘方埋土2・100%	円形	22	21	80	あり 埋方埋
P636	円形	30	30	17	103.8	90%	円形	19	17	80	あり
P674	円形	29	27	41	103.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし
P679	円形	23	23	30	103.2	100%	円形	14	13	80	あり
P689	円形	31	31	44	103.0	90%	なし	なし	なし	なし	なし
P741	円形	31	(23)	29	103.0	90%	なし	なし	なし	なし	SB28・P740より近
P751	円形	30	30	30	102.8	なし	なし	なし	なし	なし	柱抜取 埋方埋
P804	円形	29	27	23	103.1	90%	なし	なし	なし	なし	なし
P805	楕円形	29	23	35	103.1	90%	なし	なし	なし	なし	なし

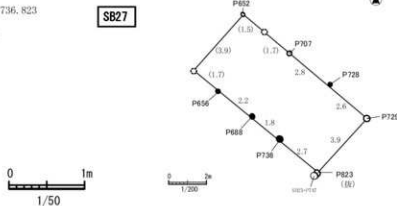
第84図 SB25・26 掘立柱建物跡

【SB27 掘立柱建物跡】

【建物間数】桁行4間×梁行1間 南北棟建物跡
 【建物方向】N-50°-W
 【構成Pit】P652, 656, 688, 707, 728, 729, 736, 823
 【平面規模】桁行8.6m×梁行3.9m
 【溝部構造】桁行1.8～2.8m×梁行3.9m
 【柱間寸法】なし
 【出土遺物】なし
 【重 複】SB27→SB23



【P656・688・728・736】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土

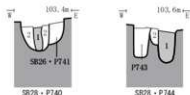
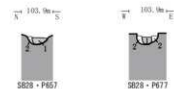


SB27 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (遺構・与間・与梁・遺構間隔)				柱 痕 跡				行 数 型	備 考		
	平面形	長	短	残存 深	底面 標高	構上 標高	平面形	長			短	構上
P652	円形	23	29	24	103.6	100	円形	14	13	90	否	
P656	円形	27	22	16	103.4	100a	円形	14	13	90	否	
P688	円形	33	30	29	103.1	100a	横内形	18	15	98	否	
P707	円形	26	23	22	103.3	98a	—	—	—	—	—	
P728	円形	26	23	20	103.1	100a	円形	13	12	96	否	
P729	円形	33	32	29	103.0	98f	—	—	—	—	—	埋方遺構
P736	円形	34	33	17	103.2	98a	円形	18	14	98	否	
P823	円形	37	32	38	102.9	98a	—	—	—	—	—	行後部 SB23・P747と共通

【SB28 掘立柱建物跡】

【建物間数】桁行2間×梁行2間 東西棟建物跡
 【建物方向】N-39°-E
 【構成Pit】P657, 677, 740, 744, 745, 828, 834
 【平面規模】桁行5.4m×梁行4.7m
 【溝部構造】桁行2.5～2.9m×梁行2.2～2.4m
 【柱間寸法】なし
 【出土遺物】なし
 【重 複】SB26, P691→SB28→P743

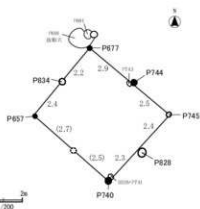


【P657・677・740・744】

1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



SB28



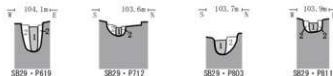
SB28 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (遺構・与間・与梁・遺構間隔)				柱 痕 跡				行 数 型	備 考		
	平面形	長	短	残存 深	底面 標高	構上 標高	平面形	長			短	構上
P657	円形	25	24	15	103.3	100a	円形	22	19	90	否	
P677	円形	28	27	14	103.3	100a	円形	15	13	90	否	P691と共通
P740	円形	34	34	41	102.9	98c	横内形	14	19	88	否	SB26・P741と共通
P744	円形	36	36	39	103.0	98c	円形	23	20	88	否	P743と共通
P745	円形	27	28	13	103.1	100a	—	—	—	—	—	
P828	円形	48	49	50	102.8	98a	—	—	—	—	—	
P834	円形	34	34	18	103.4	98d	—	—	—	—	—	

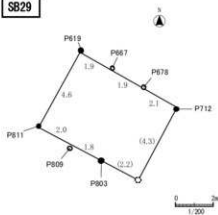
第 85 図 SB27・28 掘立柱建物跡

【SB29 掘立柱建物跡】

【建物間数】桁行3間×梁行1間 東西棟建物跡
 【建物方向】N-29°-E
 【構成Pit】P619, 667, 678, 712, 803, 809, 811
 【平面規模】桁行5.9m×梁行4.6m
 【柱間寸法】桁行1.8～2.1m・梁行4.6m
 【出土遺物】なし
 【重 複】なし



SB29



【P619・712・803・811】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



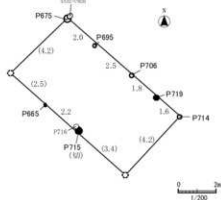
SB29 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット属性 (遺構・柱形・柱径・埋方埋土)				柱 痕 跡				柱 型	備 考	
	平面形	長 軸	短 軸	残存 程度	瓦面 埋土	平面形	長 軸	短 軸			埋土
P619	円形	28	27	37	103.8	100a	円形	14	12	あり	
P667	円形	23	23	14	103.6	100a	-	-	-	-	
P678	円形	24	24	32	103.2	100a	-	-	-	-	
P712	円形	30	26	21	103.2	80a	楕円形	11	8	あり	
P803	円形	32	32	27	103.1	80a	円形	16	15	あり	
P809	円形	27	25	20	103.5	80a	-	-	-	-	
P811	円形	26	23	26	103.6	80a	円形	16	13	あり	

【SB30 掘立柱建物跡】

【建物間数】桁行4間×梁行1間(推定)
 東西棟建物跡
 【建物方向】N-49°-W
 【構成Pit】P665, 675, 695, 706, 714, 715, 719
 【平面規模】桁行7.9m×梁行4.2m(推定)
 【柱間寸法】桁行1.6～2.5m・梁行4.2m(推定)
 【出土遺物】なし
 【重 複】SB30→SA52, P716

SB30



SB30 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	柱穴・ピット属性 (遺構・柱形・柱径・埋方埋土)				柱 痕 跡				柱 型	備 考	
	平面形	長 軸	短 軸	残存 程度	瓦面 埋土	平面形	長 軸	短 軸			埋土
P665	円形	23	20	24	103.4	100a	円形	11	11	あり	
P675	円形	40	36	33	103.6	1層:100a 2層:80a	-	-	-	-	SA52・P820より古
P695	円形	21	20	12	103.3	100a	-	-	-	-	
P706	円形	24	23	16	103.2	80a	-	-	-	-	
P714	円形	22	22	13	103.1	80a	-	-	-	-	
P715	円形	37	(35)	40	103.1	層:100a 埋土:100a	楕円形	13	10	あり	柱切取跡、P716より古
P719	楕円形	33	19	24	103.8	80a	円形	15	14	あり	

【P665・719】

1層：柱痕跡 2層：掘方埋土

【P675】

1・2層：堆積土

【P716】

1層：堆積土(柱切取) 2層：柱痕跡

3層：掘方埋土

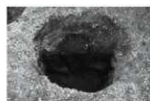
第86図 SB29・30 掘立柱建物跡



1. 平場 A-1 掘立柱建物跡完掘状況 (西から撮影) ※柱穴列跡も含む



2. 平場 A-4 掘立柱建物跡完掘状況 (北東から撮影) ※柱穴列跡も含む



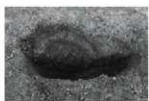
3. SB1・P30 断面 (北から)



4. SB2・P77 断面 (北から)



5. SB4・P28 断面 (東から)



6. SB7・P80 (左)、SB6・P81 (右) 断面 (南から)



7. SB8・P199 断面 (東から)



8. SB10・P198 断面 (東から)



9. SB12・P90 断面 (北から)



10. SB11・P212 (左)、SB13・P213 (右) 断面 (東から)

第87図 掘立柱建物跡 完掘状況・柱穴断面 (1)



1. 平場 A-5 掘立柱建物跡完掘状況 (北東から撮影) ※柱穴六跡も含む



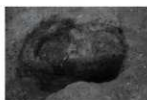
2. SB14・P220 断面 (東から)



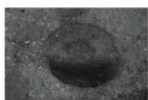
3. SB15・P221 断面 (東から)



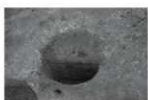
4. SB16・P215 断面 (南から)



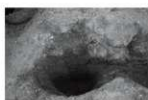
5. SB17・P478 (左)、
P479 (右) 断面 (東から)



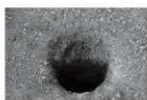
6. SB18・P457 断面 (南から)



7. SB21・P807 断面 (南から)



8. SB22・P737 断面 (南から)



9. SB23・P730 断面 (南から)



10. SB24・P757 断面 (東から)



11. SB25・P726 断面 (東から)



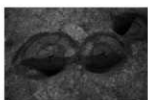
12. SB27・P656 断面 (北から)



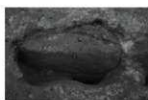
13. P743 (左)、SB28・P744 (右)
断面 (南から)



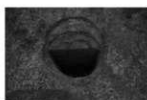
14. SB29・P619 断面 (南から)



15. SB33・P863 (左)、SB31
・P864 (右) 断面 (東から)



16. SB32・P861 (上)、SB33・
P875 (下) 断面 (南から)



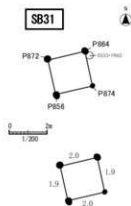
17. SB33・P859 断面 (東から)

第88図 掘立柱建物跡 完掘状況・柱穴断面 (2)

④平場 A-6 で検出した掘立柱建物跡 (第 88～91 図)

【SB31 掘立柱建物跡】

- [建物間数] 桁行1間×梁行1間 正方形建物跡
 [建物方向] N-12°-W
 [構成 Pit] P856, 864, 872, 874
 [平面規模] 桁行2.0m×梁行1.9m
 [柱間寸法] 桁行2.0m×梁行1.9m
 [出土遺物] なし
 [重複] SB33→SB31



【P856・864・872・874】
1層：柱痕跡 2層：掘方埋土

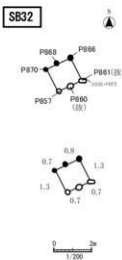


SB31 掘立柱建物跡 構成 Pit 属性表

遺構番号	形状	柱穴・ピット間方 (桁行・梁行)				柱痕跡				柱間型	備考
		平面形	長軸	短軸	残存状況	底面構造	埋土	平面形	長軸		
P856	横四角形	37	31	22	126.6	126d	円形	13	10	9A	あ
P864	円形	31	33	19	126.6	126c	横四角形	13	12	13B	あ
P872	円形	33	32	12	126.6	126d	円形	20	12	13B	あ
P874	円形	22	20	11	126.6	126d	横四角形	10	9	13B	あ

【SB32 掘立柱建物跡】

- [建物間数] 桁行2間×梁行1間 正方形建物跡
 [建物方向] N-27°-W
 [構成 Pit] P857, 860, 861, 866, 868, 870
 [平面規模] 桁行1.5m×梁行1.3m
 [柱間寸法] 桁行0.7～0.8m×梁行1.3m
 [出土遺物] なし
 [重複] SB33→SB32



【P857】1層：堆積土
 【P860】1層：堆積土(柱痕跡) 2層：掘方埋土
 【P861】1層：堆積土(柱痕跡)
 【P866・868・870】1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



SB32 掘立柱建物跡 構成 Pit 属性表

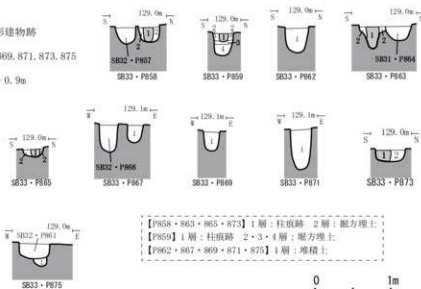
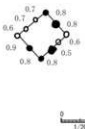
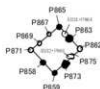
遺構番号	形状	柱穴・ピット間方 (桁行・梁行)				柱痕跡				柱間型	備考
		平面形	長軸	短軸	残存状況	底面構造	埋土	平面形	長軸		
P857	円形	29	27	19	126.6	126d	—	—	—	—	—
P860	横四角形	35	31	23	126.6	柱穴：104a・F埋土：136d	—	—	—	—	柱痕跡 埋土遺物
P861	不整形	41	31	18	126.6	柱穴：134a	—	—	—	—	柱痕跡 SB33・P875上層部
P866	円形	30	29	35	126.5	100d	円形	13	15	14B	あ
P868	円形	27	23	35	126.5	100d	横四角形	15	12	14B	あ
P870	円形	23	22	33	126.6	100d	円形	12	12	14B	あ

第 89 図 SB31・32 掘立柱建物跡

【SB33 掘立柱建物跡】

- [建物間数] 桁行3間×梁行2間 正方形建物跡
 [建物方向] N-42°-W
 [構成Pit] P858, 859, 862, 863, 865, 867, 869, 871, 873, 875
 [平面規模] 桁行2.0m×梁行1.7m
 [柱間寸法] 桁行0.5~0.8m・梁行0.8~0.9m
 [出土遺物] なし
 [重 複] SB33→SB31・32

SB33



【P858・863・865・873】1層：柱痕跡 2層：掘方埋土
 【P859】1層：柱痕跡 2・3・4層：掘方埋土
 【P862・867・869・871・875】1層：埋積土

SB33 掘立柱建物跡 構成Pit属性表

遺構番号	種穴・ピット諸方 (柱間・梁間・寸法, 単位: cm)				種 属 跡				柱間数	備 考	
	平面形	長	短	奥行	掘深	埋土層上	平面形	長			短
P858	円形	29	25	29	128.7	128A	円形	15	12	11A	あ
P859	円形	27	25	29	128.5	埋積1: 128A 埋積2: 130a 埋積3: 128A	円形	12	11	11A	い
P862	円形	31	26	30	128.5	128A	—	—	—	—	—
P863	円形	29	24.1	31	128.5	128A	円形	19	15	13B・5	SB31・P864より近
P865	円形	28	28	32	128.8	128A	円形	16	16	13B	あ
P867	円形	23	21	22	128.7	128A	—	—	—	—	—
P869	円形	25	23	25	128.7	128A	—	—	—	—	—
P871	円形	27	26	33	128.4	128A	—	—	—	—	—
P873	半圓形	41	36	20	128.8	128A	半圓形	23	21	13B	あ
P875	円形	30	24.1	28	128.5	128a	—	—	—	—	SB32・P863より近

第90図 SB33 掘立柱建物跡



第91図 平場A-6 掘立柱建物跡 完掘状況 (西から撮影)

2) 柱穴列跡 (第64～70・92～114図、第6・7表)

今回の調査では、柱穴列跡を70条(SA1～70)確認した。柱穴列跡は平場A-1～5といった比較的面積の広い平場上や斜面部に位置する平場などに分布する(第6表)。その内訳は、平場A-1で11条(SA1～11:第64図)、平場A-2で2条(SA18・19:第65図)、緩斜面1の周辺部で6条(SB12～17:第65図)、平場A-3の周辺部で13条(SB20～32:第66図)、緩斜面2で4条(SA33・39～41:第67図)、平場A-4で5条(SA34～38:第68図)、平場A-5で29条(SA42～70:第69・70図)である。

以下、その概要について説明する。なお、それぞれの建物の詳細については、第92～112図、第7表を参照していただきたい。

【柱穴列の特徴】

今回の調査で確認した柱穴列跡の規模は、1～13間、総長2.4～28.9mを測る。柱間寸法は0.3～7.1mとばらつきがある。その方向は、南北方向に延びるものと東西方向に延びるものが確認されたが、特に規則性は認められない。それぞれの柱穴掘方は、直径30cm前後の円形を呈するものが多く、今回の調査区で確認されている掘立柱建物跡の柱穴と規模・埋土の面で類似する。

【柱穴列の配置・性格】

比較的面積の広い平場(平場A)にある柱穴列のほとんどは平場の周縁部付近に、斜面部に位置する幅の狭い平場(平場B)上に位置する柱穴列は平場と並行する形で配置されている。

今回検出した柱穴列の性格については、その配置や掘立柱建物跡との位置関係から、平場外周等を区画するための柵であったと推定される。ただし、柱間が1間の柱穴列跡(SA68～70)については、柱穴の規模・配置などから別の性格を有していた可能性が考えられる。

【出土遺物と所属時期】

柱穴列として認定した柱穴から遺物は出土していない。柱穴の特徴が掘立柱建物の柱穴と類似していること、掘立柱建物跡の位置関係などから、建物と同時期のものと考えられ、その時期はおおむね中世に属するものと推定される。

第6表 柱穴列の検出位置一覧

検出位置		遺構数	遺構名	掲載図版	
平場A-1	平坦面周縁部	11	SA1～11	全体図:第64図/個別図第92～94図	
平場A-2	平坦面西端	2	SA18・19	全体図:第65図/個別図第96・97図	
緩斜面1	北側端部	2	SA12・13	全体図:第65図/個別図第95・96図	
	南斜面	平場B-6 平坦面	1		SA14
		平場B-7 平坦面	1		SA15
		平場B-8 平坦面	2		SA16・17
平場A-3	北斜面	2	SA20・21	全体図:第66図/個別図第97～101図	
	平坦面	7			SA22～26・31・32
		平場B-4 平坦面	2		SA27・28
	南斜面	2	SA29・30		
緩斜面2	平場A-3 西側付近	1	SA33	全体図:第67図/個別図第101・103図	
	平場B-13 平坦面	3	SA39～41		
平場A-4	平坦面周縁部	5	SA34～38	全体図:第68図/個別図第101・102図	
平場A-5	平坦面周縁部・平坦面内部	29	SA42～70	全体図:第69・70図/個別図第104～112図	

第7表 鷺足館跡 柱穴列跡(SA1~70) 一覧表

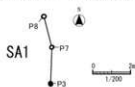
遺構 No.	種類	方向	平面形状		備考	遺構 No.	種類	方向	平面形状		備考
			延長(m)	幅間寸法(m)					延長(m)	幅間寸法(m)	
SA1	溝	南北	3.7	1.7-1.8	溝径P: P37-4	SA8	溝以上	南北	3.9 13.1	1.1-6.1-1.0-0.0	溝径P: P512-513-517-518-521-524
SA2	溝	南北	5.7	2.7-1.9-1.1	溝径P: P100-109-252-284	SA37	溝	東西	10.4	4.2-0.3-2.4	溝径P: P130-138-161-155
SA3	溝	南北	13.8	3.7-2.0-2.1-1.7-0.8-1.3	溝径P: P1-74-40-112-138-232-233	SA38	溝	東西	6.1	3.4-1.7-1.3	溝径P: P151-154-157-158
SA4	溝	南北	12.2	1.7-2.4-2.1-1.5-0.9-0.5	溝径P: P1-110-121-61-73-80-140	SA39	溝	南北	4.8	0.9-1.4-0.1-1.5-1.2	溝径P: P38-103-12-145
SA5	溝	南北	16.1	2.0-2.1-1.1-0.9-0.3-1.4	溝径P: P76-175-185-182-197-211-214 底層 P101-102	SA40	溝	南北	3.7	1.5-0.9-0.7-0.6	溝径P: P81-143-184-188
SA6	溝	東西	15.1	1.8-1.3-0.8-1.1-1.0-1.1-0.7	溝径P: P121-229-242-244-247-248 底層 SA7-106	SA41	溝以上	南北	2.8 13.1	2.8	溝径P: P84-142
SA7	溝	東西	14.3	3.3-1.1-1.9-2.8	溝径P: P121-229-242-244-247-248 底層 SA7-106	SA42	溝	南北	15.7	3.0-2.2-3.3-2.7-2.7	溝径P: P177-781-790
SA8	溝	東西	4.1	1.5-1.9	溝径P: P175-174-176	SA43	溝	南北	12.7	2.0-2.2-2.6-2.2-2.8	溝径P: P175-178-182-781-791
SA9	溝	東西	12.1	3.2-0.9-2.0	溝径P: P76-177-180-245 底層 P100-101	SA44	溝	東西	6.0	2.3-2.6-2.6	溝径P: P177-786-788-791
SA10	溝	東西	2.3	1.2-1.1	溝径P: P119-119-119	SA45	溝	南北	10.5	2.2-0.6-1.0-1.0-0.2	溝径P: P120-162-167-167
SA11	溝	南北	5.1	2.3-2.8	溝径P: P106-210-210	SA46	溝	南北	7.9	2.1-1.2-1.2-1.3	溝径P: P63-136-176
SA12	溝	東西	5.6	1.5-0.9-0.1-1.0-0.7-0.7	溝径P: P111-117 底層 SA12-107-108	SA47	溝	南北	11.4	2.7-2.1-2.1-1.4-2.3	溝径P: P8-40-117-117-136-140-141
SA13	溝	南北	9.9	1.1-1.1-0.9-2.0-2.0-1.1-1.1	溝径P: P130-239-239-239-239-239 底層 SA13-109-110	SA48	溝	南北	13.3	2.2-2.0-1.2-1.3-1.8-1.9	溝径P: P8-43-161-156-136-139-139
SA14	溝	南北	11.2	1.8-1.0-1.0-1.7-2.2-1.2-0.8-1.5	溝径P: P103-239-239-239	SA49	溝	南北	13.8	1.5-1.2-1.3-1.2-1.1-1.1-1.1-1.1-1.1	溝径P: P165-167-168-168-182
SA15	溝	南北	5.8	1.2-1.3-1.1-1.4	溝径P: P177-278-280-282	SA50	溝	南北	15.2	2.0-1.1-1.0-1.0-1.2	溝径P: P173-214-14-142-142-142-142 底層 惣堀 SA50
SA16	溝	南北	11.8	1.3-1.1-1.1-1.3	溝径P: P175-256-264-266	SA51	溝	南北	7.2	2.7-1.2-1.4	溝径P: P71-108-109-113
SA17	溝	東西	4.1	2.0-0.9-0.4	溝径P: P171-171	SA52	溝	南北	7.2	2.5-2.7-2.4	溝径P: P64-73-102-103 底層 惣堀 SA52
SA18	溝	南北	4.2	1.2-1.8	溝径P: P166-266-269	SA53	溝	東西	4.6	1.6-1.9	溝径P: P66-107-109
SA19	溝	南北	4.0	1.7-1.3	溝径P: P145-167-170	SA54	溝	南北	5.2	0.9-1.0-0.8	溝径P: P6-130-130-131
SA20	溝	東西	5.1	1.2-1.3-1.7	溝径P: P140-144	SA55	溝	東西	6.1	3.0-1.1-1.9	溝径P: P63-141-141-146
SA21	溝	東西	9.3	1.9-1.7-2.0-2.2-1.5	溝径P: P107-161-166 底層 SA21-105-106	SA56	溝	東西	5.7	2.5-2.2	溝径P: P128-132-169
SA22	溝	東西	26.9	2.7-2.1-1.4-0.3-1.4-0.9-3.1- 2.3-1.9-0.9-1.1-0.7-1.3	溝径P: P134-137-142-142-145-0.9-100- 152-151-156-159-162-162-171	SA57	溝	東西	5.6	2.0-2.2	溝径P: P120-152-163
SA23	溝	東西	12.1	2.7-1.4-1.0-0.9	溝径P: P140-155-166-170-170	SA58	溝	南北	11.7	2.4-1.1-1.1-1.1	溝径P: P142-181-171-171-171-171 底層 惣堀 SA58
SA24	溝	東西	9.4	2.7-1.1-1.6	溝径P: P157-161-167-164	SA59	溝	南北	6.1	1.6-1.1-1.1	溝径P: P175-176-11-14-11
SA25	溝	東西	6.6	1.6-1.7-0.1-1.4-0.3-2.2	溝径P: P143-148-111	SA60	溝	南北	4.8	2.2-2.6	溝径P: P177-193-141
SA26	溝	東西	15.4	1.0-1.2-1.4-1.4-1.1	溝径P: P138-149-157-159-151-213	SA61	溝	南北	5.9	3.0-2.9	溝径P: P160-195-141
SA27	溝	東西	4.1	1.5-0.9-1.3-0.2	溝径P: P115-117-119 底層 SA27-104-105	SA62	溝	南北	4.2	1.9-2.2	溝径P: P141-196-163
SA28	溝	東西	14.2	1.9-1.6-2.1-1.2-0.9-1.1-1.8-1.3	溝径P: P141-187-187-187-111-111-111- 113 底層 SA28-104-105	SA63	溝	南北	7.5	2.2-1.9-1.9-2.0	溝径P: P141-111-141-141-145
SA29	溝	東西	12.2	1.9-1.9-1.9-1.3	溝径P: P140-141-141-141-141	SA64	溝	南北	3.7	2.2-0.1-1.5	溝径P: P139-141-139-133
SA30	溝	東西	5.4	1.7-0.9-1.0	溝径P: P140-121-121-121 底層 P127-133A	SA65	溝	南北	2.4	1.4-1.9	溝径P: P136-147-144
SA31	溝	南北	5.0	1.2-1.2-4.9	溝径P: P140-121-136-136	SA66	溝	南北	10.5	1.3-1.1-1.4-1.2-1.2	溝径P: P151-154-157-160-164 底層 SA66-159
SA32	溝	南北	4.6	2.3-1.8-0.5	溝径P: P164-173-181-185	SA67	溝	南北	3.8	1.4-1.1-1.7	溝径P: P141-141-151-136
SA33	溝以上	南北	2.2 13.1	2.2	溝径P: P122-127	SA68	溝	南北	4.3	4.3	溝径P: P160-160 底層 P160-154
SA34	溝	南北	6.2	2.0-2.4-0.7-0.9-1.2	溝径P: P120-136-140-140-140-142	SA69	溝	南北	3.8	3.8	溝径P: P173-161
SA35	溝	南北	4.6	1.8-2.0-1.9	溝径P: P123-137-135-135	SA70	溝	南北	3.7	3.7	溝径P: P167-149

※柱間寸法は、東西方向のものは西から、南北方向のものは北から順に記した。

※右の一部が消失しているかと思われる柱穴列の柱間寸法は、実際の計測値(●)推定値(○)とし、縦長●、●●●●●●●●と表記。

【SA1 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P3, 7, 8
 〔規模〕 2間・総長 3.7m
 〔柱間寸法〕 1.7～2.0m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ビット跡方 (注釈・名称・寸法・埋没状況等)					柱穴跡				柱間型	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA1	P3	円形	27	24	26	66.6	75a	円形	13	11	60	あ	
	P7	円形	23	22	10	66.6	75a	—	—	—	—		
	P8	円形	28	27	63	66.6	75a	—	—	—	—		

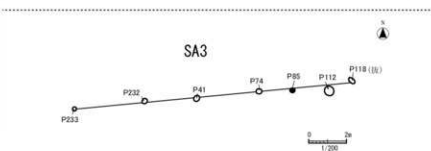


【SA2 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P168, 169, 252, 264
 〔規模〕 3間・総長 5.7m
 〔柱間寸法〕 1.1～2.7m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし

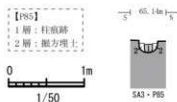


遺構番号	柱穴・ビット跡方 (注釈・名称・寸法・埋没状況等)					柱穴跡				柱間型	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA2	P168	円形	29	25	20	66.5	75a	円形	9	9	60	あ	
	P169	円形	28	26	8	66.6	75a	—	—	—	—		
	P252	楕円形	28	20	8	66.9	66d	—	—	—	—		
	P264	円形	27	17	7	67.0	66d	—	—	—	—		



【SA3 柱穴列跡】

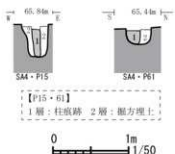
〔構成 Pit〕 P41, 74, 85, 112, 118, 232, 233
 〔規模〕 6間・総長 13.8m
 〔柱間寸法〕 1.7～3.7m
 〔方向〕 東西
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ビット跡方 (注釈・名称・寸法・埋没状況等)					柱穴跡				柱間型	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土
SA3	P41	円形	32	24	25	65.2	66a	—	—	—	—	
	P74	円形	27	24	12	64.0	66a	—	—	—	—	
	P85	円形	26	25	17	64.6	75a	円形	11	10	60	あ
	P112	円形	43	42	11	64.5	66a	—	—	—	—	
	P118	円形	28	28	33	64.1	柱穴: 66d 埋土: 75a	—	—	—	—	柱後取
	P232	円形	32	20	25	65.1	66a	—	—	—	—	
	P233	円形	23	21	11	65.5	66a	—	—	—	—	

【SA4 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P4, 15, 42, 61, 73, 89, 163
 〔規模〕 6間・総長 12.2m
 〔柱間寸法〕 1.5～2.5m
 〔方向〕 東西
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし

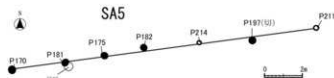
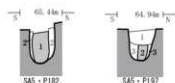
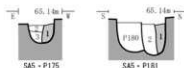


遺構番号	柱穴・ビット跡方 (注釈・名称・寸法・埋没状況等)					柱穴跡				柱間型	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土
SA4	P4	円形	31	30	11	65.6	75a	—	—	—	—	
	P15	円形	32	21	21	65.1	75d	円形	11	10	60	あ
	P42	円形	25	25	9	65.2	66a	—	—	—	—	
	P61	円形	32	32	23	65.0	75a	円形	19	16	60	あ
	P73	円形	45	43	15	64.8	66a	—	—	—	—	
	P89	楕円形	40	25	40	64.3	1層: 75a 2層: 66a	—	—	—	—	
	P163	円形	26	20	17	65.3	66a	—	—	—	—	

第92図 SA1～4 柱穴列跡

【SA5 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P170, 175, 181, 182, 197, 211, 214
 【規模】 6間・総長 16.1m
 【柱間寸法】 2.1～3.4m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし / 【重複】 P180→SA5



【P175】1層：柱痕跡 2・5層：掘方埋土
 【P181・182】1層：柱痕跡 2層：掘方埋土
 【P197】1層：堆積土（柱切取） 2層：柱痕跡 3層：掘方埋土

遺構番号	柱穴・ピット番号（注釈）	柱穴・ピット掘方（注釈）				柱痕跡			柱間型	備考			
		平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形			長軸	短軸	埋土
SA5	P170	円形	26	26	29	63.3	76c	埋土	円形	20	17	98	なし
	P175	円形	32	29	26	65.1	掘方175a 掘方295a	掘方埋土	円形	15	14	98	なし
	P181	円形	34	33	30	63.0	98a・f	埋土	円形	17	15	98	なし
	P182	円形	34	33	29	64.9	98d	掘方埋土	20	14	98	なし	
	P197	円形	36	33	11	64.2	切取985a 掘方76c	埋土	円形	13	10	98	柱切取
	P211	円形	24	24	28	61.2	76d	埋土	—	—	—	—	—
P214	円形	20	22	9	61.9	76d	埋土	—	—	—	—	—	

【SA6 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P237～239, 241～244, 247
 【規模】 7間・総長 15.1m
 【柱間寸法】 1.5～3.7m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし
 【重複】 SA7→SA6



遺構番号	柱穴・ピット番号（注釈）	柱穴・ピット掘方（注釈）				柱痕跡			柱間型	備考			
		平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形			長軸	短軸	埋土
SA6	P237	円形	44	43	26	64.9	掘方198a 掘方295d・f	埋土	—	—	—	—	柱切取 埋方遺物
	P238	円形	25	24	19	65.0	76c	埋土	—	—	—	—	—
	P239	楕円形	40	35	6	64.9	76d	埋土	—	—	—	—	—
	P241	円形	30	30	10	64.9	76d	埋土	—	—	—	—	—
	P242	円形	27	27	30	64.5	76d	埋土	—	—	—	—	—
	P243	円形	26	26	29	64.3	76d	埋土	—	—	—	—	—
	P244	円形	30	27	30	64.2	76d	埋土	—	—	—	—	—
	P247	円形	32	30	14	63.7	98d	埋土	—	—	—	—	SA7・P237より

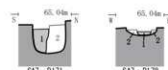


【P237】
 1・2層：堆積土（柱切取）

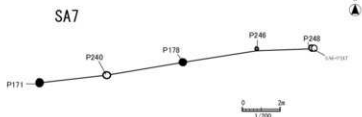


【SA7 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P171, 178, 240, 246, 248
 【規模】 4間・総長 14.3m
 【柱間寸法】 2.8～4.1m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし / 【重複】 SA7→SA6



【P171・178】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



遺構番号	柱穴・ピット番号（注釈）	柱穴・ピット掘方（注釈）				柱痕跡			柱間型	備考			
		平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形			長軸	短軸	埋土
SA7	P171	楕円形	30	11	10	64.9	76c	埋土	円形	22	22	98	なし
	P178	楕円形	43	36	11	64.7	76d	埋土	円形	18	18	98	なし
	P240	円形	40	39	13	64.8	76d	埋土	—	—	—	—	
	P246	円形	19	17	17	64.3	76d	埋土	—	—	—	—	
	P248	円形	20	110	12	63.7	76d	埋土	—	—	—	—	

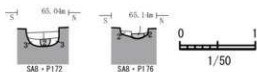
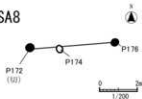
第93図 SA5～7 柱穴列跡

【SA8 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P172, 174, 176
 【規模】 2間・総長 4.4m
 【柱間寸法】 1.5～2.9m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (平面・長軸・短軸・残存・底面・埋土)					柱礎跡				柱型	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存	底面	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
P172	円形	43	42	29	65.0	90a	70a	70a	17	13	90	あ	柱切取
P174	円形	37	33	18	65.0	90a	50a	—	—	—	—	—	—
P176	円形	38	38	12	64.9	90a	90a	90a	18	18	50	あ	—

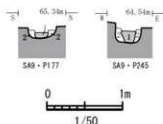
SA8



【P172】
 1層：堆積土 (柱切取) 2層：柱礎跡
 3層：掘方埋土
 【P176】
 1層：柱礎跡 2層：掘方埋土

【SA9 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P173, 177, 191, 245
 【規模】 3間・総長 12.1m
 【柱間寸法】 3.3～5.0m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし
 【重複】 P190→SA9→SB14



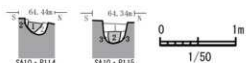
【P177・245】
 1層：柱礎跡
 2層：掘方埋土

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (平面・長軸・短軸・残存・底面・埋土)					柱礎跡				柱型	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存	底面	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土
P173	円形	33	33	29	63.2	90a	—	—	—	—	—	—
P177	円形	39	38	14	65.0	70a	楕円形	21	17	90	あ	—
P191	円形	29	26	13	64.3	90a	—	—	—	—	—	P190より前
P245	円形	37	37	25	64.9	70a	円形	19	18	90	あ	SB14・P220より前

【SA10 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P114, 115, 119
 【規模】 2間・総長 2.4m
 【柱間寸法】 1.1～1.3m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (平面・長軸・短軸・残存・底面・埋土)					柱礎跡				柱型	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存	底面	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
P114	円形	32	28	29	64.1	80a	円形	19	13	90	あ	—	
P115	円形	33	32	29	63.9	90a	70a	70a	18	17	90	あ	柱切取
P119	円形	25	24	18	64.0	80a	—	—	—	—	—	—	

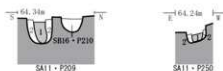
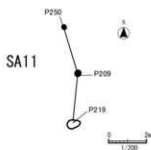


【P114】
 1層：柱礎跡 2層：掘方埋土
 【P115】
 1層：堆積土 (柱切取) 2層：柱礎跡
 3層：掘方埋土

【SA11 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P209, 219, 250
 【規模】 2間・総長 5.1m
 【柱間寸法】 2.5～2.6m
 【方向】 南北
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (平面・長軸・短軸・残存・底面・埋土)					柱礎跡				柱型	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存	底面	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土
P209	円形	36	35	32	63.8	70a	円形	16	16	90	あ	—
P219	楕円形	42	48	33	63.8	1層：70a 2層：70a	—	—	—	—	—	—
P250	円形	26	26	15	63.8	90a	円形	14	13	60	あ	—



【P209・250】
 1層：柱礎跡 2層：掘方埋土

第94図 SA8～11 柱穴列跡

【SA12 柱穴列跡】

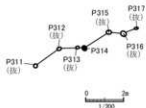
〔構成 Pit〕 P311～317
 〔規模〕 6間・総長 5.6m
 〔柱間寸法〕 0.3～1.5m
 〔方向〕 東西
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 SA12→整地層



【P314】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



SA12



遺構番号	柱穴・ピット掘方 (平面・断面 → 平面・断面)					柱 痕 跡				柱 間 型	備 考	
	平面形	長 軸	短 軸	残存 柱径	断面 柱高	埋土 層上	平面形	長軸	短軸			埋土 層上
P311	円形	22	19	19	76.6	底穴：76a	—	—	—	—	—	整地層より古
P312	円形	25	24	13	74.2	底穴：76a	—	—	—	—	—	整地層より古
P313	円形	24	23	14	74.2	底穴：76a	—	—	—	—	—	整地層より古
P314	円形	29	26	15	76.2	76a	円形	12	11	98a	—	整地層より古
P315	円形	30	29	9	77.9	底穴：76a	—	—	—	—	—	整地層より古
P316	楕円形	38	30	14	77.8	底穴：76a	—	—	—	—	—	整地層より古
P317	円形	29	17	13	77.4	底穴：76a	—	—	—	—	—	整地層より古

【SA13 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P318～320, 322, 325, 327～329
 〔規模〕 7間・総長 9.9m
 〔柱間寸法〕 0.9～2.0m
 〔方向〕 東西
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 SD2→SA13→整地層



【P325】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



遺構番号	柱穴・ピット掘方 (平面・断面 → 平面・断面)					柱 痕 跡				柱 間 型	備 考	
	平面形	長 軸	短 軸	残存 柱径	断面 柱高	埋土 層上	平面形	長軸	短軸			埋土 層上
P318	円形	29	19	12	76.6	底穴：76a	—	—	—	—	—	整地層より古
P319	円形	19	18	9	76.5	底穴：76a	—	—	—	—	—	整地層より古
P320	円形	32	21	12	76.0	底穴：76a	—	—	—	—	—	整地層より古
P322	円形	34	30	46	76.5	底穴：76a	—	—	—	—	—	整地層より古 柱痕跡
P325	円形	27	24	15	76.4	76a	円形	13	10	98a	—	50cm未満 整地層より古 柱痕跡
P327	円形	24	21	20	74.9	底穴：76a	—	—	—	—	—	整地層より古 柱痕跡
P328	円形	26	26	15	74.7	底穴：76a	—	—	—	—	—	柱痕跡
P329	円形	34	31	20	74.7	底穴：76a	—	—	—	—	—	柱痕跡

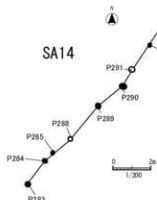
【SA14 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P283～285, 288～293
 〔規模〕 8間・総長 11.2m
 〔柱間寸法〕 0.6～2.2m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (平面・断面 → 平面・断面)					柱 痕 跡				柱 間 型	備 考	
	平面形	長 軸	短 軸	残存 柱径	断面 柱高	埋土 層上	平面形	長軸	短軸			埋土 層上
P283	円形	29	28	14	72.7	76a	円形	11	11	98a	—	—
P284	楕円形	29	25	28	72.5	58a	円形	19	19	98a	—	—
P285	円形	25	23	13	72.6	58a	円形	11	16	98a	—	—
P288	円形	22	22	16	72.4	69a	—	—	—	—	—	—
P289	円形	31	31	23	71.8	96a	円形	12	11	98a	—	—
P290	楕円形	40	31	10	71.2	断面1：105a 断面2：85a	円形	12	19	98a	—	—
P291	円形	34	32	14	71.3	76a	—	—	—	—	—	—
P292	円形	23	20	10	71.2	断面1：105a 断面2：85a	円形	10	9	98a	—	—
P293	円形	26	23	11	71.2	76a	—	—	—	—	—	—



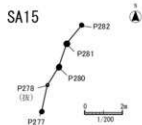
【P283・284】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



第95図 SA12～14 柱穴列跡

【SA15 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P277, 278, 280 ~ 282
 〔規模〕 4間・総長 5.0m
 〔柱間寸法〕 1.1 ~ 1.4m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



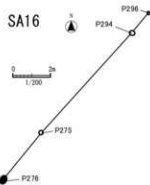
遺構番号	柱穴・ピット部					柱基礎			柱間型	備考			
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面高さ	厚土	平面形	長軸			短軸	厚土	
SA15	P277	円形	28	25	25	72.9	掘削1: 78d 掘削2: 105d	円形	11	10	98	あ	
	P278	円形	20	20	20	72.2	掘削: 78d	—	—	—	—	—	柱基礎
	P280	円形	32	30	19	72.2	100d	円形	12	10	58	あ	
	P281	円形	38	36	15	72.2	78d	円形	19	19	58	あ	
	P282	円形	25	23	19	72.1	58d	円形	9	9	58	あ	



〔P280 ~ 282〕
 1層: 柱痕跡 2層: 掘方理上

【SA16 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P275, 276, 294, 296
 〔規模〕 3間・総長 11.6m
 〔柱間寸法〕 1.3 ~ 7.1m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



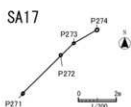
遺構番号	柱穴・ピット部					柱基礎			柱間型	備考			
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面高さ	厚土	平面形	長軸			短軸	厚土	
SA16	P276	円形	25	23	8	68.9	98d	—	—	—	—	—	
	P276	楕円形	44	36	8	68.8	98d	円形	18	17	58	あ	
	P294	楕円形	30	26	33	68.1	58d	—	—	—	—	—	
	P296	円形	11	13	12	68.4	58d	—	—	—	—	—	



〔P276〕
 1層: 柱痕跡 2層: 掘方理上

【SA17 柱穴列跡】

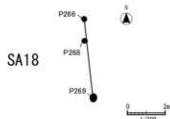
〔構成 Pit〕 P271 ~ 274
 〔規模〕 3間・総長 4.1m
 〔柱間寸法〕 0.4 ~ 2.8m
 〔方向〕 東西
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし



〔P272 ~ 274〕 1層: 地積土

【SA18 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P266, 268, 269
 〔規模〕 2間・総長 4.2m
 〔柱間寸法〕 1.2 ~ 3.0m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット部					柱基礎			柱間型	備考			
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面高さ	厚土	平面形	長軸			短軸	厚土	
SA18	P266	円形	27	25	11	72.9	78d	円形	11	10	98	あ	
	P268	円形	26	26	16	72.9	78d	円形	9	7	98	あ	
	P269	楕円形	41	33	19	72.9	78d	円形	23	22	98	あ	

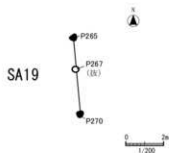


〔P266・268・269〕
 1層: 柱痕跡 2層: 掘方理上

第96図 SA15 ~ 18 柱穴列跡

【SA19 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P265, 267, 270
 〔規模〕 2間・総長 4.0m
 〔柱間寸法〕 1.7～2.3m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット諸方 <small>〔名称・形状・寸法・遺物等〕</small>					柱 礎 跡				柱 間 寸	備 考		
	平面形	長	短	残存部	底面標高	礎上	平面形	長軸	短軸			礎上	
P265	円形	35	33	15	72.7	78d	円形	20	17	80	5		
P267	円形	33	33	35	72.5	78d 柱穴：78d 柱穴：98d	—	—	—	—	—	—	柱取跡
P270	楕円形	35	29	8	72.8	78d	円形	17	16	80	5		

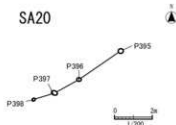


【P265・270】
 1層：柱取跡 2層：掘方埋土



【SA20 柱穴列跡】

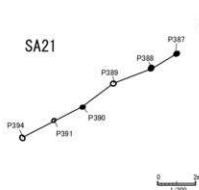
〔構成 Pit〕 P395～398
 〔規模〕 3間・総長 5.4m
 〔柱間寸法〕 1.2～2.7m
 〔方向〕 東西
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット諸方 <small>〔名称・形状・寸法・遺物等〕</small>					柱 礎 跡				柱 間 寸	備 考	
	平面形	長	短	残存部	底面標高	礎上	平面形	長軸	短軸			礎上
P395	楕円形	25	20	13	82.5	65a	—	—	—	—	—	
P396	円形	25	24	12	82.1	65a	—	—	—	—	—	
P397	円形	30	28	12	82.0	65a	—	—	—	—	—	
P398	円形	24	20	11	82.8	65a	—	—	—	—	—	

【SA21 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P387～391, 394
 〔規模〕 5間・総長 9.3m
 〔柱間寸法〕 1.5～2.2m
 〔方向〕 東西
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 SA21→整地層



遺構番号	柱穴・ピット諸方 <small>〔名称・形状・寸法・遺物等〕</small>					柱 礎 跡				柱 間 寸	備 考	
	平面形	長	短	残存部	底面標高	礎上	平面形	長軸	短軸			礎上
P387	円形	30	26	5d	81.4	76c	円形	10	8	65	5	整地層より古
P388	円形	30	29	18	81.9	76c	楕円形	17	12	95	5	整地層より古
P389	円形	26	26	17	81.9	76c	—	—	—	—	—	整地層より古
P390	円形	27	23	30	81.9	76c	楕円形	16	12	55	5	整地層より古
P391	円形	26	24	10	82.1	76c	—	—	—	—	—	整地層より古
P394	円形	24	23	15	81.7	65a	—	—	—	—	—	整地層より古



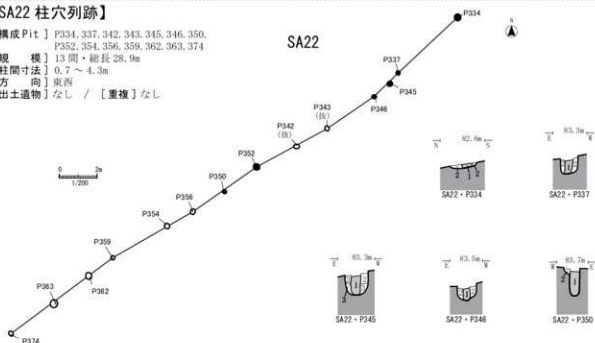
【P387・388・390】
 1層：柱取跡 2層：掘方埋土



第 97 図 SA19～21 柱穴列跡

【SA22 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P334, 337, 342, 343, 345, 346, 350,
P352, 354, 356, 359, 362, 363, 374
【規模】 13間・総長28.9m
【柱間寸法】 0.7～4.3m
【方向】 東西
【出土遺物】 なし / 【重複】 なし



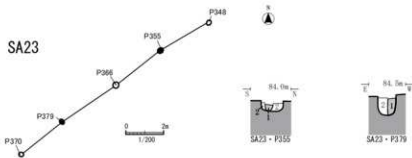
遺構番号	柱穴・ピット番号 (名称・形状・寸法・底面標高・m)					柱礎跡				柱型	備考		
	平面形	長	短	柱径	底面標高	平面形	長	短	厚さ				
SA22	P334	円形	39	33	3	82.1	86a	円形	16	14	65	あ	
	P337	円形	28	23	22	82.7	86a	円形	10	9	59	あ	
	P342	円形	30	28	11	83.2	柱穴1: 38a 柱穴2: 75d	—	—	—	—	柱礎痕	
	P343	円形	29	24	5	83.2	柱穴: 38a	—	—	—	—	柱礎痕	
	P345	円形	30	28	32	82.8	製煉1: 75d 製煉2: 53d	円形	14	12	66	あ	
	P346	楕円形	30	22	29	83.0	86a	円形	10	9	59	あ	
	P350	円形	28	22	37	83.3	75d	円形	14	13	5A	5	
	P352	楕円形	38	33	69	83.0	75d	円形	18	18	6A	あ	
	P354	楕円形	33	28	18	83.5	86a	—	—	—	—	—	
	P356	円形	33	29	10	83.4	86a	—	—	—	—	—	
	P359	円形	24	24	4	83.9	86a	—	—	—	—	—	
	P362	円形	34	33	25	83.9	75d	—	—	—	—	—	
	P363	楕円形	43	38	39	83.9	1層: 85d 2層: 75d	—	—	—	—	—	
P374	楕円形	32	26	30	84.3	86a	—	—	—	—	—		

【P334・337・346・350・352】
1層: 柱礎跡 2層: 掘方埋土
【P345】
1層: 柱礎跡 2・3層: 掘方埋土



【SA23 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P348, 355, 366, 370, 379
【規模】 4間・総長12.1m
【柱間寸法】 2.7～3.4m
【方向】 東西
【出土遺物】 なし
【重複】 なし



遺構番号	柱穴・ピット番号 (名称・形状・寸法・底面標高・m)					柱礎跡				柱型	備考	
	平面形	長	短	柱径	底面標高	平面形	長	短	厚さ			
SA23	P348	円形	30	28	28	83.4	75d	—	—	—	—	
	P355	円形	33	31	14	83.7	86a	円形	12	10	6A	あ
	P366	円形	29	26	10	84.0	86a	—	—	—	—	—
	P370	円形	28	25	14	84.4	86a	—	—	—	—	—
	P379	円形	28	27	28	84.4	75d	円形	12	11	60	あ

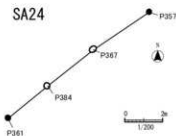
【P355・379】
1層: 柱礎跡 2層: 掘方埋土



第98図 SA22・23 柱穴列跡

【SA24 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P357, 361, 367, 384
 〔規模〕 3間・総長 9.4m
 〔柱間寸法〕 2.7～3.6m
 〔方向〕 東西
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット部方 (長軸・短軸・深・底面傾斜角)				柱 礎 跡				柱 間 間 隔	備 考	
	平面形	長軸	短軸	残存部高	平面形	長軸	短軸	埋上			
P357	円形	29	27	0	83.6	78d	円形	12	18	18	なし
P361	円形	30	29	23	84.2	74d	円形	12	19	34	なし
P367	楕円形	49	32	23	83.9	58d	—	—	—	—	—
P384	円形	34	33	6	84.2	55d	—	—	—	—	—



【P357・361】

1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



【SA25 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P382, 408～413
 〔規模〕 6間・総長 8.0m
 〔柱間寸法〕 0.7～2.2m
 〔方向〕 東西
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット部方 (長軸・短軸・深・底面傾斜角)				柱 礎 跡				柱 間 間 隔	備 考	
	平面形	長軸	短軸	残存部高	平面形	長軸	短軸	埋上			
P382	円形	23	22	29	84.2	76d	—	—	—	—	—
P408	楕円形	26	20	19	83.9	58d	—	—	—	—	—
P409	円形	19	19	0	83.8	58d	—	—	—	—	—
P410	楕円形	33	24	19	83.9	78d	—	—	—	—	—
P411	円形	20	19	18	83.7	76d	—	—	—	—	—
P412	円形	26	23	10	83.8	75d	—	—	—	—	—
P413	円形	31	30	15	83.7	95d	—	—	—	—	—



【P412】

1層：堆積土



【SA26 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P338, 340, 347, 349, 351, 353
 〔規模〕 5間・総長 15.4m
 〔柱間寸法〕 1.6～6.1m
 〔方向〕 東西
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット部方 (長軸・短軸・深・底面傾斜角)				柱 礎 跡				柱 間 間 隔	備 考	
	平面形	長軸	短軸	残存部高	平面形	長軸	短軸	埋上			
P338	円形	25	24	14	81.9	95d	楕円形	14	18	78	なし
P340	円形	34	33	29	82.8	73d	—	—	—	—	—
P347	円形	39	34	6	83.2	76d	—	—	—	—	—
P349	円形	39	34	17	83.2	78d	円形	18	18	18	なし
P351	楕円形	52	39	19	83.0	84d・78d	—	—	—	—	柱礎跡
P353	円形	38	35	33	82.8	75d	円形	20	17	94	なし



【P338・353】

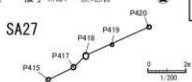
1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



第 99 図 SA24～26 柱穴列跡

【SA27 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P415, 417 ~ 420
 【規模】 4間・総長 6.1m
 【柱間寸法】 0.9 ~ 2.2m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし
 【重複】 SA27→整地層



遺構番号	柱穴・ピット遺方 (平面・長軸・短軸・残存・底面・埋土)						柱 痕 跡				柱 間 考	
	平面形	長軸	短軸	残存	底面	埋土	平面形	長軸	短軸	埋土		
SA27 P415	円形	20	20	11	79.8	55d	—	—	—	—	—	整地層より古
P417	円形	22	24	23	76.7	55d	—	—	—	—	—	整地層より古
P418	楕円形	36	39	37	76.6	55d	—	—	—	—	—	整地層より古
P419	円形	20	20	18	78.9	55d	—	—	—	—	—	整地層より古
P420	円形	20	20	16	76.4	55d	—	—	—	—	—	整地層より古



【P417】
1層：埋積土



【SA28 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P401, 402, 405 ~ 407,
 P414, 421 ~ 423
 【規模】 8間・総長 14.2m
 【柱間寸法】 0.8 ~ 2.9m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし
 【重複】 SA28→整地層



遺構番号	柱穴・ピット遺方 (平面・長軸・短軸・残存・底面・埋土)						柱 痕 跡				柱 間 考	
	平面形	長軸	短軸	残存	底面	埋土	平面形	長軸	短軸	埋土		
SA28 P401	円形	22	20	32	79.1	55d	—	—	—	—	—	整地層より古
P402	円形	26	26	3	76.1	75b	—	—	—	—	—	整地層より古
P405	円形	21	19	11	79.4	115c	—	—	—	—	—	整地層より古
P406	円形	21	18	22	79.2	76d + f	—	—	—	—	—	整地層より古 埋土：底土
P407	円形	22	20	27	76.4	75b	円形	10	9	95	あ	整地層より古
P414	円形	22	19	17	79.0	55d	—	—	—	—	—	整地層より古
P421	円形	20	20	14	76.4	55d	—	—	—	—	—	整地層より古
P422	円形	26	23	9	76.4	95d	—	—	—	—	—	整地層より古
P423	円形	20	21	21	76.9	55d	—	—	—	—	—	整地層より古

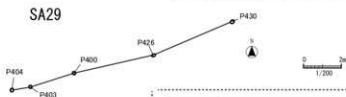


【P407】
1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



【SA29 柱穴列跡】

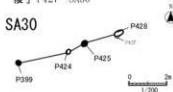
【構成 Pit】 P400, 403, 404, 426, 430
 【規模】 4間・総長 12.2m
 【柱間寸法】 1.0 ~ 4.5m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし



遺構番号	柱穴・ピット遺方 (平面・長軸・短軸・残存・底面・埋土)						柱 痕 跡				柱 間 考	
	平面形	長軸	短軸	残存	底面	埋土	平面形	長軸	短軸	埋土		
SA29 P400	円形	19	17	39	76.9	55d	—	—	—	—	—	—
P403	円形	22	21	12	79.0	75b	—	—	—	—	—	—
P404	円形	21	21	24	79.9	18c	—	—	—	—	—	—
P426	楕円形	31	15	14	77.5	45d	—	—	—	—	—	—
P430	楕円形	24	19	15	76.8	55d	—	—	—	—	—	—

【SA30 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P399, 424, 425, 428
 【規模】 3間・総長 5.4m
 【柱間寸法】 0.9 ~ 2.7m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし
 【重複】 P427→SA30



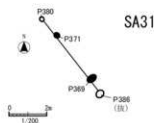
【P425】
1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



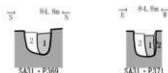
第100図 SA27 ~ 30 柱穴列跡

【SA31 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P369, 371, 380, 386
 〔規模〕 3間・総長 5.0m
 〔柱間寸法〕 0.9 ~ 2.9m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット跡方 (注: 長・幅・残存・高さ・埋土)					柱痕跡				柱断面	備考	
	平面形	長	幅	残存	高さ	埋土	平面形	長	幅			埋土
SA31 P369	円形	10	31	36	81.2	55a	円形	20	18	18	あり	
P371	円形	31	29	36	81.2	25a	円形	12	12	90	あり	
P380	円形	27	23	0	81.3	25a	—	—	—	—	—	
P386	残円形	44	38	15	81.2	埋土: 75a 埋土: 95a	—	—	—	—	—	柱痕跡



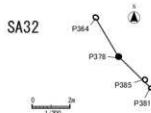
【P369・371】

1層: 柱痕跡 2層: 掘方埋土



【SA32 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P364, 378, 381, 385
 〔規模〕 3間・総長 4.6m
 〔柱間寸法〕 0.5 ~ 2.3m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット跡方 (注: 長・幅・残存・高さ・埋土)					柱痕跡				柱断面	備考	
	平面形	長	幅	残存	高さ	埋土	平面形	長	幅			埋土
SA32 P364	円形	29	29	18	81.9	55a	—	—	—	—	—	
P378	円形	32	29	7	81.3	25a	円形	17	17	90	あり	
P381	円形	22	20	10	81.7	25a	—	—	—	—	—	
P385	円形	27	27	37	81.4	25a	—	—	—	—	—	



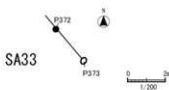
【P378】

1層: 柱痕跡 2層: 掘方埋土



【SA33 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P372, 373
 〔規模〕 1間以上・総長 2.2m以上
 〔柱間寸法〕 2.2m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット跡方 (注: 長・幅・残存・高さ・埋土)					柱痕跡				柱断面	備考	
	平面形	長	幅	残存	高さ	埋土	平面形	長	幅			埋土
SA33 P372	円形	30	29	31	87.9	25a	円形	18	15	18	あり	
P373	円形	33	32	7	87.9	25a	—	—	—	—	—	



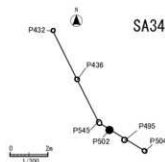
【P372】

1層: 柱痕跡 2層: 掘方埋土



【SA34 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P432, 436, 495, 502, 504, 545
 〔規模〕 5間・総長 8.2m
 〔柱間寸法〕 0.7 ~ 2.8m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット跡方 (注: 長・幅・残存・高さ・埋土)					柱痕跡				柱断面	備考	
	平面形	長	幅	残存	高さ	埋土	平面形	長	幅			埋土
SA34 P432	円形	22	22	17	96.9	55a	—	—	—	—	—	
P436	円形	26	23	29	96.4	55a	—	—	—	—	—	
P495	円形	29	28	23	95.9	55a	—	—	—	—	—	
P502	円形	40	37	33	95.9	55a	円形	13	12	18	あり	
P504	円形	29	25	20	95.7	95a	—	—	—	—	—	
P545	円形	32	29	33	95.9	95a	—	—	—	—	—	



【P502】

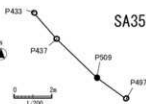
1層: 柱痕跡 2層: 掘方埋土



第101図 SA31 ~ 34 柱穴列跡

【SA35 柱穴列跡】

[構成 Pit] P433, 437, 497, 509
 [規模] 3間・総長6.6m
 [柱間寸法] 1.8～2.9m
 [方向] 南北
 [出土遺物] なし / [重複] なし



遺構番号	柱穴・ピット壁方 (北側・西側・南側・東側)					柱礎跡				柱間寸法	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	表面積	礎土	平面形	長軸	短軸			礎土	
P433	円形	2.9	2.5	1.1	96.7	95a	—	—	—	—	—	—	
P437	円形	2.9	2.9	2.4	96.4	95d	—	—	—	—	—	—	
P497	円形	2.9	2.9	1.2	95.7	95d	—	—	—	—	—	—	
P509	円形	2.6	2.6	1.6	95.9	95d	円形	2.4	1.1	95a	6	6	6

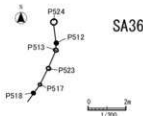


【P509】
 1層：柱礎跡 2層：面方埋土



【SA36 柱穴列跡】

[構成 Pit] P512, 513, 517, 518, 523, 524
 [規模] 5間以上・総長3.9m以上
 [柱間寸法] 0.4～1.1m
 [方向] 南北
 [出土遺物] なし / [重複] なし



遺構番号	柱穴・ピット壁方 (北側・西側・南側・東側)					柱礎跡				柱間寸法	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	表面積	礎土	平面形	長軸	短軸			礎土	
P512	円形	2.3	2.2	2.4	95.3	76d	円形	1.2	1.0	95a	6	6	6
P513	楕円形	2.0	2.5	0	95.4	76d	—	—	—	—	—	—	—
P517	円形	1.9	1.8	1.4	95.3	189a	—	—	—	—	—	—	—
P518	円形	2.1	2.0	2.4	95.1	95a	円形	0.6	0.6	95a	6	6	6
P523	円形	2.0	2.2	1.6	95.3	76a	—	—	—	—	—	—	—
P524	楕円形	2.0	2.0	2.4	95.4	95d	—	—	—	—	—	—	—

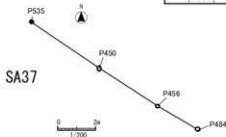


【P512・518】
 1層：柱礎跡 2層：面方埋土



【SA37 柱穴列跡】

[構成 Pit] P450, 456, 484, 535
 [規模] 3間・総長10.4m
 [柱間寸法] 2.4～4.3m
 [方向] 東西
 [出土遺物] なし / [重複] なし

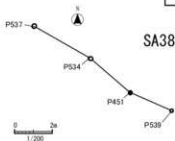


【P535】
 1層：柱礎跡 2層：面方埋土



【SA38 柱穴列跡】

[構成 Pit] P451, 534, 537, 539
 [規模] 3間・総長8.4m
 [柱間寸法] 2.3～3.4m
 [方向] 東西
 [出土遺物] なし / [重複] なし



【P451】
 1層：柱礎跡 2層：面方埋土



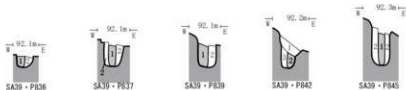
第102図 SA35～38 柱穴列跡

【SA39 柱穴列跡】

- 〔構成 Pit〕 P836 ~ 839, 842, 845
 〔規模〕 5間・総長 4.8m
 〔柱間寸法〕 0.3 ~ 1.5m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし

遺構 番号	柱穴・ピット部方 <small>〔注釈〕</small>					柱 礎 跡				柱 型 考		
	平面形	長 軸	短 軸	残存 部	底面 積	礎上	平面形	長軸	短軸		礎上	
SA39	P836	円形	23	22	17	91.8	100a	円形	11	10	40	あ
	P837	円形	32	29	32	91.6	100a	円形	12	10	40	あ
	P838	円形	20	20	17	91.7	100a	—	—	—	—	—
	P839	円形	25	24	38	91.6	100a	楕円形	18	13	50	あ
	P842	円形	30	27	46	91.5	90穴100a 遺構100a	円形	12	11	50	あ 柱礎取
P845	円形	28	28	42	91.3	100a	円形	10	10	40	あ	

SA39



- 〔P836・837・839・845〕 1層：柱礎跡 2層：礎方埋土
 〔P842〕 1層：礎積土（柱切取） 2層：柱礎跡 3層：礎方埋土

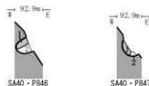
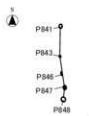


【SA40 柱穴列跡】

- 〔構成 Pit〕 P841, 843, 846 ~ 848
 〔規模〕 4間・総長 3.7m
 〔柱間寸法〕 0.6 ~ 1.5m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし

遺構 番号	柱穴・ピット部方 <small>〔注釈〕</small>					柱 礎 跡				柱 型 考		
	平面形	長 軸	短 軸	残存 部	底面 積	礎上	平面形	長軸	短軸		礎上	
SA40	P841	円形	26	23	23	92.2	90a	—	—	—	—	—
	P843	円形	14	14	10	92.4	100a	—	—	—	—	—
	P846	円形	23	22	20	92.3	100a	楕円形	7	3	40	あ
	P847	円形	22	21	20	92.4	100a	楕円形	18	10	40	あ
P848	円形	29	27	28	92.4	100a	—	—	—	—	—	

SA40



- 〔P846・847〕
 1層：柱礎跡 2層：礎方埋土

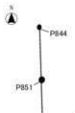


【SA41 柱穴列跡】

- 〔構成 Pit〕 P844, 851
 〔規模〕 1間以上・総長 2.8m 以上
 〔柱間寸法〕 2.8m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし

遺構 番号	柱穴・ピット部方 <small>〔注釈〕</small>					柱 礎 跡				柱 型 考		
	平面形	長 軸	短 軸	残存 部	底面 積	礎上	平面形	長軸	短軸		礎上	
SA41	P844	円形	22	20	38	91.2	100a	円形	12	10	50	あ
	P851	円形	30	30	27	91.5	100a	円形	17	15	50	あ

SA41

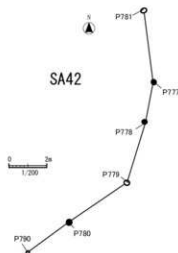


- 〔P844・851〕
 1層：柱礎跡 2層：礎方埋土



【SA42 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P777 ~ 781, 790
 〔規模〕 5間・総長 15.7m
 〔柱間寸法〕 2.2 ~ 3.8m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



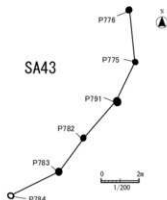
遺構番号	柱穴・ピット配方 (注釈: ①=柱穴, ②=遺構番号, ③)					柱穴跡			柱穴間隔	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存径	底面高さ	埋土	平面形	長軸			短軸
P777	円形	29	27	13	102.1	106a	円形	18	13	18	1
P778	円形	29	25	17	102.1	106a	円形	17	14	18	あ
P779	円形	32	29	24	101.8	106a	—	—	—	—	—
P780	円形	33	33	17	101.9	106a	円形	16	13	18	あ
P781	円形	30	26	30	102.0	106a	—	—	—	—	—
P790	楕円形	20	15	53	101.3	116a	—	—	—	—	—



【P777・778・780】
 ①層: 柱底跡 ②層: 厩方埋土

【SA43 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P775, 776, 782 ~ 784, 791
 〔規模〕 5間・総長 12.7m
 〔柱間寸法〕 2.2 ~ 2.8m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット配方 (注釈: ①=柱穴, ②=遺構番号, ③)					柱穴跡			柱穴間隔	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存径	底面高さ	埋土	平面形	長軸			短軸
P776	円形	28	27	30	102.9	106a	円形	17	17	18	あ
P778	円形	33	31	17	102.5	106a	円形	12	10	18	あ
P782	楕円形	35	25	21	102.2	106a	円形	14	12	18	あ
P783	円形	35	32	20	101.9	106a	円形	16	16	18	あ
P784	円形	33	29	19	101.8	106a	—	—	—	—	—
P781	円形	42	40	45	101.8	敷層①: 106a 敷層②: 105c	円形	21	18	18	5

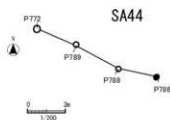


【P775・776・782・783】
 ①層: 柱底跡 ②層: 厩方埋土
 【P791】
 ①層: 柱底跡 ②・③層: 厩方埋土



【SA44 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P772, 786, 788, 789
 〔規模〕 3間・総長 6.8m
 〔柱間寸法〕 2.0 ~ 2.6m
 〔方向〕 東西
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



遺構番号	柱穴・ピット配方 (注釈: ①=柱穴, ②=遺構番号, ③)					柱穴跡			柱穴間隔	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存径	底面高さ	埋土	平面形	長軸			短軸
P772	円形	19	18	18	102.4	96a	—	—	—	—	—
P786	円形	33	29	15	102.3	116a	円形	12	11	18	あ
P788	円形	27	27	12	102.3	96a	—	—	—	—	—
P789	円形	30	30	29	102.4	96a	—	—	—	—	—



【P786】
 ①層: 柱底跡 ②層: 厩方埋土

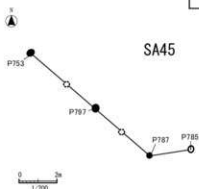


第104図 SA42 ~ 44 柱穴列跡

【SA45 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P753, 785, 787, 797
 〔規模〕 5間（推定）・総長10.5m
 〔柱間寸法〕 1.9～2.5m（推定）
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし

遺構番号	柱穴・ピット置方					柱痕跡				柱型	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面形状	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土
P753	楕円形	4.0	2.4	4.5	102.5	100A	円形	1.6	1.5	90	あ	
P785	楕円形	2.8	2.3	3.0	102.2	98a	—	—	—	—	—	
P787	円形	2.9	2.7	1.0	102.4	110a	円形	1.5	1.3	90	い	
P797	円形	2.9	2.8	0.0	102.3	埋土：100A 掘埋土：96d	円形	1.7	1.6	90	あ	



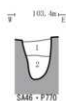
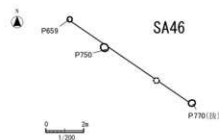
【P753・787】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土
 【P797】
 1層：柱痕跡 2・3層：掘方埋土



【SA46 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P659, 750, 770
 〔規模〕 3間（推定）・総長7.9m
 〔柱間寸法〕 2.3～3.2m（推定）
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし

遺構番号	柱穴・ピット置方					柱痕跡				柱型	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面形状	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土
P659	円形	3.0	2.9	2.0	102.9	95d	—	—	—	—	—	
P750	楕円形	4.5	4.0	1.3	102.8	105a	—	—	—	—	—	
P770	円形	2.9	2.7	0.2	102.5	柱穴：100a 柱穴：96d	—	—	—	—	—	柱痕跡



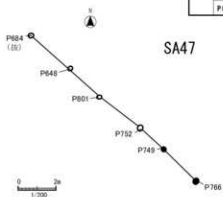
【P770】
 1・2層：埋積土（柱柱取）



【SA47 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P648, 684, 749, 752, 766, 801
 〔規模〕 5間・総長11.4m
 〔柱間寸法〕 1.6～2.7m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし

遺構番号	柱穴・ピット置方					柱痕跡				柱型	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面形状	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土
P648	円形	2.7	2.6	9	103.3	100A	—	—	—	—	—	
P684	円形	3.0	2.8	7.0	103.0	柱穴：95d	—	—	—	—	—	柱痕跡
P749	円形	2.8	2.7	2.0	102.9	100A	円形	1.6	1.5	90	あ	
P752	円形	3.3	3.2	0.5	102.4	95a	—	—	—	—	—	
P766	円形	3.3	3.2	2.4	102.7	100A	円形	2.3	2.2	90	あ	
P801	円形	2.5	2.2	1.3	103.0	100a	—	—	—	—	—	



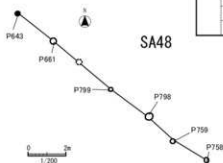
【P766】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



第105図 SA45～47 柱穴列跡

【SA48 柱穴列跡】

[構成 Pit] P643, 661, 758, 759, 798, 799
 [規模] 6間(推定)・総長 12.5m
 [柱間寸法] 1.8 ~ 2.5m
 [方向] 南北
 [出土遺物] なし / 【重複】なし



遺構番号	柱穴・ピット掘方 (断面・平面・平面・平面・平面)						柱 痕 跡				柱 間 寸 法	備 考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	高さ	埋土	平面形	長軸	短軸	埋土			
SA48	P643	円形	28	27	28	103.4	100a	円形	1.8	1.2	98	赤	
	P661	円形	26	25	12	103.2	100a	—	—	—	—	—	
	P758	円形	29	28	23	102.9	98a	—	—	—	—	—	
	P759	円形	28	27	18	102.9	100a	—	—	—	—	—	
	P798	円形	14	12	17	102.7	100a	—	—	—	—	—	
	P799	円形	25	24	19	103.0	100a	—	—	—	—	—	



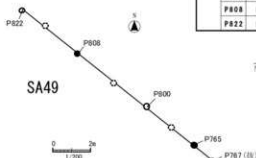
【P643】

1層:柱痕跡 2層:掘方埋土



【SA49 柱穴列跡】

[構成 Pit] P765, 767, 800, 808, 822
 [規模] 7間(推定)・総長 13.8m
 [柱間寸法] 1.3 ~ 2.5m(推定)
 [方向] 南北
 [出土遺物] なし / 【重複】なし



遺構番号	柱穴・ピット掘方 (断面・平面・平面・平面・平面)						柱 痕 跡				柱 間 寸 法	備 考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	高さ	埋土	平面形	長軸	短軸	埋土			
SA49	P765	円形	33	33	19	103.3	98a	円形	1.7	1.6	98	赤	
	P767	円形	34	33	14	102.6	掘方1:100a 掘方2:98a	—	—	—	—	—	柱痕跡
	P800	円形	34	34	18	102.0	100a	—	—	—	—	—	
	P808	円形	30	29	19	103.2	100a	円形	1.8	1.8	98	赤	
	P822	円形	27	27	23	103.3	98a	—	—	—	—	—	



【P765・808】

1層:柱痕跡 2層:掘方埋土

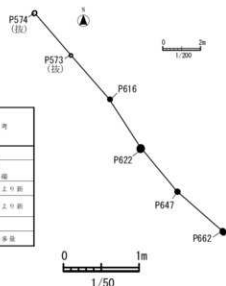


【SA50 柱穴列跡】

[構成 Pit] P573, 574, 616, 622, 647, 662
 [規模] 5間・総長 15.2m
 [柱間寸法] 2.9 ~ 3.2m
 [方向] 南北
 [出土遺物] なし / 【重複】整地層→SA50

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (断面・平面・平面・平面・平面)						柱 痕 跡				柱 間 寸 法	備 考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	高さ	埋土	平面形	長軸	短軸	埋土			
SA50	P673	円形	29	29	23	104.1	掘方1:100a	—	—	—	—	—	柱痕跡
	P574	円形	28	25	36	103.2	掘方1:118f 掘方2:100a	—	—	—	—	—	柱痕跡 掘方1:小室
	P616	円形	23	24	12	104.3	100a	円形	1.7	1.6	98	赤	整地層上1層
	P622	円形	39	38	30	103.9	掘方1:100a 掘方2:115a	円形	1.5	1.5	98	赤	整地層上1層
	P647	円形	27	27	30	103.4	98a	円形	1.8	1.2	98	赤	
	P662	楕円形	37	29	43	102.9	118f	円形	1.8	1.2	98	赤	掘方埋土層

SA50



【P616・647・662】

1層:柱痕跡 2層:掘方埋土

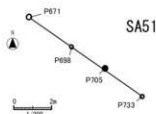
【P622】

1層:柱痕跡 2・3層:掘方埋土

第106図 SA48 ~ 50 柱穴列跡

【SA51 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P671, 698, 705, 733
 【規模】 3間・総長 7.2m
 【柱間寸法】 2.1 ~ 2.7m
 【方向】 南北
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし



遺構番号	柱穴・ビット部方 (注脚・写数・寸法・遺物埋戻高)					柱 遺 跡				柱間型	備 考		
	平面形	長軸	短軸	残存部	底面標高	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA51	P671	円形	30	26	25	103.6	100d	-	-	-	-	-	-
	P688	円形	25	23	10	103.5	100d	-	-	-	-	-	-
	P705	円形	22	29	15	102.2	100d	円形	15	14	90	あ	-
	P733	円形	26	24	26	103.0	100d	-	-	-	-	-	-

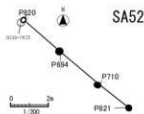


【P705】
 1層：柱底跡 2層：掘方埋土



【SA52 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P694, 710, 820, 821
 【規模】 3間・総長 7.2m
 【柱間寸法】 2.0 ~ 2.7m
 【方向】 南北
 【出土遺物】 なし / 【重複】 SB30→SA52



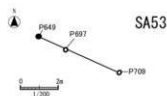
【P694・710】
 1層：柱底跡 2層：掘方埋土



遺構番号	柱穴・ビット部方 (注脚・写数・寸法・遺物埋戻高)					柱 遺 跡				柱間型	備 考		
	平面形	長軸	短軸	残存部	底面標高	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA52	P694	円形	38	35	30	103.3	100d	円形	16	13	90	あ	-
	P710	南円形	38	35	29	103.1	100d	円形	21	20	90	あ	-
	P820	円形	30	28	14	103.7	90a	-	-	-	-	-	SB30・P821より重
	P821	円形	32	30	19	102.7	90a	円形	29	18	50	あ	-

【SA53 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P649, 697, 709
 【規模】 2間・総長 4.6m
 【柱間寸法】 1.6 ~ 3.0m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし

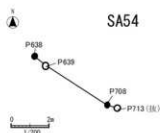


【P649】
 1層：柱底跡 2層：掘方埋土



【SA54 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P638, 639, 708, 713
 【規模】 3間・総長 5.2m
 【柱間寸法】 0.6 ~ 3.8m
 【方向】 南北
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし



遺構番号	柱穴・ビット部方 (注脚・写数・寸法・遺物埋戻高)					柱 遺 跡				柱間型	備 考		
	平面形	長軸	短軸	残存部	底面標高	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA54	P638	円形	35	34	33	103.5	掘埋：100m 掘埋土：95d	円形	9	8	11	い	-
	P639	円形	37	36	20	103.5	100d	-	-	-	-	-	-
	P708	南円形	30	28	27	103.6	掘埋：95d 掘埋土：100d	南円形	19	15	11	い	-
	P713	円形	34	34	40	102.8	掘穴：110d 掘埋土：100d	-	-	-	-	-	-



【P638・708】
 1層：柱底跡 2・3層：掘方埋土

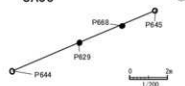


第107図 SA51 ~ 54 柱穴列跡

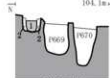
【SA55 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P629, 644, 645, 668
 【規模】 3間・総長 8.1m
 【柱間寸法】 1.9 ~ 3.8m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし

SA55



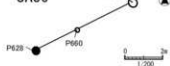
遺構番号	柱穴・ピット番号 (注: 北側→南側, 西側→東側)	柱穴・ピット部				柱穴部				柱間型	備考		
		平面形	長軸	短軸	存在深	底面	高さ	埋土	平面形			長軸	短軸
SA55	P629	円形	27	25	40	103.6	96.2	円形	19	9	9	なし	
	P644	円形	27	27	20	104.0	100.7	—	—	—	—	埋土	
	P645	円形	27	27	30	103.3	1層: 100.6 2層: 96.2	—	—	—	—	—	
	P668	円形	26	26	29	103.7	100.4	円形	15	15	9	なし	



【SA56 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P628, 631, 660
 【規模】 2間・総長 5.7m
 【柱間寸法】 2.6 ~ 3.2m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし

SA56



遺構番号	柱穴・ピット番号 (注: 北側→南側, 西側→東側)	柱穴・ピット部				柱穴部				柱間型	備考			
		平面形	長軸	短軸	存在深	底面	高さ	埋土	平面形			長軸	短軸	埋土
SA56	P628	円形	44	40	40	103.8	98.7	埋土: 99.0 埋土: 95.4	円形	22	21	9	なし	
	P631	円形	52	48	13	103.9	100.6	—	—	—	—	—		
	P660	円形	26	24	40	103.8	100.4	—	—	—	—	—		



【SA57 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P620, 813, 815
 【規模】 2間・総長 5.8m
 【柱間寸法】 2.6 ~ 3.2m
 【方向】 東西
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし

SA57



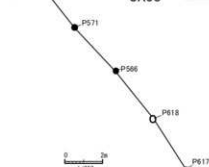
遺構番号	柱穴・ピット番号 (注: 北側→南側, 西側→東側)	柱穴・ピット部				柱穴部				柱間型	備考			
		平面形	長軸	短軸	存在深	底面	高さ	埋土	平面形			長軸	短軸	埋土
SA57	P620	円形	27	26	11	104.1	100.4	埋土: 99.0 埋土: 95.4	円形	16	13	9	なし	
	P813	角円形	33	29	18	103.7	96.0	—	—	—	—	—		
	P815	円形	36	33	47	103.6	96.0	—	—	—	—	—		



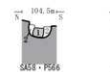
【SA58 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P562, 566, 571, 617, 618
 【規模】 4間・総長 11.7m
 【柱間寸法】 2.4 ~ 3.1m
 【方向】 南北
 【出土遺物】 なし
 【重複】 整地層→SA58

SA58



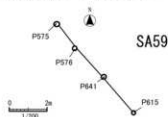
遺構番号	柱穴・ピット番号 (注: 北側→南側, 西側→東側)	柱穴・ピット部				柱穴部				柱間型	備考			
		平面形	長軸	短軸	存在深	底面	高さ	埋土	平面形			長軸	短軸	埋土
SA58	P602	円形	27	25	28	105.4	92.7	埋土: 90.4 埋土: 85.0	円形	14	13	9	なし	柱穴跡
	P566	円形	29	29	20	104.5	100.7	—	円形	23	11	9	なし	埋土跡少量
	P571	円形	30	30	34	105.9	100.0	埋土: 99.0 埋土: 95.4	円形	12	10	9	なし	
	P617	円形	23	23	10	103.8	110.2	—	—	—	—	—	—	
	P618	円形	33	31	18	104.1	1層: 110.4 2層: 95.4	—	—	—	—	—	—	整地層上り部



第108図 SA55 ~ 58 柱穴列跡

【SA59 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P575, 576, 615, 641
 【規模】 3間・総長 6.1m
 【柱間寸法】 1.6 ~ 2.4m
 【方向】 南北
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし



遺構番号	柱穴・ビット部方 <small>(柱穴・柱脚・柱礎部等)</small>					柱基礎跡				柱型	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA59	P575	円形	3.6	2.8	37	105.0	1層:1104 2層:1094	-	-	-	-	-	-
	P576	円形	2.5	2.5	28	104.8	1層:1104 2層:1094	-	-	-	-	-	埋土層多量
	P615	円形	2.2	2.2	9	104.2	1097	-	-	-	-	-	埋土層多量
	P641	円形	2.8	2.7	29	104.5	1層:1097 2層:1094	-	-	-	-	-	埋土層多量

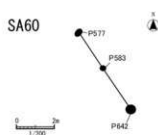


【P575】
1・2層: 堆積土

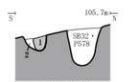


【SA60 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P577, 583, 642
 【規模】 2間・総長 4.8m
 【柱間寸法】 2.2 ~ 2.6m
 【方向】 南北
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし



遺構番号	柱穴・ビット部方 <small>(柱穴・柱脚・柱礎部等)</small>					柱基礎跡				柱型	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA60	P577	楕円形	4.6	3.3	23	105.2	1097	円形	1.9	1.7	95	あ	埋土層多量
	P583	楕円形	3.0	2.5	14	105.0	1094	楕円形	1.7	1.3	95	あ	埋土層多量
	P642	円形	3.0	3.0	3	104.3	1097	円形	1.9	1.9	95	あ	埋土層多量



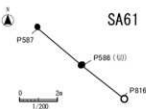
【P577・583・642】

1層: 柱痕跡 2層: 敷方埋土



【SA61 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P586, 587, 816
 【規模】 2間・総長 5.9m
 【柱間寸法】 2.9 ~ 3.0m
 【方向】 南北
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし

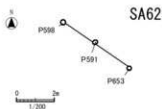


遺構番号	柱穴・ビット部方 <small>(柱穴・柱脚・柱礎部等)</small>					柱基礎跡				柱型	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA61	P586	円形	2.6	2.3	41	104.4	切欠:1107 敷層:1097	円形	1.6	1.3	95	あ	柱切欠埋土層多量
	P587	円形	2.8	2.7	38	105.1	敷層:1107 敷層:1094	円形	1.1	1.0	95	あ	埋土層多量
	P816	円形	3.7	3.5	37	104.0	964	-	-	-	-	-	-



【SA62 柱穴列跡】

【構成 Pit】 P591, 598, 653
 【規模】 2間・総長 4.2m
 【柱間寸法】 2.0 ~ 2.2m
 【方向】 南北
 【出土遺物】 なし / 【重複】 なし



【P586】
1層: 堆積土(柱切欠) 2層: 柱痕跡 3層: 敷方埋土
 【P587】
1層: 柱痕跡 2・3層: 敷方埋土



遺構番号	柱穴・ビット部方 <small>(柱穴・柱脚・柱礎部等)</small>					柱基礎跡				柱型	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA62	P591	円形	2.7	2.7	5.8	104.6	964 + 7	-	-	-	-	-	埋土層
	P598	円形	2.7	2.6	27	105.1	964	-	-	-	-	-	-
	P653	円形	2.5	2.4	19	104.7	1094	-	-	-	-	-	-

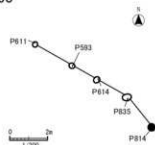
第109図 SA59 ~ 62 柱穴列跡

【SA63 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P593, 611, 614, 814, 835
 〔規模〕 4間・総長 7.5m
 〔柱間寸法〕 1.5～2.2m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし

遺構番号	柱穴・ピット部方 (長軸・短軸・深さ・底面傾斜・埋土)					柱穴部跡				柱間寸法	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面傾斜	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA63 P593	円形	34	34	23	104.9	100	—	—	—	—	—	—	—
P611	円形	28	27	23	105.2	100	—	—	—	—	—	—	埋土・埋込
P614	円形	33	31	24	104.5	100	—	—	—	—	—	—	埋土・埋込
P814	楕円形	42	37	35	104.0	110	円形	18	17	30	高	—	—
P835	円形	40	38	22	104.4	100	—	—	—	—	—	—	—

SA63



【P614】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土

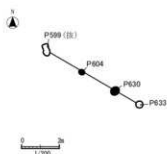


【SA64 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P599, 604, 630, 633
 〔規模〕 3間・総長 5.7m
 〔柱間寸法〕 1.5～2.2m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし

遺構番号	柱穴・ピット部方 (長軸・短軸・深さ・底面傾斜・埋土)					柱穴部跡				柱間寸法	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面傾斜	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA64 P599	楕円形	49	37	31	104.6	100	楕円形	14	14	30	高	—	埋土・埋込
P604	楕円形	32	28	19	104.8	100	円形	16	14	30	高	—	埋土・埋込
P630	円形	43	40	15	104.3	100	円形	17	14	30	高	—	—
P633	円形	36	36	15	104.3	110	—	—	—	—	—	—	—

SA64



【P604・630】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土

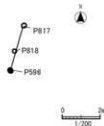


【SA65 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P596, 817, 818
 〔規模〕 2間・総長 2.4m
 〔柱間寸法〕 1.0～1.4m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし

遺構番号	柱穴・ピット部方 (長軸・短軸・深さ・底面傾斜・埋土)					柱穴部跡				柱間寸法	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面傾斜	埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA65 P596	円形	32	30	17	105.1	100	円形	18	15	30	高	—	—
P817	円形	28	28	19	105.2	100	—	—	—	—	—	—	—
P818	円形	23	23	20	104.4	100	—	—	—	—	—	—	—

SA65



【P596】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



第110図 SA63～65 柱穴列跡

【SA66 柱穴列跡】

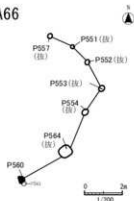
〔構成 Pit〕 P551～554, 557, 560, 564
 〔規模〕 6間・総長10.5m
 〔柱間寸法〕 1.1～2.7m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 SA66→P561



【P560】
 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土



SA66



遺構番号	柱穴・ピット掘方 (1層・2層・…・掘方埋土)				柱痕跡				柱間寸法	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	掘方埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA66	P551	円形	30	30	13	107.0	掘方：118F	—	—	—	—	柱痕跡埋土・埋多量
	P552	楕円形	33	28	20	106.6	掘方：118F	—	—	—	—	柱痕跡埋土・埋少量
	P553	円形	38	35	16	106.4	掘方：90F	—	—	—	—	柱痕跡埋土・埋多量
	P554	円形	38	34	12	106.6	掘方：90F	—	—	—	—	埋土・埋少量
	P557	楕円形	30	25	17	102.4	掘方：100F	—	—	—	—	柱痕跡埋土・埋多量
	P560	円形	33	30	9	106.4	100F	円形	23	20	5.0	北P561より西側
	P564	円形	29	29	23	106.2	掘方1:100F 掘方2:90F	—	—	—	—	柱痕跡埋土・埋少量 埋方(掘方1)：埋多量 埋方(掘方2)：埋少量

【SA67 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P548, 549, 555, 556
 〔規模〕 3間・総長3.8m
 〔柱間寸法〕 1.0～1.7m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし / 〔重複〕 なし



SA67

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (1層・2層・…・掘方埋土)				柱痕跡				柱間寸法	備考		
	平面形	長軸	短軸	残存状況	掘方埋土	平面形	長軸	短軸			埋土	
SA67	P548	円形	39	31	15	109.2	掘方：100F	—	—	—	—	柱痕跡埋土・埋多量
	P549	円形	38	33	30	109.2	掘方：100F	—	—	—	—	柱痕跡埋土・埋多量
	P555	円形	40	36	22	107.9	90F	—	—	—	—	埋土・埋多量
	P556	円形	37	35	28	108.9	掘方：100F	—	—	—	—	柱痕跡埋土・埋多量



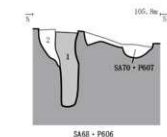
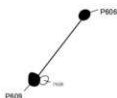
【P549・P556】
 1層：堆積土(柱抜取)



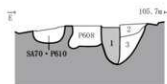
【SA68 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P606, 609
 〔規模〕 1間・総長4.3m
 〔柱間寸法〕 4.3m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 P608→SA68

SA68



SA68・P606



SA68・P609

【P606】 1層：柱痕跡 2層：掘方埋土
 【P609】 1層：柱痕跡 2・3層：掘方埋土

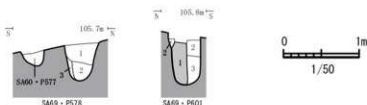
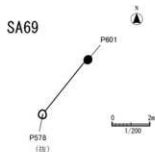


第111図 SA66～68柱穴列跡

【SA69 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P578, 601
 〔規模〕 1間・総長 3.8m
 〔柱間寸法〕 3.8m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (断面・平面・埋方・埋方埋土)					柱穴跡				柱間型	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土埋方	平面形	長軸	短軸			埋土
SA69	P578	円形	49	43	50	105.0	柱穴1:1100a・1 柱穴2:1004 埋方埋土	—	—	—	—	柱穴跡 埋方・埋土
	P601	円形	44	42	47	104.8	埋方埋土 埋方埋土	円形	17	15	90	あ

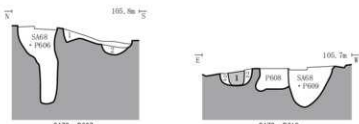
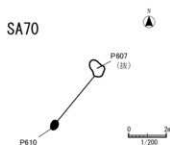


〔P578〕 1・2層：堆積土（柱穴取） 3層：埋方埋土；
 〔P601〕 1層：柱穴跡 2・3層：埋方埋土；

【SA70 柱穴列跡】

〔構成 Pit〕 P607, 610
 〔規模〕 1間・総長 3.7m
 〔柱間寸法〕 3.7m
 〔方向〕 南北
 〔出土遺物〕 なし
 〔重複〕 なし

遺構番号	柱穴・ピット掘方 (断面・平面・埋方・埋方埋土)					柱穴跡				柱間型	備考	
	平面形	長軸	短軸	残存状況	底面標高	埋土埋方	平面形	長軸	短軸			埋土
SA70	P607	楕円形	49	40	24	105.2	柱穴1:90a 柱穴2:1007	—	—	—	—	柱穴跡 埋方・埋土
	P610	楕円形	59	44	29	105.2	1004	楕円形	29	22	90	あ



〔P607〕 1・2層：堆積土（柱穴取）
 〔P610〕 1層：柱穴跡 2層：埋方埋土；

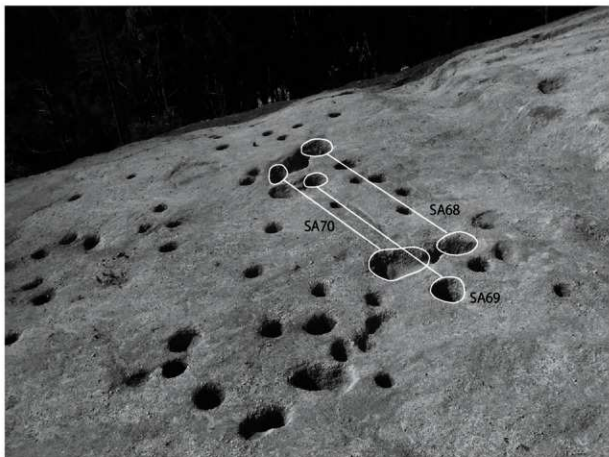
第112図 SA69・70 柱穴列跡



第113図 平場A-3 柱穴列跡 完掘状況（南西から撮影）



1. 平場 A-5 柱穴列跡完掘状況 (北西から撮影)



2. 平場 A-5 柱穴列跡 (SA68 ~ 70 周辺) 完掘状況 (北東から撮影)

第114図 平場A-5 柱穴列跡 完掘状況

(3) その他の柱穴・小穴 (第10～24・118・120図、第8・9表)

前述のとおり、今回確認した柱穴・小穴 875 個のうち、建物 (33 棟)・柱穴列 (70 条) を構成する柱穴として認定できたものは 601 個 (掘立柱建物跡 33 棟: 柱穴数 270 個/柱穴列跡 70 条: 柱穴数 331 個) であった。その他の残された 274 個の柱穴・小穴についても、本来は建物や柱穴列・その他の建築物を構成する柱穴であったと考えられる。ここでは、建物として認定できなかった柱穴・小穴について若干の記載を行う。

なお、柱穴・小穴個別の情報は、今後もさらなる検討が加えられるよう、平面図を第10～24図、規模・堆積土・出土遺物などのデータを第9-1～9-3表に掲載した。また、今回の調査で検出したすべての柱穴・小穴 (掘立柱建物・柱穴列を構成するものも含む) の検出位置を検索するための第8表を作成したので、併せて参照していただきたい。

【その他の柱穴・小穴の特徴】

柱穴・小穴は、前述の掘立柱建物跡・柱穴列跡を構成する柱穴群とほぼ同一の範囲で確認した。検出した柱穴・小穴の規模・平面形は、長軸 14～104cm、短軸 14～57cm の円形・楕円形を呈し、残存深は 4～65cm ほどである。検出した 274 個のうち、72 個で直径 8～23cm の円形・楕円形を呈する柱痕跡を確認した。全体として、今回確認した柱穴・小穴は、平面形が円形・楕円形、掘方規模が長軸 20～40cm 前後、柱痕跡が 15cm 前後のものが主体といえる。

【出土遺物】

掘立柱建物跡・柱穴列跡以外の柱穴・小穴から出土した遺物は、平場 B-12 で検出した P854 堆積土出土の施軸陶器丸塊 (第118図9) 1点のみである。

第8表 鷲足館跡1～5次調査 検出柱穴・小穴検出位置及び掲載図版一覧

P番号 (SB・SAを構成するPも含む)	位置	掲載図面
P1～36・38・44・162～165・168～173・175・179～181・192・232～234・236～238・252・264	平場 A-1	第10図
P13・26・28～37・39～43・45～163・166・167・171～179・182～191・193～231・234・235	平場 A-1 平場 B-1	第11図
P238～251・253～263		
P265～310・315～333	平場 A-2 平場 B-2～4・6～8	第12図
P265～270	緩斜面 1	第13図
P350・354～386・393～398・408～413・849	平場 A-3・緩斜面 2	第14図
P311～317・322・334～353・357・387～394・399～407・414～431	平場 A-3・緩斜面 1 平場 B-3・4・6・7	第15図
P591・593～595・599・600・602～604・614・615・617・619・620・623・625～640・643～816 P820～835	平場 A-5	第16図
P775～779・781・791・836～855	緩斜面 2 平場 B-11～14	第17図
P547～590・592・596～601・605～613・615・616・618・621・622・624・641・642・817～819	平場 A-5	第18図
P432～546・779・780・782～786・790	平場 A-4・5	第19図
P491～497・501・504～518・522～524・528・546	平場 A-4	第20図
P856～875	平場 A-6	第22図
P856～875	平場 A-6	第23図

第9-1表 竪足跡跡 ビット(柱穴・小穴) 属性表(1) ※SA・SBを構成するもの以外 P2~333

遺構番号	種類	柱穴の位置(平面図参照)・埋蔵深さ(掘削調査による埋蔵深さ)				遺構番号	種類	柱穴の位置(平面図参照)・埋蔵深さ(掘削調査による埋蔵深さ)				遺構番号	種類		
		埋蔵深さ	埋蔵深さ	埋蔵深さ	埋蔵深さ			埋蔵深さ	埋蔵深さ	埋蔵深さ	埋蔵深さ				
P1	小穴	埋	25	15	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P2	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P3	小穴	埋	25	22	62.2	75a	埋	22	22	62.0	75b	埋	22	22	62.0
P4	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P5	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P6	小穴	埋	25	23	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P7	小穴	埋	25	21	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P8	小穴	埋	25	23	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P9	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P10	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P11	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P12	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P13	小穴	埋	25	23	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P14	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P15	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P16	小穴	埋	25	23	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P17	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P18	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P19	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P20	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P21	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P22	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P23	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P24	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P25	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P26	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P27	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P28	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P29	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P30	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P31	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P32	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P33	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P34	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P35	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P36	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P37	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P38	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P39	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P40	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P41	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P42	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P43	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P44	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P45	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P46	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P47	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P48	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P49	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P50	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P51	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P52	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P53	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P54	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P55	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P56	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P57	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P58	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P59	小穴	埋	25	24	62.1	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-
P60	小穴	埋	25	22	62.2	75a	-	-	-	-	-	-	-	-	-

●ビット (柱穴・小穴) 類型

【柱型】
 a) 柱痕跡が柱穴状で底面に陥するもの 
 b) 柱痕跡が柱穴状で底面まで凹らないもの 

【柱型】
 c) 柱痕跡が柱穴状で底面よりさらに下にはびくもの 

【柱痕跡・埋土の埋土・埋土埋土型】
 ●土色
 1) 黒褐色 (0100/2) 2) 黒褐色 (0100/3) 3) 黒褐色 (0100/2)
 4) 暗褐色 (0100/3) 5) 暗褐色 (0100/4) 6) 暗褐色 (0100/4)
 7) 灰褐色 (0100/2) 8) 灰褐色 (0100/2) 9) 灰褐色 (0100/2)
 10) 濃い黄褐色 (0100/2) 11) 濃い黄褐色 (0100/2) 12) 濃い黄褐色 (0100/2)
 ●土質
 A: シルト B: 砂質シルト
 ●埋入物
 a) 埋込ブロック含む b) 埋込ブロック少量含む
 c) 埋込粘土多量含む d) 埋込粘土含む
 e) 埋込粘土少量含む f) その他(もの) (上記以外のもの)
 ※f)を選択した場合は埋込物・埋土埋入物と記載
 ※埋入物・埋土埋入物の記載は、下記の内容については記載を省略した
 表化物質一覧表 黒土ブロック一覧表 絵・小図

【記録例】
 16a・・土色: 黒褐色 (0100/2)、土質: シルト、埋入物: 埋込ブロック含む

●その他の記載事項

- 柱穴・ビットの計測値
 ・(直径) は測定値を示す
 ・柱穴・ビットの種類(埋土・埋土埋土)・記載事項
 ・柱穴の場合は(埋土埋土)を省略する
 ・与/埋・2埋: 埋土の種類(柱穴・小穴)の埋土埋土が2層以上に分けた場合を示す
 ・埋穴1: 柱穴または小穴の埋土・埋土埋土 / 「埋穴1」: 抜き取り穴1層の埋土・埋土埋土
 ・埋穴1: 柱穴または小穴の埋土・埋土埋土 / 「埋穴1」: 抜き取り穴1層の埋土・埋土埋土
- 埋土埋土の記載事項
 ・埋土: 柱穴に埋められているもの (埋土埋土: 柱穴に埋められているもの)
 ・この他、埋土埋土・出土遺物と記載

5 土坑

今回の調査では、土坑7基 (SK1~7) を検出した。このうち、SK1~3 土坑はA区平場A-1 (第10図)、SK4 土坑はB区平場B-8 (第12図)、SK5 土坑はB区平場B-6 (第12図)、SK6 土坑はB区平場B-3 (第12図)、SK7 土坑はB区平場B-4 (第12図) で確認した。以下、それぞれの詳細について記載する。

【SK1 土坑】(第115図)

【概要】 A区の平場A-1西端の標高66.3mの平坦面で検出した。底面で焼面を確認していることから、焼成土坑と考えられる。

【重複】 なし。

【規模・形状】 106cm×100cmのやや歪んだ円形。深さ9cm。底面は平坦で、断面形は皿状である。

【堆積土】 1層確認した。地山粒子・炭化物片を含む自然堆積層である。

【出土遺物】 なし。

【SK2 土坑】(第115図)

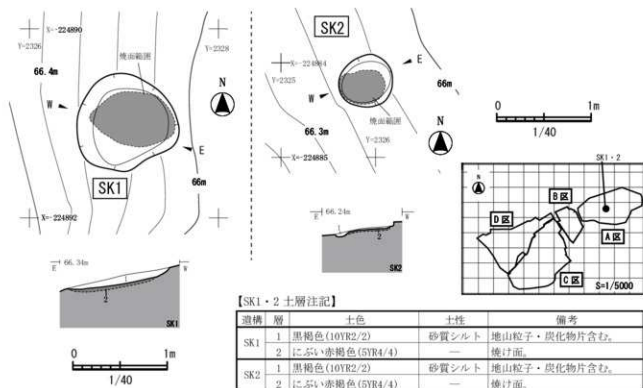
【概要】 A区の平場A-1西端の標高66.1mの平坦面で検出した。底面で焼面を確認していることから、焼成土坑と考えられる。

【重複】 なし。

【規模・形状】 57cm×55cmの円形。深さ3cm。底面にはやや凹凸があり、断面形は皿状である。

【堆積土】 1層確認した。地山粒子・炭化物片を含む自然堆積層である。

【出土遺物】 なし。



第115図 SK1・2 土坑 平面・断面図

【SK3 土坑】(第116図)

【概要】A区の平場A-1西端の標高67.0mの平坦面で検出した。

【重複】なし。

【規模・形状】157cm×100cmの楕円形。深さ14cm。底面は平坦で、断面形は皿状である。

【堆積土】1層確認した。自然堆積層である。

【出土遺物】なし。

【SK4 土坑】(第116図)

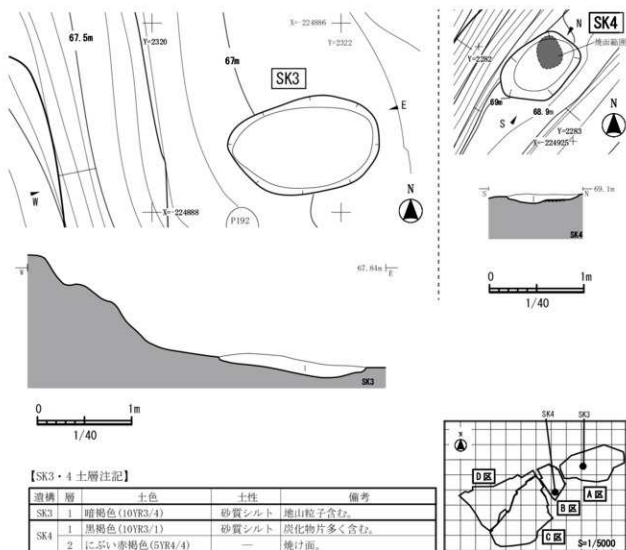
【概要】B区南斜面に位置する平場B-8上の標高69.0mの地点で検出した。底面で焼面を確認していることから、焼成土坑と考えられる。

【重複】なし。

【規模・形状】81cm×63cmの円形。深さ9cm。底面は平坦で、断面形は皿状である。

【堆積土】1層確認した。炭化物片を多く含む自然堆積層である。

【出土遺物】なし。



第116図 SK3・4 土坑 平面・断面図

【SK5 土坑】(第117図)

【概要】 B区南斜面に位置する平場 B-6 上の標高 73.0m の地点で検出した。

【重複】 なし。

【規模・形状】 60cm×55cm の楕円形。深さ 33cm。底面は中央がやや凹み、断面形は U 字形である。

【堆積土】 2層確認した。いずれも自然堆積層である。

【出土遺物】 なし。

【SK6 土坑】(第117図)

【概要】 B区南斜面に位置する平場 B-3 上の標高 75.5m の地点で検出した。

【重複】 B区南斜面を覆う整地層下で確認しており、整地層より古い遺構とみられる (SK6→整地層)。

【規模・形状】 78cm×70cm の楕円形。深さ 31cm。底面は中央がやや凹み、断面形は U 字形である。

【堆積土】 3層確認した。いずれも自然堆積層である。

【出土遺物】 なし。

【SK7 土坑】(第117図)

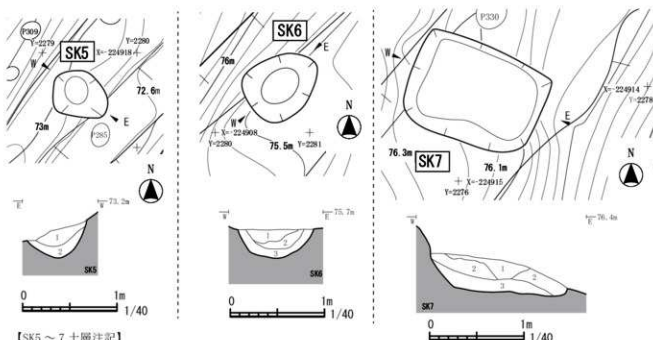
【概要】 B区南斜面に位置する平場 B-4 上の標高 76.2m の地点で検出した。

【重複】 B区南斜面を覆う整地層下で確認しており、整地層より古い遺構とみられる (SK7→整地層)。

【規模・形状】 148cm×105cm の隅丸長方形。深さ 37cm。底面は平坦で、断面形は皿状である。

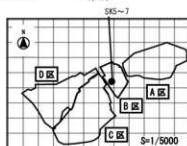
【堆積土】 3層確認した。いずれも自然堆積層である。

【出土遺物】 なし。



【SK5～7 土層注記】

遺構	層	土色	土性	備考
SK5	1	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト	地山ブロック微量含む。
	2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	地山ブロック少量含む。
SK6	1	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト	地山粒子少量含む。
	2	にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂質シルト	地山粒子多く含む。
	3	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	地山粒子少量含む。
SK7	1	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト	地山ブロック少量含む。
	2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	地山粒子少量含む。
	3	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	地山粒子含む。

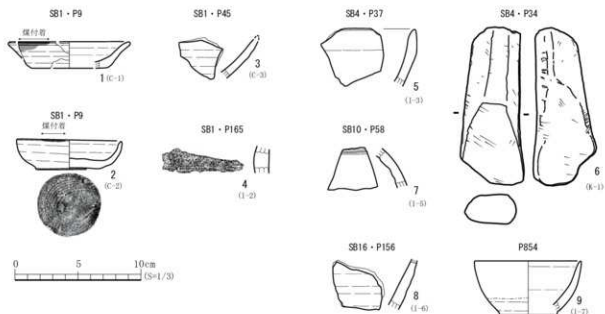


第117図 SK5～7 土坑 平面・断面図

6 出土遺物 (第118~120図)

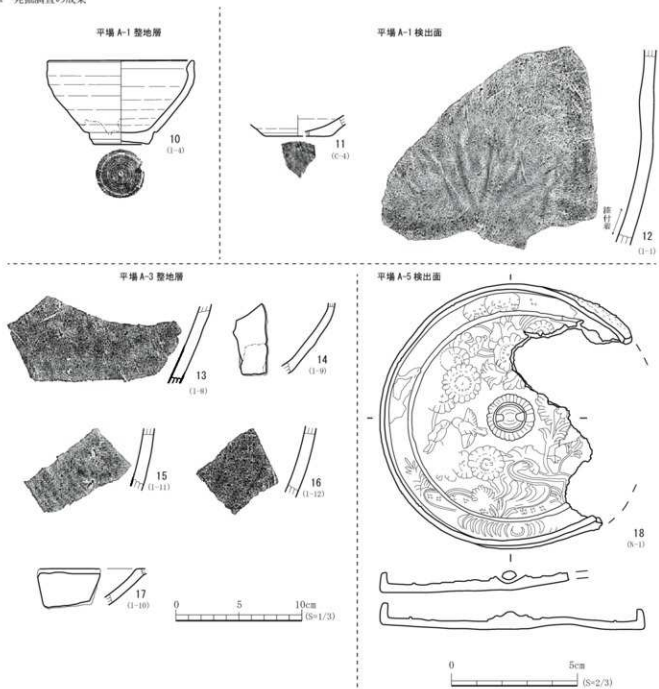
今回の調査区では、掘立柱建物跡を構成する柱穴、その他の小穴、平場の整地層、遺構検出面、表土、などから、縄文土器1点(130g)、土師器1点(20g)、須恵器1点(55g)、かわらけ5点(95g)、中世陶器5点(630g)、施釉陶器8点(225g)、磁器1点(75g)、金属製品1点(155g)、石器1点(265g)が出土した。

このうち、図示できたのは、かわらけ4点、中世陶器5点、施釉陶器7点、金属製品1点、石器1点の合計18点で、その内訳は、SB1・P9/掘方埋土出土のかわらけ皿破片2点(第118図1・2)、SB1・P45/堆積土出土のかわらけ皿破片1点(第118図3)、SB1・P165/1層出土の中世陶器甕破片(第118図4)、SB4・P37/堆積土出土の天目茶碗破片1点(第118図5)、SB4・P34/掘方埋土出土の砥石(第118図6)、SB10・P58/堆積土出土の灰釉陶器瓶子または梅瓶破片1点(第118図7)、SB16・P156/1層出土の灰釉陶器大型鉢破片(第118図8)、P854/堆積土出土の丸碗破片(第118図9)、平場A-1/整地層(3d層)出土の天目茶碗破片(第119図10)、平場A-1/検出面出土のかわらけ皿破片(第119図11)・中世陶器甕破片(第119図12)、平場A-3南斜面/整地層出土の中世陶器甕破片(第119図13・15・16)・天目茶碗破片(第119図14)・灰釉陶器折縁皿破片(第119図17)、平場A-5/検出面出土の和鏡(第119図18)である。



No.	遺構名・層	位置	種別	器種	残存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
1	SB1・P9 掘方埋土	A-1	かわらけ	皿	口縁部 ～底部	内外面: ロクロナデ, 色調: 内外面・黒褐色(109K/1), 法量: 口径(9.7)cm・器高2.1cm・直径6.6cm・器厚0.4~0.5cm, 内外面: 煤付着, 灯明肌	C-1
2	SB1・P9 掘方埋土	A-1	かわらけ	皿	口縁部 ～底部	外面: ロクロナデ・底部回転糸切り無調整, 内面: ロクロナデ, 色調: 内外面・にぶい褐色(7.5186/4), 法量: 口径(6.2)cm・器高2.4cm・直径5.1cm・器厚0.3~0.8cm, 内外面: 煤付着, 灯明肌	C-2
3	SB1・P45 堆積土	A-1	かわらけ	皿?	胴部	内外面: ロクロナデ, 色調: 内外面・にぶい褐色(7.5186/4), 法量: 器厚0.65cm	C-3
4	SB1・P165 1層	A-1	中世陶器	甕	胴部	内外面: ナデ, 色調: 外面・灰赤褐色(2.5185/2), 内面・にぶい赤褐色(2.5185/3), 法量: 器厚1.2cm, 産地: 古瀬戸	I-2
5	SB4・P37 堆積土	A-1	施釉陶器	天目茶碗	口縁部	内外面: 鉄絵, 色調: 内外面・暗褐色(7.5183/3), 断面: 灰褐色(2.516/2), 法量: 器厚0.5~0.8cm, 産地: 古瀬戸	I-3
6	SB4・P34 掘方埋土	A-1	石器	砥石	—	石材: 安山岩, 法量: 長さ12.5cm, 幅5.05cm, 厚さ4.15cm, 重量265g	K-1
7	SB10・P58 堆積土	A-1	灰釉陶器	瓶子 or梅瓶	胴部	外面: 灰釉, 内面: ロクロナデ, 色調: 外面・黄褐色(2.518/3), 内面・黄灰色(2.519/1), 法量: 器厚0.8cm, 産地: 古瀬戸	I-5
8	SB16・P156 1層	A-1	灰釉陶器	大型鉢	胴部	内外面: ロクロナデ・灰釉, 色調: 内外面・にぶい黄色(2.518/3), 断面: 灰黄色(2.517/2), 法量: 器厚0.4~0.9cm, 産地: 古瀬戸	I-6
9	P854 堆積土	B-12	施釉陶器	丸碗	口縁部 ～胴部	内外面: ロクロナデ→鉄絵, 色調: 外面・褐色(7.5182/1), 内面・褐色(7.5182/1)/暗褐色(7.5183/3), 法量: 口径(6.4)cm・残存径4.3cm・器厚0.3~0.7cm, 産地: 古瀬戸	I-7

第118図 鷲足館跡1~5次調査 出土遺物(1)-SB・Pit出土遺物-



No.	遺構名・層	種別	器種	残存	特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】	登録
10	平場A-1東斜面 整地層(3a層)	陶器陶器	天目茶碗	口縁部 ～底部	外面：ロタロナデ→鉄軸・高台割り出し灰白、内面：ロタロナデ→鉄軸、色調：外面・灰褐色 (S17/2)/灰褐色(T.5184/2)/黒色(S3/0)、内面・灰褐色(T.5184/2)/黒色(S3/0)、法量：口縁 (11.4cm・器高6.7cm・底径4.4cm・器厚0.6～0.7cm、底地：古瀬戸	1-4
11	平場A-1 検出面	土・石	土	底部	外面：ロタロナデ→底部割断面切り無調整、内面：ロタロナデ、色調：内外面・にぶい褐色 (T.5186/4)、法量：直径(2.4)cm・残存高1.7cm・器厚0.4～0.7cm	C-4
12	平場A-1西斜面 検出面	中世陶器	甕	胴部	内外面：ナデ、色調：外面・にぶい赤褐色(S184/4)、内面・灰褐色(S184/2)、法量：器厚0.9～1.2cm、 内面：漆付塗、断面：断面径内3.9・漆付層→縦経路?、底地：白土?	1-1
13	平場A-3南斜面 整地層(18層)	中世陶器	甕	胴部	内外面：ナデ、色調：外面・にぶい褐色(S186/4)、内面・にぶい赤褐色(S185/4)、法量：器厚0.8～1.0 cm、底地：常滑	1-8
14	平場A-3南斜面 整地層(18層)	陶器陶器	天目茶碗	胴部	内外面：ロタロナデ→鉄軸、色調：外面・黒色(T.5182/1)、内面・暗褐色(T.5183/20)、法量：器厚0.8 ～0.9cm、底地：古瀬戸	1-9
15	平場A-3南斜面 整地層(21層)	中世陶器	甕	胴部	外面：ナデ・ケズリ、内面：ナデ、色調：外面・灰褐色(T.5185/2)、内面・灰褐色(T.5184/2)、法量： 器厚0.8～0.9cm、底地：常滑	1-11
16	平場A-3南斜面 整地層(21層)	中世陶器	甕	胴部	内外面：ナデ、色調：外面・灰褐色(S186/2)、内面・にぶい赤褐色(S185/3)、法量：器厚0.8～0.9cm、 底地：常滑	1-12
17	平場A-3南斜面 整地層(21層)	灰褐色陶器	新緑豆	口縁部 ～胴部	外面：ロタロナデ→鉄軸、内面：調整不明→灰褐色、色調：内外面・灰白色(S17/2)、法量：器厚0.4～ 0.7cm、底地：古瀬戸	1-10
18	平場A-5中央 検出面	金属製品	和籠	一	材質：銅製、文様：所画・菊花・双鳥、彫り調整、法量：直径16.5cm、重量15g、一部欠損	S-1

第119図 鷲足館跡1～5次調査 出土遺物(2) - 整地層・検出面出土遺物 -



1～4：かわらけ 4～9：中世陶器
 10～12：土師陶器（灰釉） 13～16：土師陶器（鉄釉）
 17：石器（硯石） 18：金属製品（和鏡）

【出土遺構別一覧】

S81/P9：1・2 S81/P45：3 S81/P165：4

S84/P27：5 S84/P34：6 S810/P58：7

S816/P156：8 P954：9

平場 A-1 遺地層：10 平場 A-1 検出面：11・12

平場 A-3 遺地層：13～17 平場 A-5 検出面：18

※（ ）内：遺物登録番号 / [] 内：遺物実測図 掲載図取番号

第120図 鷺足館跡1～5次調査 出土遺物（3）-写真図版-



鷺足館跡 調査風景

第3章 自然科学分析

第1節 はじめに

鷺足館跡は調査前の段階から中世の山城と推定されていたものの、実際の現地調査においては、その年代を示す遺物の出土がきわめて少ない状況であった。その一方で、山城を構成する平場で確認した整地層（人為堆積層）や斜面部の自然堆積層には部分的ではあるが炭化物片を含む層が確認された。年代幅を推定する目的で下記のとおり自然科学分析を実施したものである。

1 自然科学分析の項目と分析目的

今回の調査では、下記の1項目について、業務委託により自然科学分析等を実施した。分析内容、分析目的、分析機関については以下のとおりである。

(1) 炭化物の放射性炭素年代測定

[分析内容]

- ①館跡を構成する平場造成時の整地層（人為堆積層）出土炭化物の放射性炭素年代測定
- ②館跡を構成する平場の斜面自然堆積層出土の炭化物の放射性炭素年代測定

[分析目的]

- ①平場造成時の年代推定
- ②平場機能時の年代推定

[分析委託機関] 株式会社加速器分析研究所

[分析結果] 第3章第2節に記載

2 試料の採取地点と採取方法

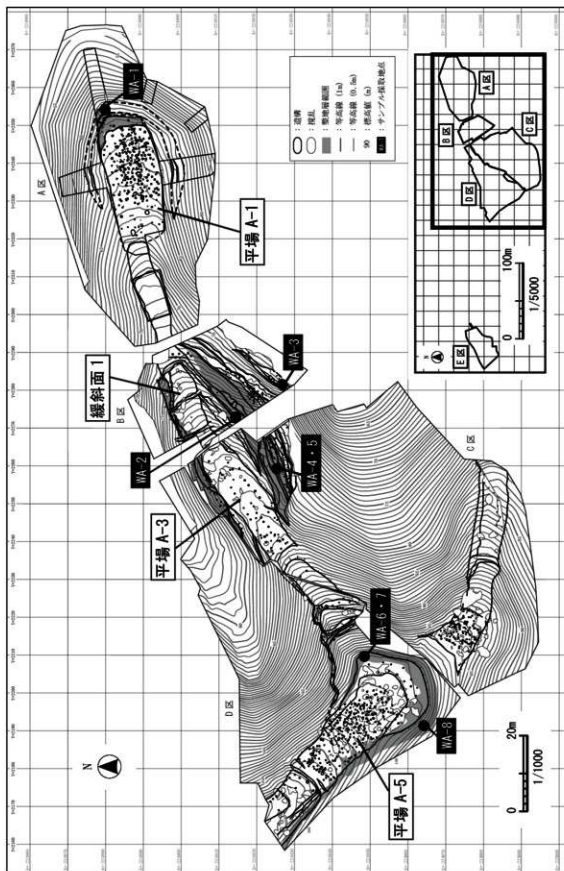
それぞれの分析試料の採取地点等は第10表・第121図のとおりである。放射性炭素年代測定に使用した試料は、発掘担当者が直接発掘調査現場で採取した。

試料については、炭化物が含まれる土壌一式を採取し、出土層位を記録した上でビニール袋に詰めて現場から持ち帰り、その後、整理作業の段階で年代測定に適した炭化物を数点抽出した上で、分析委託機関に試料を引き渡し、分析を実施した。

なお、今回は複数年にわたる調査であったため、その分析は3回に分けて実施しており（分析実施年度：平成25・26・27年度）、その都度、分析結果報告書を納品している状態であった。したがって、本書に掲載した分析結果報告（第3章第2節）については、町担当者が委託業者から納品した報告書を編集したものであることを申し添えておく。

第10表 鷺足館跡 炭化物試料採取遺構・層位一覧

試料No.	遺構名		採取箇所
WA-1	平場 A-1 東端	3d 層（整地層）	第27区土層断面 A-A' 参照
WA-2	緩斜面1 南斜面	27 層（自然堆積層）	
WA-3	緩斜面1 南斜面	14 層（自然堆積層）	第32区土層断面 D-D' 参照
WA-4	平場 A-3 南斜面	21 層（整地層）	第33区土層断面 H-H' 参照
WA-5	平場 A-3 南斜面	21 層（整地層）	
WA-6	平場 A-5 東端	2 層（整地層）	第44区土層断面 C-C' 参照
WA-7	平場 A-5 東端	8 層（整地層）	
WA-8	平場 A-5 西端	5 層（整地層）	第44区土層断面 B-B' 参照



第121図 炭化物サンプル採取地点

第2節 鷲足館跡第1～4次調査における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

鷲足館跡の測定対象試料は、第1～4次調査において平場周辺で確認された整地層及び斜面の堆積層から出土した炭化物9点である(第11表)。

2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3 測定方法

加速器をベースとした ^{13}C -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、 ^{13}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOxII) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である(表11)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表11に、補正していない値を参考値として表12に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表11に、補正していない値を参考値として表12に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の

^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{14}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 12 に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

5 測定結果

測定結果を第 11・12 表、第 122 図に示す。

試料の ^{14}C 年代は、WA-1 が 620 ± 20 yrBP、WA-2 が 1140 ± 20 yrBP、WA-2 が 660 ± 20 yrBP、WA-4 が 500 ± 20 yrBP、WA-5 が 440 ± 20 yrBP、WA-6 が 620 ± 20 yrBP、WA-7 が 580 ± 20 yrBP、WA-8 が 2460 ± 30 yrBP である。

暦年較正年代 (1σ) は、平場 A-1 東端整地層から採取した WA-1 が $1300 \sim 1393$ cal AD、緩斜面 1 の南斜面の自然堆積層から採取した WA-2・3 がそれぞれ $885 \sim 966$ cal AD、 $1286 \sim 1385$ cal AD の範囲で示され、WA-1 と WA-3 が中世、WA-2 が古代に相当する。平場 A-3 南斜面の整地層から採取した WA-4・5 の暦年較正年代 (1σ) は、WA-4 が $1415 \sim 1435$ cal AD、WA-5 が $1436 \sim 1457$ cal AD の範囲で示され、両者の値は誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で一致しないが、おおむね近い。平場 A-5 の整地層から採取した WA-6~9 の暦年較正年代 (1σ) は、WA-6 が $1299 \sim 1391$ cal AD、WA-7 が $1320 \sim 1405$ cal AD、WA-8 が $750 \sim 514$ cal BC の間に各々複数の範囲で示され、WA-6・7 は中世、WA-8 は縄文時代晩期後葉頃に相当する (小林編 2008、佐原 2005)。推定される年代に対して、WA-6・7 は整合するが、WA-8 は大幅に古い。WA-8 については、古い時期の炭化物が混入した可能性も考慮する必要がある。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
 Reimer, P. J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150
 Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

第11表 放射性炭素年代測定結果(δ¹³C補正值)

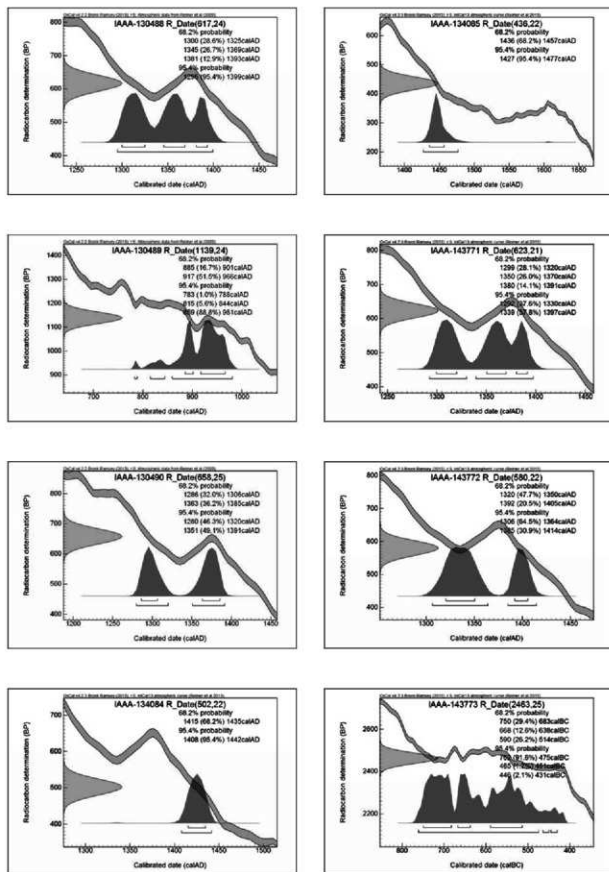
測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	δ ¹³ C(‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-130488	WA-1	A区 平場 A-1 東端 整地層(3d層:人為堆積層)	炭化物	AAA	-27.23 ± 0.53	620 ± 20	92.60 ± 0.28
IAAA-130489	WA-2	B区 緩斜面1南斜面 自然堆積層27層	炭化物	AAA	-26.72 ± 0.41	1,140 ± 20	86.77 ± 0.27
IAAA-130490	WA-3	B区 緩斜面1南斜面 自然堆積層14層	炭化物	AAA	-25.10 ± 0.58	660 ± 30	92.13 ± 0.29
IAAA-134084	WA-4	C区 平場 A-3 南斜面 整地層(21層:人為堆積層)	炭化物	AAA	-27.27 ± 0.82	500 ± 20	93.94 ± 0.27
IAAA-134085	WA-5	C区 平場 A-3 南斜面 整地層(21層:人為堆積層)	炭化物	AAA	-26.97 ± 0.40	440 ± 20	94.71 ± 0.27
IAAA-143771	WA-6	D区 平場 A-5 東端 整地層(2層:人為堆積層)	炭化物	AAA	-27.67 ± 0.27	620 ± 20	92.53 ± 0.25
IAAA-143772	WA-7	D区 平場 A-5 東端 整地層(8層:人為堆積層)	炭化物	AaA	-25.75 ± 0.21	580 ± 20	93.02 ± 0.26
IAAA-143773	WA-8	D区 平場 A-5 西端 整地層(5層:人為堆積層)	炭化物	AAA	-26.90 ± 0.25	2,460 ± 30	73.59 ± 0.23

[WA-1～3: #5875, WA-4・5: #6528, WA6～8: #7267]

第12表 放射性炭素年代測定結果(δ¹³C未補正值、暦年較正用¹⁴C年代、較正年代)

測定番号	δ ¹³ C補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-130488	650 ± 20	92.17 ± 0.26	617 ± 24	1300calAD - 1325calAD (28.6%) 1345calAD - 1369calAD (26.7%) 1381calAD - 1393calAD (12.9%)	1295calAD - 1399calAD (95.4%)
IAAA-130489	1,170 ± 20	86.47 ± 0.26	1,139 ± 24	885calAD - 901calAD (16.7%) 917calAD - 966calAD (51.8%)	783calAD - 788calAD (1.0%) 815calAD - 844calAD (5.6%) 859calAD - 981calAD (88.8%)
IAAA-130490	660 ± 20	92.11 ± 0.27	658 ± 25	1286calAD - 1306calAD (32.0%) 1363calAD - 1385calAD (36.2%)	1280calAD - 1320calAD (46.3%) 1351calAD - 1391calAD (49.1%)
IAAA-134084	540 ± 20	93.50 ± 0.22	502 ± 22	1415calAD - 1435calAD (68.2%)	1408calAD - 1442calAD (95.4%)
IAAA-134085	470 ± 20	94.33 ± 0.26	436 ± 22	1436calAD - 1457calAD (68.2%)	1427calAD - 1477calAD (95.4%)
IAAA-143771	670 ± 20	92.02 ± 0.24	623 ± 21	1299calAD - 1320calAD (28.1%) 1350calAD - 1370calAD (26.0%) 1380calAD - 1391calAD (14.1%)	1292calAD - 1330calAD (37.6%) 1339calAD - 1397calAD (57.8%)
IAAA-143772	590 ± 20	92.88 ± 0.25	580 ± 22	1320calAD - 1350calAD (47.7%) 1392calAD - 1405calAD (20.5%)	1306calAD - 1364calAD (64.5%) 1385calAD - 1414calAD (30.9%)
IAAA-143773	2,490 ± 30	73.31 ± 0.23	2,463 ± 25	750calBC - 683calBC (29.4%) 668calBC - 638calBC (12.6%) 590calBC - 514calBC (26.2%)	762calBC - 475calBC (91.6%) 465calBC - 451calBC (1.7%) 446calBC - 431calBC (2.1%)

[参考値]



第122図 暦年較正年代グラフ (参考)

第4章 総括

第1節 出土遺物の特徴と時期

鷺足館跡1～5次調査において出土した遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、かわらけ、中世陶器、施釉陶器、磁器、金属製品、石器である。出土遺物の総数は24点(1,650g)で、調査面積に対して極めて少ない。出土遺物の内訳は縄文土器1点(130g)、土師器1点(20g)、須恵器1点(55g)、かわらけ5点(95g)、中世陶器5点(630g)、施釉陶器8点(225g)、磁器1点(75g)、金属製品1点(155g)、石器1点(265g)である。このうち、図示できたのは、かわらけ4点、中世陶器5点、施釉陶器7点、金属製品1点、石器1点の合計18点で、これらは概ね中世のものと考えられる。以下、中世の遺物を中心に検討を行う。

1 中世陶器・施釉陶器 (第118～120図、第13表)

陶器類は、中世陶器5点、施釉陶器8点、合計13点出土し、このうち12点を図示した。

出土した中世陶器はすべて甕胴部の破片である。その産地は、在地の「白石窯」産の可能性のあるものが1点(第119図12)、愛知県東部の「常滑窯」産が4点(第118図4・第119図13・15・16)である。このうち、第119図12の内面・断面には漆と推定される補修痕跡が認められた。これらの年代は、いずれも胴部資料であるため詳細な年代は不明であるが、白石窯産のものは白石窯の一支群である一本杉窯跡群の調査成果(県教委1996)から13世紀後半～14世紀前半頃の年代が推定される。常滑窯産のものについては、概ね中世のものとみておきたい。

施釉陶器の内訳は、瓶子または梅瓶1点(第118図7)、大型鉢1点(第118図8)、折縁皿1点(第119図17)、天目茶碗3点(第118図5・10・14)、丸碗1点(第118図9)で、瓶子または梅瓶・大型鉢・折縁皿には灰釉、天目茶碗・丸碗には鉄釉が施され、すべて古瀬戸である。その年代は、形状の特徴から、瓶子または梅瓶・折縁皿は概ね中世、大型鉢は13～15世紀、天目茶碗のうち第118図5は14～15世紀、第119図10は14世紀末～15世紀前半、第119図14は15～16世紀、丸碗は16世紀頃と考えられる(註1)。

第13表 鷺足館跡1～5次調査 出土中世陶器・施釉陶器一覧

出土遺構	種別	器種	産地等	年代	登録	実測図版	遺物写真
平場A-1 検出面	中世陶器	甕	白石?	13～14c	1-1	119図12	120図5
平場A-1 SB1	中世陶器	甕	常滑	中世	1-2	118図4	120図6
平場A-3 整地層	中世陶器	甕	常滑	中世?	1-8	119図13	120図7
平場A-3 整地層	中世陶器	甕	常滑	中世?	1-11	119図15	120図8
平場A-3 整地層	中世陶器	甕	常滑	中世?	1-12	119図16	120図9
平場A-1 SB10	施釉陶器(灰釉)	瓶子or梅瓶	古瀬戸	中世	1-5	118図7	120図10
平場A-1 SB16	施釉陶器(灰釉)	大型鉢	古瀬戸	13～15c	1-6	118図8	120図11
平場A-3 整地層	施釉陶器(灰釉)	折縁皿	古瀬戸	中世?	1-10	119図17	120図12
平場A-1 SB4	施釉陶器(鉄釉)	天目茶碗	古瀬戸	14c～15c	1-3	118図5	120図15
平場A-1 整地層	施釉陶器(鉄釉)	天目茶碗	古瀬戸	14c末～15c前半	1-4	119図10	120図13
平場A-3 整地層	施釉陶器(鉄釉)	天目茶碗	古瀬戸	15～16c	1-9	119図14	120図14
平場B-12 P854	施釉陶器(鉄釉)	丸碗	古瀬戸	16c?	1-7	118図9	120図16

2 かわらけ (第118・119図)

かわらけは5点出土し、このうち4点を図示した。器種はいずれもロクロ成形の皿で、底部資料(第118図2・第119図11)の切り離し技法は回転糸切り無調整である。第118図1・2の皿の口縁部付近には油煙とみられる痕跡が確認されており、これらは灯明皿として利用されたと考えられる。かわらけの年代は、出土点数が少ないためその詳細は不明だが、成形技法・器形の特徴から概ね13～15世紀と考えられる(註1)。

3 金属製品 (第119図18)

金属製品は和鏡が1点出土した(第119図18)。直径10.5cm、重量155gほどの鏡で、約3分の1が欠損している。鏡背の縁は直立中縁で、中心に花蕊座鈕、下方に州浜、左上方に菊、その左下に小島の図柄が記された「州浜菊花双鳥鏡」とみられる。鈕座や図柄の特徴から、13世紀第4四半期～14世紀第1四半期の鎌倉時代後期のものと考えられる(註2)。

4 石器 (第118図5)

石器は砥石が1点出土した。その石材は安山岩である。他の遺物の年代からみて、中世のものと考えられる。

5 その他の遺物 縄文土器・土師器・須恵器・磁器

縄文土器は深鉢底部破片が1点、土師器は赤焼土器坏破片が1点出土、須恵器は壺胴部破片が1点、磁器は埴の破片が1点出土した。いずれも小破片のためその詳細な年代は不明であるが、このうち、土師器・須恵器については概ね平安時代、磁器は近世以降と考えられる。縄文土器については、周辺の平場で出土した炭化物片の年代から縄文時代晩期頃の可能性がある。なお、これらの遺物は館跡に伴うものでない。

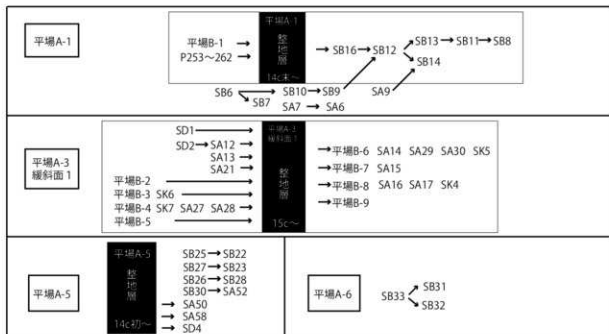
第2節 検出遺構の特徴と時期

今回の調査(A～E区)で検出した遺構は、平場20ヶ所(平場A:6ヶ所/平場A-1～6、平場B:14ヶ所/平場B-1～14)、緩斜面2ヶ所(緩斜面1・2)、整地層、土塁跡1条(土塁跡1)、溝跡10条(SD1～10)、掘立柱建物跡33棟(SB1～33)、柱穴列70条(SA1～70)、土坑7基(SK1～7)、柱穴・小穴875個(掘立柱建物跡・柱穴列跡を構成する柱穴を含む)である。これらの遺構からは、縄文土器、土師器、須恵器、中世陶器、施釉陶器、磁器、和鏡、石器(砥石)が出土した。このうち、縄文土器、土師器、須恵器、磁器については、今回の検出した遺構の内容やその出土状況から館跡の遺構に伴うものではなく、周辺から流入したものと判断される。これら以外の中世陶器、施釉陶器、和鏡、砥石については、館跡に伴うものと考えられ、概ね中世の年代が想定された。しかしながら、遺物の出土量はわずかであり、出土遺物のみで遺構の時期を推定することは難しい。そこで、本節では出土遺物の年代に、遺構の特徴や重複関係(第123図)、第3章で示した放射性炭素年代測定の結果も踏まえた上で、各遺構の時期・性格について検討することとする。なお、ここでは、中世の山城という性格を踏まえ、平場毎に構成する遺構をまとめ(第14表)、その特徴・年代についてみていく。

第14表 鷲足館跡1～5次調査 各平場の構成遺構一覧

平場名等	位置	構成遺構等
平場A-1	平坦面	竪立柱建物跡16棟 (SB1～16) / 柱穴列跡11条 (SA1～11) 柱穴・小穴252個 (P1～252:うち、SB・SAを構成する柱穴は198個) 土坑3基 (SK1～3) / 整地層(平坦面東端)
	北斜面	—
	東斜面 南斜面	平場B-1※ 平場B-1上に柱穴・小穴11個 (P253～262) → 整地層
平場A-2	平坦面	柱穴列跡2条 (SA18・19)
緩斜面1	緩斜面1 尾根上	柱穴列跡2条 (SA12・13) / 柱穴・小穴19個 (P311～329:うち、SAを構成する柱穴は15個) 溝跡2条 (SD1・2) / 整地層(尾根北端と尾根南斜面の2か所)
	南斜面	平場B-2※ 平場B-2 → 整地層
		平場B-3※ 平場B-3上に土坑1基 (SK6) / 柱穴・小穴3個 (P331～333) → 整地層
		平場B-4※ 平場B-4上に土坑1基 (SK7) / 柱穴・小穴1個 (P330) → 整地層
		平場B-6 平場B-6上に土坑1基 (SK5) / 柱穴列跡3条 (SA14) / 柱穴・小穴23個 (P283～286・288～293、296～310:うち、SAを構成する柱穴は8個)
		平場B-7 平場B-7上に柱穴列跡1条 (SA15) / 柱穴・小穴7個 (P277～282・287:うち、SAを構成する柱穴は4個)
		平場B-8 平場B-8上に土坑1基 (SK4) / 柱穴列跡2条 (SA16・17) / 柱穴・小穴10個 (P271～276・294～297:うち、SAを構成する柱穴は8個)
		平場B-5※ 平場B-5 → 整地層
北斜面	平場B-9 —	
平場A-3	平坦面	柱穴列跡9条 (SA20～26・31・32) / 柱穴・小穴69個 (P334～371・374～388・408～413:うち、SAを構成する柱穴は53個) / 整地層(平場北端及び北斜面と南斜面の2か所) / 溝状の窪み (SA25東端とSA26西端の間)
	南斜面	平場B-2※ 平場B-2 → 整地層
		平場B-3※ 平場B-3 → 整地層
		平場B-4※ 平場B-4上に柱穴列跡2条 (SA27・28) / 柱穴・小穴15個 (P401・402・405～407・414～423:うち、SAを構成する柱穴は14個) → 整地層
		平場B-6 平場B-6上に柱穴列跡3条 (SA29・30) / 柱穴・小穴11個 (P399・400・403・404・424～430:うち、SAを構成する柱穴は10個)
		平場B-7 平場B-7上に柱穴・小穴1個 (P431)
		平場B-14 平場B-14上に溝跡1条 (SD6) / 柱穴・小穴2個 (P852・853)
緩斜面2	尾根上	柱穴列跡1条 (SA33:平場A-3西側付近)
	平場B-11 —	
	平場B-12 平場B-12上に柱穴・小穴2個 (P854・855)	
	平場B-13 平場B-13上に柱穴列跡3条 (SA39～41) / 柱穴・小穴15個 (P836～851:うち、SAを構成する柱穴は13個)	
	平場B-14 平場B-14上に溝跡1条 (SD6) / 柱穴・小穴2個 (P852・853)	
	平場B-10 —	
平場A-4	平坦面	竪立柱建物跡3棟 (SB17～19) / 柱穴列跡5条 (SA34～38)
東側斜面	平場B-10 —	
平場A-5	平坦面	溝跡4条 (SD3～5・7) / 竪立柱建物跡11棟 (SB20～30) / 柱穴列跡29条 (SA42～70) 柱穴・小穴289個 (P547～835:うち、SB・SAを構成する柱穴は53個) / 整地層(平場西端・南東端)
平場A-6	平坦面	竪立柱建物跡3棟 (SK31～33)
	西側斜面 東側	溝跡1条 (SD10) 溝跡2条 (SD8・9) / 土塁跡1条 (土塁跡1) ※調査区外に土塁跡2有

※平場B-1～5:整地層下で検出



第123図 主要遺構の重複関係

1 平場 A-1 (第124図)

平場 A-1 は、遺跡南東部末端の 64.0～67.5m の尾根上に位置する平場である。平場の北・東・南側は約 30°～35°の斜面となり、その斜面上に幅約 1.1～2.7m ほどの細長い平場 B-1 が配置される。平場 B-1 は平場 A-1 をコの字状に囲むように配置されており、平場 A-1 の平場がいわゆる「曲輪」、平場 B-1 が「腰曲輪」として機能した平場と考えられる(註3)。

平場の平坦面上には、掘立柱建物跡 16 棟 (SB1～16)、柱穴列跡 11 条 (SA1～11)、柱穴・小穴 252 個 (P1～252)のうち、SB・SA を構成する柱穴は 198 個、土坑 3 基 (SK1～3) が所在する。平場の東端には整地層が認められた。

(1) 構成遺構の特徴

【掘立柱建物跡】(SB1～16)

掘立柱建物跡は、平場平坦面の中心部で確認した。掘立柱建物跡 16 棟の規模の内訳は、4×1 間張出付：1 棟 (SB14)、3×2 間張出付：1 棟 (SB1)、2×2 間底付：1 棟 (SB6)、2×1 間底付：1 棟 (SB11)、4×2 間：1 棟 (SB4)、4×1 間：1 棟 (SB2)、3×2 間：3 棟 (SB5・7・8)、3×1 間：2 棟 (SB3・9)、2×2 間：1 棟 (SB12)、2×1 間：4 棟 (SB10・13・15・16) である。建物の面積は 20～30 m² で、建物の方向はその東辺・西辺が真北に対して西に 10°前後に傾く建物 (SB1～7)、西また東に 20°以上傾く建物 (SB9～16) に大きく分けることができる。これらの建物は、その配置から同時存在が不可能なものを考慮すると、平場 A-1 の平坦面内で最大 13 回にわたり建て替えが行われた可能性が考えられるが、建物として認定できなかつた柱穴・小穴が多数残されていることから、それ以上の時期変遷があったとみられる。

【柱穴列跡】(SA1～11)

柱穴列跡は、平場の周縁部で確認した。その配置から平場を囲む柵として機能していたと考えられる。

【土坑】(SK1～3)

土坑は平場の西端で 3 基検出した。このうち、2 基 (SK1・2) については、底面に焼面が認められたことから焼成遺構と考えられる。その用途は不明であるが、平場内でも掘立柱建物跡の分布域から離れた箇所位置しており、建物に関わる遺構ではなく、屋外で火が使用された痕跡と考えられる(註4)。

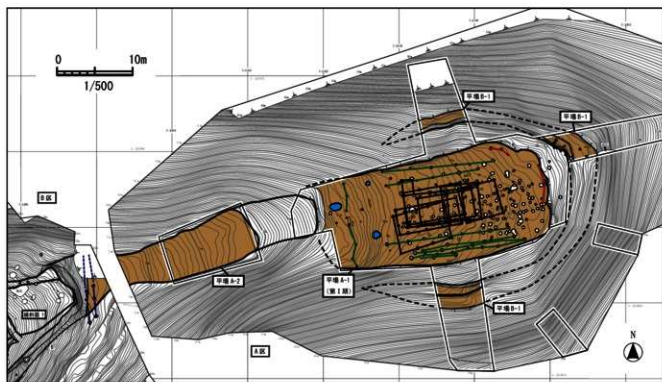
【整地層】

平場東端で確認した。東側斜面を埋め立て、平場の範囲を東に 4m ほど拡張している。平場 B-1 は、この整地層の下で検出されたことから、平場 B-1 は整地層を伴う段階ではその機能を終えていたと考えられる。

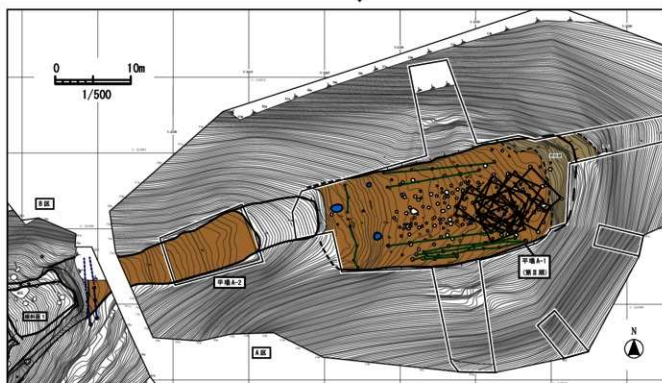
(2) 遺構の変遷

平場東端の整地層と平場 B-1 との重複関係から、平場 A-1 では 1 度の改修があったとみられ、**第 1 期**(平場 A-1 + 平場 B-1) → **第 2 期**(平場 A-1 + 整地層) の大きく 2 期の変遷があったと想定される。

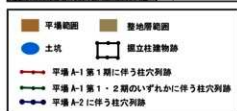
平場の平坦面上で確認した掘立柱建物跡のうち、その柱穴が整地層の上面から掘り込まれている建物は SB14・16 で、これらは確実に第 2 期に属する建物とみられる。この SB14 と 16 と重複関係にある建物には SB8・11・12・13 があり、その変遷は SB16 を起点として、① SB16 → SB12 → SB13 → SB11 → SB8、② SB16 → SB12 → SB14 となる。このことから、SB8・11～14・16 の 6 棟については、第 2 期の建物と考えられる。なお、これらの建物は、いずれも建物の角度が真北に対し西または東に 20°以上傾く建物である。この他の建物で重複関係にある建物としては、SB6・7・9・10・12 がある。その変遷は SB6 を起点として、① SB6 → SB7、② SB6 → SB10 → SB9 → SB12 となる。SB6・7 はその角度が真北に対し西または東に 10°前後傾く建物で、SB9・10・12 は 20°以上傾く建物である。推測の域であるが、この関係に着目した場合、建物の角度が真北に対し「10°前後のもの (SB1～7)」→「20°以上のもの (SB8～16)」に変遷したと想定でき、前者が第 1 期、後者が第 2 期に伴う建物である可能性が考えられる。また、柱穴列のうち、SA10・11 については、位置的にみて第 1 期の平場縁辺部に位置することから、これらは第 1 期に伴う柱穴列と推定される。この他の柱穴列については、整地層との重複関係がないため、どちらの時期に属するものかは不明である。



平場A-1 第1期



平場A-1 第2期



平場A-1の主要遺構

【平場A-1 第1期の主要遺構】

無曲輪・平場B-1/柱穴列跡：SA10・11/竪立柱建物跡：SR1～7?）

【平場A-1 第2期の主要遺構】

整地層/竪立柱建物跡：SR・11～14・16、(SR9・10・15?）

【平場A-1 第1・2期のいずれかに伴う遺構】

柱穴列跡：SA1～9/土坑：SR1～3

平場A-2の主要遺構

柱穴列跡：SA18・19

第124図 平場A-1・平場A-2の主要遺構の配置

(3) 年代

平場 A-1 の範囲内で、遺物は、遺構検出面、SB1・4・10・16、整地層から出土している。このうち、ある程度年代の推定が可能なものは、検出面出土の中世陶器甕（第 119 図 12）：13 世紀後半～14 前半頃、SB16 出土の灰釉陶器大型鉢（第 118 図 8）：13～15 世紀、SB4 出土の天目茶碗（第 118 図 5）：14～15 世紀、整地層出土の天目茶碗（第 119 図 10）：14c 末～15c 前半である。この他、平場 A-1 東端の整地層 3d 層から採取した炭化物試料（WA-1）の放射性炭素年代測定も実施しており、その結果は 1300～1393cal AD（14c 初頭～末）であった（第 3 章第 2 節参照）。この中で特に注目すべき点は、平場 A-1 東端の整地層の造成時期である。整地の年代に関わるものは、整地層出土の天目茶碗、整地層に含まれた炭化物の年代で、これらを総合すると整地層の造成時期は、少なくとも 14c 末～15c 前半以降と想定される。したがって、平場 A-1 のおおよその年代については、整地層を伴う第 2 期が 14c 末～15c 前半以降と考えられ、それよりも古い段階の第 1 期は、平場 A-1 内で出土している在地産の中世陶器の年代から、13c 後半以降と想定される。以上、平場 A-1 及びそれに関わる遺構の時期についてまとめると以下のとおりとなる。

	年代	平場範囲	構成遺構 ※ () 内は想定	所属時期不明
平場 A-1 第 1 期	13c 後半以降	東西 29.1m、南北 14.1m (占有面積：約 390 m ²)	平場 B-1/P253～262/ SA10・11/ (SB1～7?)	SA1～9
平場 A-1 第 2 期	14c 末～ 15c 前半以降	東西 33.6m、南北 14.1m (占有面積：約 440 m ²)	整地層/SB8・11～14・16/ (SB9・10・15?)	SK1～3

2 平場 A-2 (第 124 図)

平場 A-2 は、平場 A-1 西側の標高 70.3～73.5m の尾根上に位置する。東西 22.8m、南北 4.0～6.6m の細長い平場で、その占有面積は約 130 m² である。平場の北・南側は約 30～35° 斜面となる。この平場の西端部にあたる緩斜面 1 との接続部分には、柱穴列跡 2 条（SA18・19）が所在する。

(1) 構成遺構の特徴

SA18・19 は南北方向に延びる柱列で、東西に延びる尾根を分断する形で配置されている。平場 A-2 ではこの柱穴列以外の遺構は確認されていない。

(2) 年代

遺物が出土しておらず、その詳細な年代は不明である。平場 A-2 は、平場 A-1 と後述する緩斜面 1・平場 A-3 の間に位置し、これらを接続する関係にあることから、平場 A-1 と同様の年代幅におさまる時期の平場と考えられる。

3 緩斜面 1・平場 A-3 (第 125 図)

緩斜面 1 は標高 74.5～81.8m の尾根上、平場 A-3 はその西側の標高 81.8～85.1m の尾根上に位置する。緩斜面・平場 A-3 の北・南側には、北斜面約 30～38°、南斜面約 23～33° の斜面があり、南側の斜面には平場 B-2～4・6～8 の細長い平場、平場 A-3 付近の北側斜面には平場 B-5・9 が配置される。なお、この平場 B-5・9 が位置する平場 A-3 の北側斜面については、比較的その傾斜が緩やかである。

緩斜面 1 の尾根上には、溝跡 2 条（SD1・2）、柱穴列跡 2 条（SA12・13）、柱穴・小穴 19 個（P311～329；うち、SA を構成する柱穴は 15 個）、平場 A-3 の平坦面上と北側斜面上部には柱穴列跡 9 条（SA20～26・31・32）、柱穴・小穴 69 個（P334～371・374～388・408～413；うち、SA を構成する柱穴は 53 個）が所在する。整地層はそれぞれの尾根北端と尾根南斜面の 2 か所で認められた。

(1) 構成遺構の特徴**【平場B-2～4・6～8】**

平場A-3・緩斜面1の南斜面上に位置する。平場B-6～8は整地層除去前の段階、平場B-2～4は整地層下で確認した。その新旧関係は、「平場B-2～4→整地層+平場B-6～8」の関係にある。これらの平場は、幅が0.4～3.3mの細長い平場で、斜面部につくられた腰曲輪として機能した遺構と考えられる。

【平場B-5・9】

平場A-3の北斜面上に位置する。平場B-5とB-9は平坦面の幅が約0.3m前後の細長い平場で、その立地・形状が類似していることから、同様の機能を有した平場であったと考えられる。位置的にみて、平場A-3への通路跡の可能性はある。このうち、平場B-5は平場A-3の整地層下で確認しており、「平場B-5→整地層+平場B-9」の変遷が想定される。なお、平場B-5付近に位置するSA21は、平場と平行する形で配置されていることから、平場B-5に関連する柱穴列とみられる。

【柱穴列跡】(SA12～17・20～32)

柱穴列跡は、平場A-3の平坦面周縁部や北斜面(SA12・13・20～26・31・32)、南斜面の平場上(SA14～17・27～30)で確認した。SA27・28は平場B-4、SA14・29・30は平場B-6、SA15は平場B-7、SA16・17は平場B-8の平坦面に位置し、これらの平場に伴う柱穴列とみられる。このうち、SA12・13・21・27・28については、整地層下で柱穴を確認しており、「SA12・13・21・27・28→整地層」の新旧関係にある。これらの柱穴列は、その配置から平場や斜面側の平場の行き来を遮断する柵として機能していたと考えられる。

【溝跡】(SD1・2)

溝跡は、緩斜面1の尾根上に位置する。SD1・2の北端部は整地層の下で確認したことから、SD1・2→整地層の新旧関係にある。いずれも尾根を南北に分断する形でつくられていることから、尾根の行き来を遮断するため堀切として機能していたと考えられる。

【土坑】(SK4～7)

土坑は緩斜面1の南側斜面に平場上に位置する。SK4は平場B-8、SK5は平場B-6、SK6は平場B-3、SK7は平場B-4で検出した。SK4は底面で焼け面が確認された焼成土坑で、平場A-1で確認した土坑(SK1・2)と同様の用途の可能性はある。この他の土坑(SK5～7)では焼面等は確認されておらず、用途不明である。これらの土坑は、検出状況から見て、平場に伴う遺構と判断される。なお、SK6・7は整地層下で確認している。

【整地層】

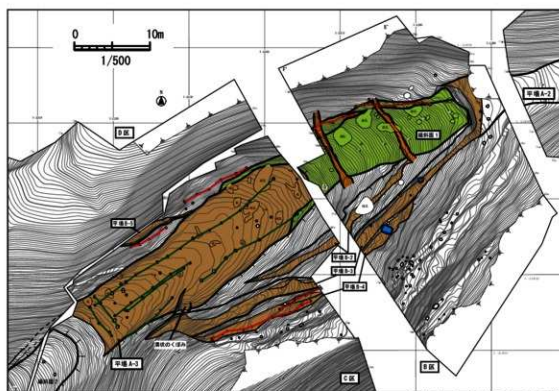
平場A-3及び緩斜面尾根上の北側と南斜面で確認した。北側の整地層は平場北端の斜面を埋め立て、平場の範囲を北に拡張する形で造成されている。一方、南斜面の整地層については、斜面上段付近から下で確認され、平場B-2～4を埋める形となっており、平場の範囲拡張ではなく、斜面部の改修を目的としたものとみられる。

【その他の遺構】

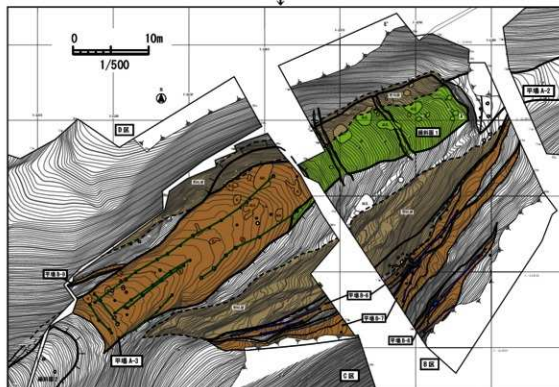
平場A-3の南西部端、SA25柱穴列東端とSA26柱穴列西端の間で最大幅1.8mほどの溝状の窪みを確認した。この窪みは、平場B-3と接続する。位置的にみて、平場A-3から平場B-3へ移動するための通路跡であったと考えられる。

(2) 遺構の変遷

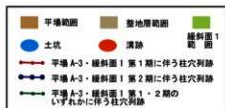
平場A-3及び緩斜面1の北側・南側の各整地層とそれぞれ重複関係にある遺構の状況から、平場A-3・緩斜面1においては以下のとおり大きく2期の変遷があったと想定される。ただし、平場A-3の平坦面上に位置する柱穴列については、整地層との重複関係がないため、どちらの時期に属するものかは不明である。



平場A-3・緩斜面1 第1期



平場A-3・緩斜面1 第2期



平場A-3・緩斜面1の主要遺構

【平場A-3・緩斜面1 第1期の主要遺構】
 柱穴列跡：SA12・13・20・21 / 溝跡：SH・2
 堀曲輪：平場B-2～4 (柱穴列跡 SA27・28 / 土坑 SK6・7) / 道路跡：平場B-5
 【平場A-3・緩斜面1 第2期の主要遺構】
 築地層 / 道路跡：平場B-9
 堀曲輪：平場B-6～8 (柱穴列跡 SA14～17・29・30 / 土坑 SK4・5)
 【平場A-3・緩斜面1 第1・2期のいずれかにも所属する遺構】
 柱穴列跡：SA22～26・31・32

第125図 平場A-3・緩斜面1の主要遺構配置

第1期: 北側斜面 緩斜面1 (SA12・13 柱穴列+SD1・2 溝跡) + 平場A-3 (柱穴列 SA20・21、平場B-5)
南側斜面 緩斜面1+平場A-3+平場B-2~4 (柱穴列 SA27・28/ SK6・7)

第2期: 北側斜面 緩斜面1 (整地層) + 平場A-3 (整地層+平場B-9)
南側斜面 緩斜面1・平場A-3+整地層+平場B-6~8 (柱穴列 SA14~17・29・30 /SK4・5)

(3) 年代

平場A-3・緩斜面1の範囲内で、遺物は、整地層のみで出土した。このうち、ある程度年代の推定が可能なものは、15~16cの天目茶碗破片(第119図4)のみである。この他、平場A-3南斜面の整地層21層から採取した炭化物試料(WA-4・5)の放射性炭素年代測定を実施しており、その結果は、WA-4が1415~1435cal AD、WA-5が1436~1457cal ADであった。これらを総合すると、平場A-3・緩斜面1の南側に形成された整地層の年代は15世紀以降と想定される。以上、平場A-3・緩斜面1に関わる遺構の時期についてまとめると以下のとおりとなる。

	年代	平場A-3範囲	構成遺構 ※ ()内は想定	所属時期不明
平場A-3 緩斜面1 第1期	15c 以前?	東西34.5m、南北7.6~9.5m (占有面積 約305㎡)	平場B-2~5/SD1・2/SK6・7 SA12・13・20・21・27・28	SA22~26・31・32
平場A-3 緩斜面2 第2期	15c~	東西34.5m、南北7.6~11.9m (占有面積は約325㎡)	整地層/平場6~9/SK4・5 SA14~17・29・30	

4 緩斜面2 (第126図)

緩斜面2は平場A-3と平場A-5の間の標高86~96mの尾根上に位置する東西23.6m、南北5.6~12.3mほどの西-東方向に細長い緩斜面である。緩斜面2の範囲内には、平場B-11~14が配置されている。

尾根上の緩斜面東側で柱穴列跡1条(SA33)、平場B-13の平坦面上で柱穴・小穴2個(P854・855)、平場B-14の平坦面上で溝跡1条(SD6)、西側の斜面で柱穴・小穴2個(P852・853)を検出した。

(1) 構成遺構の特徴

【平場B-11・12】

緩斜面2の北端に配置される。平坦面の幅が0.2~1.2mほどの細長い平場で、緩斜面2の北側が急斜面のため部分的に残存していない箇所はあるが、位置的に見て平場B-11・12は一連の遺構であったとみられる。また、標高95m付近で平場B-14のSD5溝跡の北端部とも接続する。東側は平場A-3と、西側は平場A-5と接続していたと考えられ、途中では階段状になる箇所もあることから、平場B-11・12は通路として機能していた可能性が高い。

【平場B-13・14、SA39~41、SD5】

緩斜面2の尾根上に位置する。平場B-13は平坦面の幅が約0.6~1.9、平場B-14は幅が2.8mほどの細長い平場で、平場上には柱穴列(SA39~41)や溝跡(SD6)が配置される。これらはその規模、尾根上の位置からみて「腰曲輪」として機能した平場と考えられる。平場B-13上の柱穴列・平場B-14上の溝跡はいずれも尾根を南北に分断する形でつくられていることから、前者は尾根の行き来を遮断するための柵列、後者は堀切として機能していた可能性がある。

(2) 年代

遺物は緩斜面上の遺構確認面からかわらけ破片、平場B-12に位置するP854で施軸陶器の丸碗が出土している。このうち、丸碗は16世紀頃の可能性があるが、破片資料ということもあり、その詳細な年代の特定は難しい。緩斜面2の東西に位置する平場A-3・A-5との接続関連から、それらと同時期のものとみておきたい。

5 平場 A-5 (第126図)

平場 A-5 は、標高 101.9～108.5m の尾根上に位置する。北西-南東 57.9m 以上、南西-北東 10.3～22.9m、占有面積約 760 m²以上の北西-南東方向に長い平場である。南東部分が広く、平場北西部に位置する SD4・5 溝跡を境に、その北西側がさらに一段高くなる。平場 A-5 は、今回の調査を行った中で最も占有面積の広い平場で、平場の北東・南西・南東側は 40° 前後の急斜面となっている。

平場の平坦面上には、溝跡 4 条 (SD3～5・7)、掘立柱建物跡 11 棟 (SB20～30)、柱穴列跡 29 条 (SA42～70)、柱穴・小穴 289 個 (P547～835: うち、SB・SA を構成する柱穴は 53 個) の遺構が所在する。また、平場の西端・南東端では整地層を確認した。

(1) 構成遺構の特徴

【掘立柱建物跡】(SB20～30)

掘立柱建物跡は、平場平坦面の中央～南東部で確認した。掘立柱建物跡 11 棟の規模の内訳は、4×1 間: 4 棟 (SB25～27・30)、3×1 間: 1 棟 (SB29)、2×2 間: 1 棟 (SB28)、1×1 間: 5 棟 (SB20～24) である。建物の面積は 30 m²前後のもの (SB25～30) と 10 m²前後のもの (SB20～24) に大きく分けられ、その分布域も前者が平場中央部、後者が平場南東部に偏ることから、それぞれ性格を異にする建物が配置されていた可能性が考えられる。これらの建物は、その配置から前者が 6 時期、後者が 4 時期の変遷を想定することができるが、建物として認定できなかった柱穴・小穴が多数残されていることから、それ以上の時期変遷があったとみられる。

【柱穴列跡】(SA42～70)

柱穴列跡は、平場の周縁部と平場北西中央部で確認した。平場周縁部に配置される柱穴列 (SA42～54・58・65・66・67) は平場を囲む柵として機能していたと考えられる。一方、平場北西部中央部で検出した SA68～70 については、2 本柱となる柱穴列で、他の柱穴列と比較すると柱穴の規模が大きい。これらは平場北西部に位置する SD4・5 溝跡を境の一段高くなる平場の手前に位置し、SD4・5 と平行する形で東西方向に配置されている。位置的にみて門跡の可能性もある。この SA68～70 付近に位置する SA55～57・59～64 についても、その配置から SA68～70 に関連する柱穴列の可能性が高い。

【溝跡】(SD3～5・7)

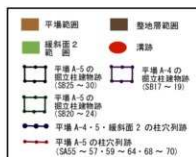
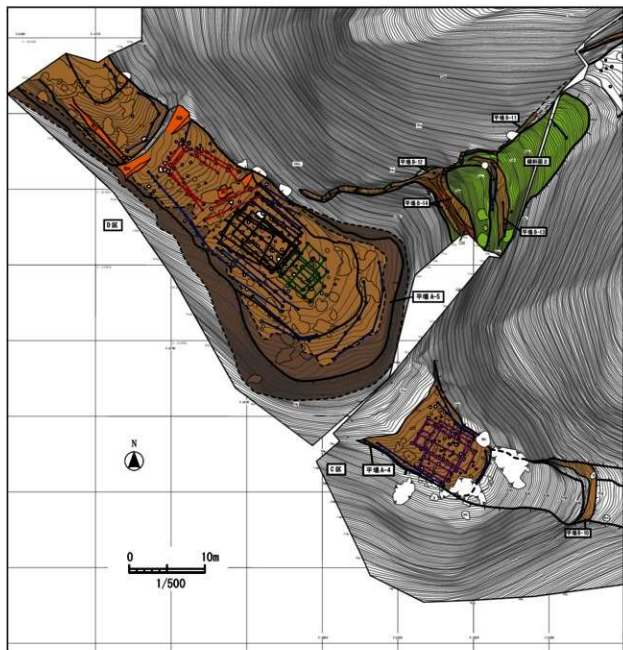
溝跡は平場北西部で確認した。SD4・5 は平場を南北に分断する形でつくられており、それを境に平場北西部が一段高くなることから、堀切として機能していたと考えられる。SD3 は SD4・5 北西部の一段高くなる平場の南西端に位置し、SD4 と接続する。その接続部分は階段状となっていることから通路跡の可能性もある。SD7 は東-西方向に延びる溝で平場 A-5 の平場上を東西に横断せず、平場の東端から中央部付近まで延びる溝である。先に述べた SA68～70 付近にあり、緩斜面 2 で確認された通路跡 (平場 B-12) の延長線上に位置することから、通路跡の可能性が高い。

【整地層】

平場の西端・南東端で確認した。平場端部の地形を段状に掘削した後、その上に盛土を行うといった工程で形成された整地層である。整地層の下では遺構が確認されないことから平場造成時のものと考えられる。

(2) 年代

遺物は平場の遺構確認面から和鏡 (第 119 図 18) が出土した。和鏡の年代は 13 世紀後半～14 世紀中頃とみられ、少なくともその時期には平場は存在したと考えられる。また、平場の整地層から採取した炭化物試料 (WA-6・7) の放射性炭素年代測定の結果では、WA-6: 1299～1391cal AD、WA-7: 1320～1405 cal AD の年代が得られている。これらを総合すると、平場 A-5 の造成時期は、14 世紀初頭以降と考えられる。



平場A-4・平場A-5・緩斜面1の主要遺構

【緩斜面2の主要遺構】

柱穴列跡：S833

縦直輪：平場B-13 (S839～41)

平場B-14 (堀切 S86)

道路跡：平場B-11・B-12

【平場A-4の主要遺構】

竪立柱建物跡：S817～19

柱穴列跡：S834～38

【平場A-5の主要遺構】

竪立柱建物跡：S820～30

柱穴列跡：S842～70

◎S868～70 門跡

堀切：S84・5

道路跡：S80・7

第126図 平場A-4・平場A-5・緩斜面2の主要遺構配置

6 平場 A-4 (第126図)

平場 A-4 は、標高 95.3~97.0m の尾根上に位置する。北西-南東 12.6m、南西-北東 9.5m、占有面積 120 m²ほどの北西-南東にやや長い狭い平場である。平場東側の尾根上斜面には平場 B-10 が所在し、北東・南西側は約 31~45° の急斜面となる。平場 B-10 は平坦面の幅が約 0.3~1.8m ほどの細長い平場で、西から東に向かって延びる尾根斜面を南北方向に分断する形で L 字状に配置されている。平場 A-4 の平場が「曲輪」、平場 B-10 が「腰曲輪」として機能した平場と考えられる。

平場 A-4 の平坦面上には、掘立柱建物跡 3 棟 (SB17~19)、柱穴列跡 5 条 (SA34~38)、柱穴・小穴 115 個 (P432~546:うち、SB・SA を構成する柱穴は 62 個) が所在する。

(1) 構成遺構の特徴

【掘立柱建物跡】(SB17~19)

掘立柱建物跡は、平場平坦面の中心部で確認した。掘立柱建物跡 3 棟の規模の内訳は、2×2 間庇・張出付:1 棟 (SB17)、3×1 間張出付:1 棟 (SB18)、2×2 間張出付:1 棟 (SB19) である。建物の面積は 20 m²前後である。これらの建物は、その配置から 2 回程度建て替えが行われたと考えられるが、建物として認定できなかった柱穴・小穴が多数残されていることから、それ以上の建て替えがあったとみられる。

【柱穴列跡】(SA34~38)

柱穴列跡は、平場の周縁部で確認した。その配置から平場を囲む柵として機能していたと考えられる。

(2) 年代

遺物が出土しておらず、その詳細な年代は不明であるが、他の平場と同様に、館を構成する平場のひとつと考えられ、中世のいずれかの時期に機能した曲輪とみられる。平場 A-4 の北西側に位置する平場 A-5 との位置関係から、少なくとも平場 A-5 が存在した年代幅におさまる時期の平場と考えられる。

7 平場 A-6 (第127図)

平場 A-6 は、遺跡西部末端の標高 127.5~130.4m の尾根上に位置する。南西-北東 35.2m、北西-南東 7.2~9.3m、占有面積約 270 m²の南西-北東方向に長い平場である。平場の北・南側は 33° ほどの急斜面となる。西側の急斜面下には溝跡 (SD10)、東側の尾根上には、尾根を南北に分断する形で西から溝跡 (SD9) →土塁跡 1 →溝跡 (SD8) →土塁 2 の順に配置されている。

平場平坦面の中央やや南東に位置するには、東西 6m・南北 4m ほどの平坦面がさらに作り出されており、その範囲内に掘立柱建物跡 3 棟 (SB31~33) が配置されるが、その他に遺構は存在しない。

(1) 構成遺構の特徴

【掘立柱建物跡】(SB31~33)

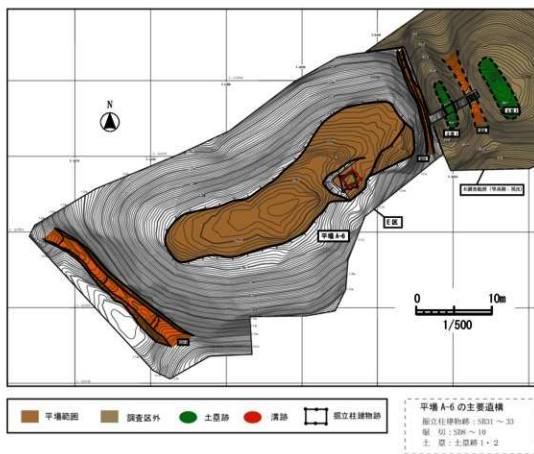
掘立柱建物跡は、平場平坦面で確認した。掘立柱建物跡 3 棟の面積は 3 m²前後で、非常に規模が小さい。これらの建物は、その配置から 2 回の建て替えが行われたと考えられる。

【溝跡】(SD8~10)

平場 A-6 の東西に位置する溝跡 (SD8~10) は、それぞれ尾根を分断する形で配置されており、堀切として機能していたと考えられる。

(2) 年代

遺物が出土しておらず、その年代は不明であるが、他の平場と同様に館跡を構成する平場と考えられ、中世のいずれかの時期に機能した曲輪と考えられる。



第127図 平場A-6の主要遺構配置

第3節 まとめ

前節では、今回調査した平場・緩斜面ごとに構成遺構の特徴やその変遷・年代等について触れた。本節では今回の発掘調査で確認できた事項を踏まえ、平場の存続期間やその性格等について若干の検討を行う。

1 鷲足館跡の存続期間について

今回、調査を実施した鷲足館跡の中世山城を構成する平場6ヶ所のうち、検出遺構や出土遺物、年代測定の結果から、平場の造成・機能時期をある程度推定できたのは、平場A-1、平場A-3、平場A-5の3ヶ所のみである。その年代を列挙すると、平場A-1が第1期：13世紀後半～14世紀末頃→第2期：14世紀末～15世紀前半以降、平場A-3が第1期：15世紀以前→第2期：15世紀以降、平場A-5の造成時期が14世紀初頭以降となる。これらの平場の年代幅と出土遺物の年代から、今回の調査範囲内における鷲足館跡の存続期間については、13世紀後半頃から16世紀代頃と想定することができる。また、前節で確認した平場A-1や平場A-3の整地層と配置遺構の関係から、鷲足館跡南東部の一部の平場においては15世紀初頭ないし15世紀前半頃に平場の改修があり、大きく2時期の変遷があったことも確認できた。しかし、上記以外の平場については、出土遺物がほとんどなく、その年代幅を把握するまでには至っていない。したがって、今回の確認した各平場の共存関係については不明といわざるを得ない。

2 平場の位置づけ

今回確認した尾根上の各平場の位置関係については第128図のとおりである。調査範囲の東端部には平場A-1が位置し、そこから西に向かって延びる尾根上に平場A-1(標高65m前後)→平場A-2(標高70m前後)→(緩斜面1)→平場A-3(標高80m前後)→(緩斜面2)→平場A-5(標高105m前後)の順に平場が配置される。また、平場A-5の南東部に延びる尾根上には平場A-4(標高95m前後)が配置される。平場A-6は調査範囲外に所在する鷲足館跡で標高の最も高い平場(第4図の平場1)の西側に所在し、遺跡西側の末端部に位置する。以下、各平場の性格、平場へ至る経路等について若干の検討を行うこととする。

(1) 各平場の性格について

今回の調査で確認した各平場内で検出できた各種遺構の概要は第15表のとおりで、掘立柱建物が配置されている平場は平場A-1・4・5・6の4ヶ所(第129図)で、平場A-2・3については柱穴列のみが配置されている状況であった。建物が配置された平場と配置されない平場とでは、その用途が異なっていた可能性がある。ここでは、各平場で確認された遺構の種類を整理し、それぞれの性格について検討してみたい。

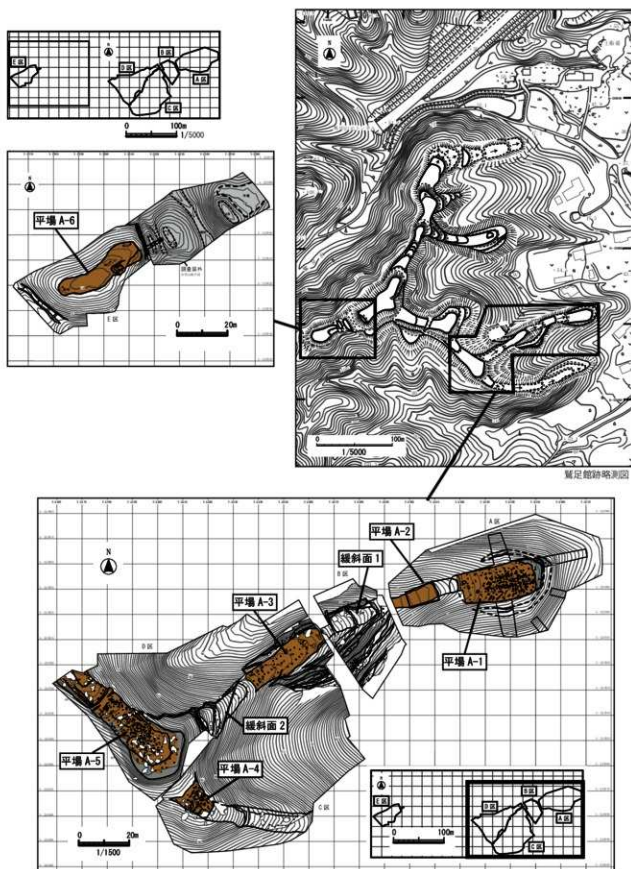
第15表 各平場の標高・面積と配置された遺構種別一覧

平場名	標高	面積	配置遺構		
			平垣部	斜面部	その他
平場A-1(1期)	64.0~67.5m	390㎡	掘立柱建物、柱穴列	平場(1段)+柱穴列?	
平場A-1(2期)		440㎡	掘立柱建物、柱穴列	-	整地層(平場拡張)
平場A-2	70.3~73.5m	130㎡	柱穴列	-	-
平場A-3(1期)	81.8~85.1m	305㎡	柱穴列	南斜面に平場(3段)+柱穴列 北斜面:通路	
平場A-3(2期)		325㎡	柱穴列	平場(3段)+柱穴列 北斜面:通路	整地層(平場拡張)
平場A-4	95.3~97.0m	120㎡	掘立柱建物、柱穴列	平場(1段)	
平場A-5	101.9~108.5m	760㎡以上	掘立柱建物、柱穴列 門・堀切・通路	東斜面:通路	整地層(平場拡張)
平場A-6	127.5~130.4m	270㎡	掘立柱建物	西斜面:堀切	東側に土塁・堀切(2重)

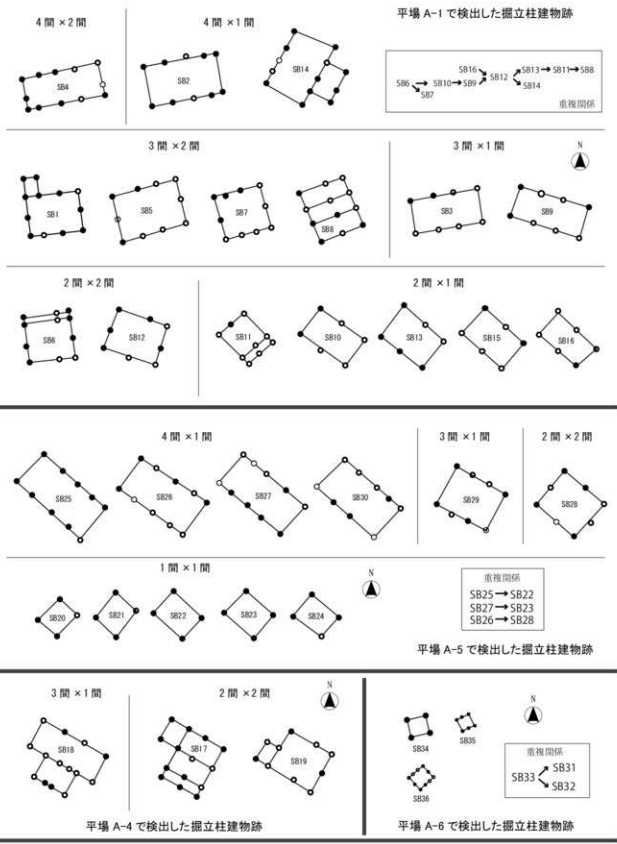
①平場A-1

平場A-1の平場には、面積20~30㎡前後の建物(4間×2間~2間×1間)が配置される。その周囲の平場周縁部には平場の遮蔽または斜面からの侵入防止のための柱穴列がある。北・東・南側の斜面には第1期の段階で細長い平場(腰曲輪)がつけられる。その平場上には柱穴跡が確認されており、柱穴列が存在していた可能性がある。平場A-1を囲む斜面は、切岸として造成された斜面か否かは判断がつかないが、急傾斜な斜面である。斜面上では平場に至る通路等の痕跡は確認されていない。

平場A-1は館の東側末端部に位置することから、配置された建物は櫓などの施設が置かれた平場であったと推定されるが、張出しや庇の付く建物も確認されており、それ以外の用途の建物も存在したと考えられる。平場A-1の第1期には外敵の侵入を防ぐための腰曲輪や櫓などが設置されていることから、一定の防御性を備えた平場であったといえる。その一方、第2期になると、斜面部の腰曲輪はなくなり、その防御性を失う代わりに、平場の拡張と建物の配置替え(南東方向に向けた建物を平場東端に配置)するようになる。平場A-1の第2期は14世紀末~15世紀前半以降とみられるが、この時期に建物の配置や平場A-1の構造を大幅に変える何らかの必要性が生じたものと推察される。



第128図 鷲足館跡1～5次調査 各平場の位置関係



第 129 図 鷲足館跡(1～5次調査)掘立柱建物跡模式図

②平場A-2・緩斜面1・A-3・緩斜面2

平場A-1と平場A-5の間に位置する。平場A-2・3では縁辺部に柱穴列が配置されるのみで建物は存在しない。緩斜面1・2の尾根上には柱穴列・堀切・腰曲輪が配置される。これらの尾根南北の斜面は、切岸として造成された斜面か否かは判断がつかないが、平場A-3の北側付近を除き、急傾斜な斜面となる。平場A-2西端・緩斜面1・平場A-3の南斜面には、数段の細長い平場（腰曲輪）と柱穴列が配置される。一方で、平場A-3から緩斜面2の北斜面には、尾根北側の沢地から続く通路が配置される程度で、防衛的な施設は配置されていない。

このように、平場A-2から緩斜面2に至る尾根上の平場は、建物が存在しない平場であり、位置的にみて平場A-1と平場A-5を行き来するための通路的な位置づけの平場であったと考えられる。ただし、その防衛性をみると、平場A-2～平場A-3の間の南斜面には外敵の侵入を防ぐための腰曲輪や櫓などが設置され、尾根上にも尾根を分断するための施設（東から 平場A-2：柱穴列 → 緩斜面1：堀切 → 平場A-3：柱穴列 → 緩斜面2：腰曲輪・堀切・柱穴列）が所々に配置されている。このことから、平場A-1から平場A-5の間は、南側斜面の防衛と外敵の平場侵入時の尾根上移動の両者を意識した構造となっており、一定の防衛性を備えていた通路的な位置づけの平場であったと推定される。一方で、北斜面は防衛性は低く、登城通路として利用されていたと考えられる。

③平場A-5

平場A-5には、平場南半に面積10㎡ほどの1間×1間の建物と面積30㎡前後の建物（4間×1間）の2種の建物、平場北半に門と考えられる遺構や通路・堀切が配置される。その周囲の平場周縁部には平場の遮蔽または斜面からの侵入防止のための柱穴列がある。斜面部は切岸として造成された斜面か否かは判断がつかないが、急傾斜な斜面となる。平場A-5は今回確認した平場の中でも占有面積が最も広い平場であり、比較的標高の高い地点に位置する。この平場では、他では確認されなかった門などの出入口に関わる施設が配置されており、館の中で重要な役割を担った平場であったと推定される。配置された建物は倉庫や番所・詰所的な建物であった可能性がある。なお、平場A-5は、平場周囲を柱穴列で囲む程度であることから、先に述べた平場A-1や平場A-2・3、緩斜面1・2と比較すると、その防衛性は低かったと考えられる。

④平場A-4

平場A-5の南東部に隣接する平場A-4は、占有面積120㎡程度の狭い平場である。斜面部は切岸として造成された斜面か否かは判断がつかないが、急傾斜な斜面となる。平場内に掘立柱建物跡、その周囲に柱穴列が配置される。配置された建物の面積は20㎡ほどで、張出や庇のつく建物である。平場A-4は平場A-5の南東隅に隣接する小規模の曲輪であり、平場南東部を見渡せる位置にある。このことから平場A-4は、平場A-1と同様、櫓等の建物が配置された平場であった可能性が想定される。なお、平場A-4の周辺では通路等の遺構が確認されないことから、平場A-4と平場A-5との行き来については、平場A-5の南東部隅から平場A-4へ梯子などを渡し移動していたと推定される。

⑤平場A-6

平場A-6は、鷲足館跡の西部末端に位置する。そのさらに西側には現況で険しい山林・山地が広がり、館に関連する平場のような地形は確認されない（第128図）。平場A-6には周囲を囲む柱穴列はなく、面積4㎡以下の建物が一定範囲に配置されるのみで、その他は遺構のない空白地帯となる。配置された建物は非常に小型で、倉庫等の用途が想定される。斜面部は切岸として造成された斜面か否かは判断がつかないが、急傾斜な斜面となる。

西側の斜面下には西から平場への侵入を防ぐ堀切がつくれ、平場の東側には2重の堀切と土塁があり、平場A-6と東側の平場との移動が遮断されている。

このように、平場A-6は、倉庫的な建物と広場的な空間を備えた平場であったとみられ、斜面からの侵入や平場間の移動に関しては一定の防衛性は備えているが、平場自体の防衛性は低かったと考えられる。その性格については、推測の域ではあるが、平場A-6は鷲足館西末端部の平場に位置することから、西からの敵の侵入に備えるとともに、有事の際の避難場所のような役割をもった平場であった可能性が考えられる。

⑥小結

以上の検討から、平場のうち建物が配置された平場には、それぞれの位置によって役割が異なっていたことが想定された。また、平場A-1から平場A-5へ至る尾根上に位置する平場においては、各種遺構の配置から、標高の低い地点の方の防衛性が高く、かつ尾根の南側に防衛的な施設が多く配置している状況も確認することができた。このことから、鷲足館跡は、遺跡南部からの外敵侵入に備えた山城であったと想定することができる。平場A-1で確認された14世紀末～15世紀前半頃の平場の改修では、館跡の末端部にも関わらず、その防衛の要ともいえる腰郭を廃し、建物の方向を南東向きに変更している。この平場A-1の改修の背景には、当時の社会情勢が深く関わっていたと考えられ、互理郡の中世の動向を探る上で、非常に興味深い事例といえるだろう。

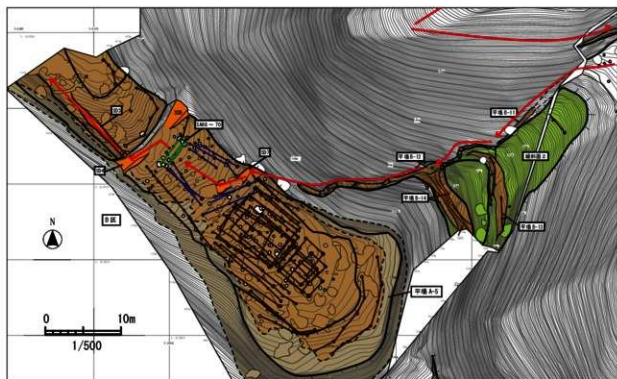
(2) 登城経路について

今回の調査範囲では、平場A-3・緩斜面2・平場A-5において通路と想定される遺構が確認された。ここでは、その状況を把握することができた平場A-5の東に位置する尾根の登城経路(平場A-1～平場A-5)をまとめる。

平場A-1から平場A-5で確認された通路跡等の位置関係から想定される登城経路を第130図に示した。まず、館跡東側の丘陵裾部から平場へ登る経路としては、平場A-3北側の斜面が想定される。平場A-3の東側に位置する平場A-1・A-2のほうが標高的には低い地点にはなるが、その斜面に通路と考えられる遺構は確認されておらず、また平場の南北にある斜面も急傾斜であることから、平場A-1・A-2の斜面には通路は存在しなかったと考えられる。平場A-3の北側には比較的傾斜の緩やかな沢地形が延びており、その沢地から平場への斜面の傾斜は他と比べると緩やかな地形となっている。平場A-3の北斜面で確認された通路跡(平場B-5・9)はその付近に位置している。したがって、鷲足館東端付近からの平場への登城経路については、平場A-1～3北側の沢→平場A-3北側の沢地→平場A-3といったルートが想定される。その後の平場間の移動については、平場A-3を起点とし、東側は尾根伝いで平場A-3→平場A-2→平場A-1といった経路、西側は尾根北端で確認された通路を利用し平場A-3→緩斜面2北端の通路(平場B-10・11)→平場A-5のSD7付近といった経路が想定される。平場A-5では、SD7付近→柱穴列(SA55～57・59～65)に挟まれた空間→SA68～70(門跡)→SD4・5堀切→SD3の順で移動し、平場A-5の北西に位置する平場へ移動したと考えられる。

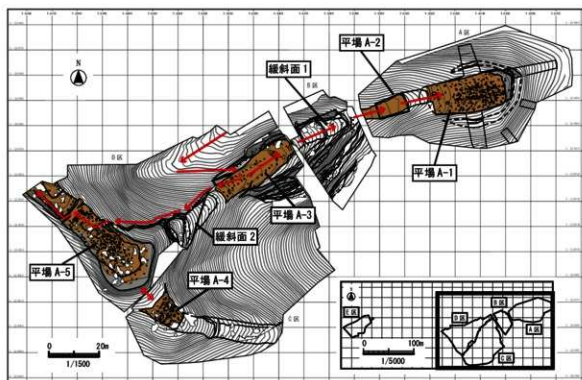
3 鷲足館跡の位置づけ

鷲足館跡が位置する山元町北西部の地形は、阿武隈山地から派生した西から東に向かって櫛状に延びる丘陵とその前後に広がる谷中平野により構成される。鷲足館跡が立地する丘陵はその一つにあたり、この丘陵の南東部には緩やかな平坦地が広がる。現在のところ、町北西部では、こうした丘陵上やその周辺の平坦地に多くの遺跡が分布している。鷲足館跡の周辺には、小平館跡、山寺館跡といった中世城館が所在し、また、近年の調査により、北経塚遺跡、日向遺跡、谷原遺跡で中世集落の存在が明らかとなっている(第131図)。以下、鷲足館跡周辺の中世遺跡の概要に触れ、互理郡の中世における鷲足館跡の位置づけを考えてみたい。



平場 A-5 付近拡大図

想定される登城経路 →



第130図 平場A-1～平場A-5の登城経路

(1) 鷲足館跡周辺の中世城館・集落について

鷲足館跡の北東約1kmの地点にある丘陵上には小平館跡、その南東付近の隣接地に北経塚遺跡が位置する。小平館跡は亘理要害14世亘理宗隆が隠居したと伝えられている館跡(柴橋1974)で、標高40mほどの丘陵頂部に立地する。本格的な調査が実施されていないため、その詳細は不明である。北経塚遺跡では、12世紀代～17世紀頃まで存続したと考えられる集落が確認されており、位置的にみて、小平館跡の運営主体となった集落であったと推定されている(町教委2017a)。

鷲足館跡の南東約1kmの地点に位置する丘陵南側には、丘陵南斜面に日向遺跡、そのさらに南に広がる平坦地に谷原遺跡があり、谷原遺跡のすぐ南西に位置する丘陵裾部に山寺館跡が所在する。日向遺跡では13世紀後半から16世紀頃まで存続していた可能性のある集落が確認された(町教委2015a)。また、谷原遺跡では13世紀後半～中世末期まで存続した集落が確認され、建物面積が100㎡を超える大型の建物の存在や集落の継続性から、この地の拠点の集落に位置付けられている(町教委2016b)。山寺館跡は、菱沼内膳の居館や天正年間の山寺盛純の館跡などと伝えられている館跡(柴橋1974)で、本格的な調査が実施されていないため、その詳細は不明であるが、位置的にみれば、この山寺館跡の運営主体の集落は谷原遺跡周辺にあった可能性が高い。

鷲足館跡周辺にある丘陵部には、この他にも、大平館跡や山下館跡といった中世の館跡が所在する。遺跡の分布状況から、鷲足館跡周辺の中世城館跡は、町北西部の西から東に向かって楕円状に伸びる丘陵ごとに設置されていたと考えられ、その付近に広がる平坦地に運営主体となる集落が展開していたと推定される。こうした状況を踏まえれば、鷲足館跡の運営主体の集落は、遺跡の立地する丘陵南東部に広がる平坦地であった可能性が高い。現状では、鷲足館跡南東部の平坦地で中世の集落は確認されていないが、今後、こうした中世集落が発見される可能性が高い。



第131図 鷲足館跡周辺の中世遺跡

(2) 鷺足館跡の運営主体について

鷺足館跡の館主については、第1章第3節で触れたとおり、様々な口伝はあるものの、中世まで遡る文献史料が確認されていないため、現状では不明といわざるを得ない。そこで、周辺の中世遺跡の調査事例を踏まえ、鷺足館跡の運営主体について考えてみたい。

鷺足館跡が位置する亶理郡内において、本格的な発掘調査が実施された中世城館跡は、亶理町に所在する小堤城跡と山元町に所在する山下館跡の2例のみである。小堤城跡は、中世において亶理地域を領有した武石(亶理)氏の居城跡と推定されている館跡で、その調査では13世紀～14世紀と考えられる在地産・渥美産・常滑産の中世陶器や古瀬戸の灰軸陶器、青磁、かわらけなどの遺物が出土した。しかし、調査範囲が狭かったこともあり、検出された遺構は掘立柱建物跡や堅穴遺構など一部にとどまり、館の詳細を把握するまでには至っていない(県教委1991)。山下館跡の調査では、館跡を構成する平場・堀切・土塁・通路跡などが良好な状態で確認された(宮城県考古学会2014)。その詳細については報告書の刊行を待つ必要があるが、出土遺物はきわめて少なく、現状で搬入品と考えられる遺物は確認されていない。次に中世集落の調査事例をみると、亶理郡内では亶理町館南園遺跡(県教委1991)、山元町北経塚遺跡(町教委2010・2013・2017a)・日向遺跡(町教委2015a)・谷原遺跡(町教委2016b)などが挙げられる。館南園遺跡は、先にも述べた小堤城跡に隣接する中世集落で、その調査成果から小堤城跡に関連する屋敷地と推定されている。館南園遺跡の調査では、溝により区画された13世紀後半から14世紀前半を主体とする屋敷地が検出され、中国産の青磁・白磁、古瀬戸の灰軸陶器、在地・渥美・常滑産中世陶器、かわらけなどが出土した。一方、山元町域では、先にも概要を述べたとおり、地域の拠点的な集落(谷原遺跡)や隣接する館跡に関連する屋敷地(北経塚遺跡)などが発見されているが、これらの遺跡から出土した遺物は、在地産の中世陶器が大半を占め、搬入品が極めて少ない(町教委2017a)。

以上、亶理郡内における中世遺跡の調査事例を概観したが、亶理郡内での中世城館跡の調査は極めて少ないため、遺構の構造等の面では、鷺足館跡の位置づけを検討することは難しい。そこで、出土遺物の面から比較検討を行ってみたい。亶理領主が居城したとされる小堤城跡及びそれに付属する館南園遺跡の屋敷地では、渥美・常滑・古瀬戸の陶器や、中国産の陶磁器類など搬入品が多く出土している。これに対し、山元町域の中世集落では、地域の拠点集落と考えられる谷原遺跡であっても、出土陶器類に搬入品が含まれる割合が極めて低い傾向にあり、領主クラスの集落と想定される館南園遺跡との差は出土遺物の面で明らかである。こうした傾向を踏まえ、今回の調査で出土した陶器類についてみると、鷺足館跡では、遺物自体の出土数は少ないものの、出土陶器は搬入品(常滑・古瀬戸)が多く、在地産の中世陶器はわずかという内容であった。このことから、鷺足館跡は、山元町域の中世遺跡の中でも、出土遺物の面で明らかに優位な位置にあったといえる。鷺足館跡の運営は、こうした搬入品を保持できた階層で、山元町域でも上位に位置する有力層が主体となった可能性が考えられる。

(3) まとめ

中世における亶理郡は、武石氏(後に亶理氏と改称)により領有された地域にあたる(宮城県史編纂委員会1957・亶理町史編纂委員会1975)。鷺足館跡が位置する山元町域もその範囲内に含まれ、鷺足館跡を含めた周辺の城館の築城には武石氏が関わっていたと考えられる。山元町北半地域には北から大平館跡、小平館跡、鷺足館跡、山寺館跡、浅生原館跡・山下館跡が所在する。この中で、鷺足館跡は最も標高の高い地点に立地し、そこからの眺望は町内全域を見渡すことができる地理的環境にある。周辺の館跡の本格的な発掘調査が実施されていない中、鷺足館跡の位置づけを行うことは難しいが、その立地からみて、鷺足館跡は周辺の交通や監視を行う重要な役割を担った館跡に位置づけられていた可能性が高い。その運営主体は、出土遺物の面から、山元町域の中世遺跡の中でも上位の階層であった集団であったとみられる。今回の調査範囲では、館跡の東端に位置する平場は、斜面に設けら

れた腰曲輪の位置などから、南側の防御性が高めた構造であることが確認された。このことから、鷲足館跡は町城南部の監視に重きを置いた館跡であったと推定される。

今回の調査では、鷲足館跡の一部の調査を行ったにすぎない。調査範囲外には、主郭や副郭とみられる平場の他、多くの遺構が残されている。鷲足館跡の具体的な位置づけについては、今後の調査や周辺の中世遺跡の調査成果を待って再度行う必要がある。

(註)

- 1) 中世の陶器の産地・年代、かわらけの年代については、佐藤洋氏（仙台市教育委員会）にご教示いただいた。
- 2) 和鏡の特徴や年代については、久保智康氏にご教示いただいた。
- 3) 「曲輪」や「腰曲輪」などの中世山城の遺構に関する用語については、『城館調査の手引き』（中井2016）を参考にした。
なお、今回の調査範囲では急斜面が多く確認され、これらの中には、山を切ってつくられた防御施設である「切岸」が含まれている可能性がある。しかし、現地での土層観察等で確実に切岸として認定できる根拠が少なかつたため、本報告では、「切岸」の用語の使用は避け、急斜面または斜面として報告することとした。
- 4) 近年発掘調査が実施された南三陸町の新井田館跡では、掘立柱建物内部で土坑状に掘られた底面に焼け面が伴う焼成遺構が確認されており、その性格について閉炉裏が想定されている（南三陸町教委2016）。今回の鷲足館跡の調査で発見された焼け面を伴う土坑は、掘立柱建物跡の範囲外で確認されており、これらとは別の用途が想定される。

引用・参考文献

- 青山博樹ほか 2000 『宮城県山元町合戦原古墳群の測量調査』『宮城考古学』第2号
- 伊藤晶文 2006 『山元町における歴史時代の海岸線変化』『鹿児島大学教育学部紀要自然科学編』57
- 飯村均 2009 『中世奥羽のムラとマチ 考古学が拓く歴史』東京博学出版会
- 飯村均 2015 『東北中世叢書8 中世奥羽の考古学』高志書院
- 小野正敏編 2001 『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会
- 山小正忠・竹原秀雄編 1967 『新装標準土系帖』2010年版
- 菊地逸夫 2003 『一本杉遺跡』『中世奥羽の土器・陶磁器』高志書院
- 委原滋郎 1976 『須恵系土器について』『東北考古学の諸問題』東北考古学会
- 久保康隆 1999 『中世・近世の鏡 日本の美術3 No. 394』至文堂
- 栗原市教育委員会 2008 『三玉城跡』栗原市文化財調査報告書第8集
- 小井川和夫 1984 『いづゆる赤坂土器について』『東北歴史資料館研究紀要』第10巻
- 佐藤洋 2003 『隼奥のかわらけ (2) 隼奥南部2 宮城県』『中世奥羽の土器・陶磁器』高志書院
- 紫桃正隆 1974 『史料 仙台領内古城・館』第四巻
- 仙臺書局出版協会 1893 『仙臺書書 封内風土記 巻ノ九』
- 仙臺書局刊行会 1923 『仙臺古城記』『仙臺書書』第4巻
- 多賀城市教育委員会 1990 『坂井館跡ほか』第4・11次調査報告『多賀城市文化財調査報告書第23集』
- 多賀城市教育委員会 2014 『坂井館跡ほか』『多賀城市文化財調査報告書第115集』
- 東北中世考古学会編 2001 『藤立と惣穴』高志書院
- 富谷町教育委員会 2001 『富谷館跡坐落調査報告書』富谷町文化財調査報告書第3集
- 中井均 2016 『城館調査の手引き』山川出版社
- 中野政樹 1969 『和魂 日本の美術 10・11 No. 42』至文堂
- 萩原三雄・中井均編 2014 『中世城館の考古学』高志書院
- 初鹿野博之 2013 『宮城県山元町内平遺跡・上宮北遺跡』『第26回古代城館官衙遺跡検討会資料集』
- 初鹿野博之 2015a 『熊の作遺跡と五里郡南部の遺跡群』『第41回古代城館官衙遺跡検討会資料集』
- 初鹿野博之 2015b 『熊の作遺跡と五里郡南部の遺跡群』『古代国家形成期の地域社会—山元町の調査から—』
- 平成27年度宮城県考古学会総会・研究発表会資料
- 平田植分 2003 『隼奥のかわらけ (1) 隼奥南部1-福島県』『中世奥羽の土器・陶磁器』高志書院
- 福島県考古学会中近世部会編 2000 『東北地方南部における中近世集落の諸問題』
- 藤井良祐 1995 『瀬戸』『瀬戸川をめぐる中世陶器の世界』資料集 瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤本直子・松本秀明 2012 『阿武隈川付近における浜埋列に関する再検討』『人間情報学研究』第17巻
- 藤沼邦雄ほか 1981 『日本城郭体系 第3巻 山形・宮城・福島』新人物往来社
- 文化庁文化財部記念物課 2010a 『発掘調査のてびき—集落遺跡発掘編—』
- 文化庁文化財部記念物課 2010b 『発掘調査のてびき—整理・報告書編—』
- 文化庁文化財部記念物課 2013 『発掘調査のてびき—各種遺構調査編—』
- 宮城県企画部土地対策課編 1988 『土地分類基本調査 角田』
- 宮城県教育委員会 1991 『合戦原遺跡』『宮城県文化財調査報告書第140集』
- 宮城県教育委員会 1991 『館南遺跡跡』『小境城跡』『館南遺跡跡ほか』宮城県文化財調査報告書第144集
- 宮城県教育委員会 1993 『孤塚遺跡』『孤塚遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第157集
- 宮城県教育委員会 1996 『一本杉聚群跡』宮城県文化財調査報告書第172集
- 宮城県教育委員会 1999 『海蔵庵板跡跡』宮城県文化財調査報告書第188集
- 宮城県教育委員会 2002 『館の内遺跡』『名生館遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第188集
- 宮城県教育委員会 2012 『西石山遺跡跡ほか—常磐自動車道建設関連遺跡調査報告書Ⅰ—』宮城県文化財調査報告書第230集
- 宮城県教育委員会 2015 『滝沢遺跡跡ほか—常磐自動車道建設関連遺跡調査報告書Ⅱ—』宮城県文化財調査報告書第229集
- 宮城県教育委員会 2016 『熊の作遺跡跡ほか—常磐線復旧関連遺跡調査報告書—』宮城県文化財調査報告書第243集
- 宮城県考古学会編 2011 『平成23年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
- 宮城県考古学会編 2012 『平成24年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
- 宮城県考古学会編 2013 『平成25年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
- 宮城県考古学会編 2014 『平成26年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
- 宮城県考古学会編 2015 『平成27年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
- 宮城県考古学会編 2016 『平成28年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
- 宮城県史編纂委員会 1957 『宮城県史1 (古代・中世史)』
- 宮城県史編纂委員会 1970 『仙臺領古城書立之鑑』『宮城県史32 (資料編9)』
- 南三陸町教育委員会 2016 『新井田館跡』南三陸町文化財調査報告書第1集
- 山田隆博 2015a 『山元町中筋遺跡の津波痕跡』『宮城考古学』第17号
- 山田隆博 2015b 『山元町の復興調査と合戦原遺跡の横穴古墳群』『古代国家形成期の地域社会—山元町の調査から—』
- 平成27年度宮城県考古学会総会・研究発表会資料
- 山田隆博 2017 『宮城県山元町 合戦原遺跡の調査—横穴古墳群の調査を中心に—』『一般社団法人日本考古学協会 2017年度宮崎大会資料集』
- 山元町教育委員会 1995 『孤塚遺跡』山元町文化財調査報告書
- 山元町教育委員会 2004 『北経塚遺跡』山元町文化財調査報告書第3集
- 山元町教育委員会 2010 『北経塚遺跡』山元町文化財調査報告書第4集
- 山元町教育委員会 2013 『北経塚遺跡』山元町文化財調査報告書第5集
- 山元町教育委員会 2014a 『的場遺跡』山元町文化財調査報告書第6集
- 山元町教育委員会 2014b 『石垣遺跡』山元町文化財調査報告書第7集
- 山元町教育委員会 2014c 『日向遺跡』山元町文化財調査報告書第8集
- 山元町教育委員会 2015a 『日向遺跡』山元町文化財調査報告書第9集
- 山元町教育委員会 2015b 『中筋遺跡』山元町文化財調査報告書第10集
- 山元町教育委員会 2015c 『小平館跡Ⅰ』山元町文化財調査報告書第11集
- 山元町教育委員会 2016a 『谷原遺跡Ⅰ』山元町文化財調査報告書第12集
- 山元町教育委員会 2016b 『谷原遺跡Ⅱ』山元町文化財調査報告書第13集
- 山元町教育委員会 2017a 『北経塚遺跡』山元町文化財調査報告書第14集
- 山元町教育委員会 2017b 『日向遺跡 第2次発掘調査』山元町文化財調査報告書第15集
- 山元町教育委員会 2018 『川内遺跡』山元町文化財調査報告書第16集
- 山元町誌編纂委員会 1971 『山元町誌』
- 山元町誌編纂委員会 1986 『山元町誌 二巻』
- 五里町史編纂委員会 1975 『五里町史 上巻』

報告書抄録

ふりがな	わしあしたてあと							
書名	鷺足館跡 第1～5次発掘調査							
副書名	土砂採取事業に係る発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	山元町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第17集							
編著者名	山田隆博							
編集機関	山元町教育委員会							
所在地	〒989-2203 宮城県亶理郡山元町浅生原字日向12-1 電話 0223-37-5116							
発行年月日	平成30(2018)年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
わしあしたてあと 鷺足館跡	宮城県 亶理郡 山元町 鷺足字 あしたて 大館	043621	14043	37度 58分 23秒	140度 51分 31秒	2013.02.22～03.08 2013.05.22～06.10 2014.01.06～03.12 2014.09.08～10.16 2015.01.13～01.16 2017.02.13～03.10	10,320 m ²	鷺足地区土砂採取工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
鷺足館跡	散布地	縄文		-		縄文土器		
	散布地	古代		-		土師器、須恵器		
	城館	中世		平場、堀切、土塁、掘立柱建物跡、柱穴列跡、土坑、通路跡、門跡		中世陶器・施軸陶器・かわらけ・和鏡		
要約	<p>鷺足館跡は、宮城県亶理郡山元町鷺足字大館に所在する中世の山城である。遺跡は町域の北西部に位置し、海岸線からは5km余り西方にある標高50～130mの丘陵地に立地する。</p> <p>今回の調査(A～E区)では、中世山城の南東部分の一部の平場の調査を実施した。検出した遺構は、平場20ヶ所、整地層、土塁跡1条、溝跡10条、掘立柱建物跡33棟、柱穴列跡70条、土坑7基、柱穴・小穴多数である。遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、中世陶器(在地、常滑)、施軸陶器(古瀬戸)、かわらけ、和鏡(州浜菊花双鳥鏡)、砥石などが出土した。検出した遺構の年代は、出土遺物等の特徴から、13世紀後半頃から16世紀代頃のものと考えられる。鷺足館跡が所在する亶理郡では、中世城館の調査事例が少なく、亶理郡の中世史を考える上で貴重な成果を得ることができた。</p>							

山元町文化財調査報告書第17集

鷺足館跡

第1～5次発掘調査

—土形採取事業に係る発掘調査報告書—

平成30年3月31日 発行

発行 山元町教育委員会

宮城県巨野郡山元町民生源字日向12-1

TEL0223-37-5116 / FAX0223-37-0119

印刷 株式会社 東北プリント

宮城県仙台市青葉区立町24-24
